

# 有価証券報告書

事業年度 自 平成21年4月1日  
(第93期) 至 平成22年3月31日

**三井住友海上火災保険株式会社**

(E03824)

第93期（自平成21年4月1日 至平成22年3月31日）

---

# 有価証券報告書

---

- 1 本書は金融商品取引法第24条第1項に基づく有価証券報告書を、同法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用して、平成22年6月29日に提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 2 本書には、上記の方法により提出した有価証券報告書の添付書類は含まれておりませんが、監査報告書は末尾に綴じ込んでおります。

三井住友海上火災保険株式会社

# 目次

頁

表紙

第一部 企業情報	2
第1 企業の概況	2
1 主要な経営指標等の推移	2
2 沿革	4
3 事業の内容	5
4 関係会社の状況	7
5 従業員の状況	9
第2 事業の状況	10
1 業績等の概要	10
2 保険引受及び資産運用の状況	11
3 対処すべき課題	23
4 事業等のリスク	23
5 経営上の重要な契約等	25
6 研究開発活動	25
7 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	26
第3 設備の状況	30
1 設備投資等の概要	30
2 主要な設備の状況	31
3 設備の新設、除却等の計画	33
第4 提出会社の状況	34
1 株式等の状況	34
2 自己株式の取得等の状況	36
3 配当政策	37
4 株価の推移	37
5 役員の状況	38
6 コーポレート・ガバナンスの状況等	44
第5 経理の状況	51
1 連結財務諸表等	52
2 財務諸表等	106
第6 提出会社の株式事務の概要	134
第7 提出会社の参考情報	135
1 提出会社の親会社等の情報	135
2 その他の参考情報	135
第二部 提出会社の保証会社等の情報	136

[監査報告書]

## 【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成22年6月29日
【事業年度】	第93期（自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日）
【会社名】	三井住友海上火災保険株式会社
【英訳名】	Mitsui Sumitomo Insurance Company, Limited
【代表者の役職氏名】	取締役社長 柄澤 康喜
【本店の所在の場所】	東京都中央区新川二丁目27番2号
【電話番号】	東京（3297）1111（大代表）
【事務連絡者氏名】	総務部次長兼法務チーム長 菅野 博康
【最寄りの連絡場所】	東京都中央区新川二丁目27番2号
【電話番号】	東京（3297）1111（大代表）
【事務連絡者氏名】	総務部次長兼法務チーム長 菅野 博康
【縦覧に供する場所】	金融商品取引法の規定による備置場所はありません。

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

(1) 最近5連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移

回次	第89期	第90期	第91期	第92期	第93期
決算年月	平成18年3月	平成19年3月	平成20年3月	平成21年3月	平成22年3月
経常収益 (百万円)	2,106,874	2,117,072	2,137,603	1,961,297	1,846,886
正味収入保険料 (百万円)	1,464,107	1,492,808	1,541,032	1,423,067	1,361,758
経常利益又は 経常損失 (△) (百万円)	127,710	91,684	60,866	△5,854	49,650
当期純利益 (百万円)	71,660	60,796	40,027	14,972	34,815
純資産額 (百万円)	2,027,469	2,182,877	1,671,517	928,094	1,206,255
総資産額 (百万円)	8,592,873	9,011,652	8,397,718	6,297,181	6,290,327
1株当たり純資産額 (円)	1,427.17	1,536.71	1,178.48	653.75	855.92
1株当たり当期純利益金額 (円)	50.27	42.82	28.37	10.66	24.79
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益金額 (円)	—	—	—	—	—
自己資本比率 (%)	23.60	24.06	19.71	14.58	19.11
自己資本利益率 (%)	4.11	2.90	2.09	1.16	3.28
株価収益率 (倍)	31.85	34.54	35.50	—	—
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	313,007	227,417	189,688	4,683	△123,343
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△264,352	△220,522	△185,621	142,621	147,345
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△33,580	△37,358	△329	△15,059	△109,041
現金及び現金同等物の 期末残高 (百万円)	386,179	365,350	364,081	438,869	361,067
従業員数 (人) 〔外、平均臨時雇用者数〕	18,154 〔—〕	18,882 〔—〕	20,237 〔—〕	20,024 〔—〕	20,166 〔4,034〕

(注) 1 純資産額の算定にあたり、第90期から「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準」(企業会計基準第5号 平成17年12月9日)及び「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準等の適用指針」(企業会計基準適用指針第8号 平成17年12月9日)を適用しております。

2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3 株価収益率については、提出会社の株式が平成20年3月26日付で上場廃止となったため、第91期は平成20年3月25日の東京証券取引所における終値によって算出しており、第92期以降は記載しておりません。

## (2) 提出会社の最近5事業年度に係る主要な経営指標等の推移

回次		第89期	第90期	第91期	第92期	第93期
決算年月		平成18年3月	平成19年3月	平成20年3月	平成21年3月	平成22年3月
正味収入保険料	(百万円)	1,332,837	1,325,011	1,311,345	1,234,011	1,203,007
(対前期増減(△)率)	(%)	(1.41)	(△0.59)	(△1.03)	(△5.90)	(△2.51)
経常利益	(百万円)	115,489	80,158	55,018	25,532	35,786
(対前期増減(△)率)	(%)	(45.48)	(△30.59)	(△31.36)	(△53.59)	(40.16)
当期純利益	(百万円)	64,842	55,352	38,365	46,580	25,458
(対前期増減(△)率)	(%)	(6.71)	(△14.64)	(△30.69)	(21.41)	(△45.35)
正味損害率	(%)	59.90	63.12	64.92	69.77	70.36
正味事業費率	(%)	30.89	30.77	31.65	34.12	34.49
利息及び配当金収入	(百万円)	136,903	151,243	154,500	137,877	117,477
(対前期増減(△)率)	(%)	(23.92)	(10.47)	(2.15)	(△10.76)	(△14.80)
運用資産利回り	(%)	2.70	2.92	2.97	2.67	2.38
(インカム利回り)	(%)					
資産運用利回り	(%)	3.38	3.50	2.75	1.13	2.43
(実現利回り)	(%)					
資本金	(百万円)	139,595	139,595	139,595	139,595	139,595
(発行済株式総数)	(千株)	(1,513,184)	(1,513,184)	(1,404,402)	(1,404,402)	(1,404,402)
純資産額	(百万円)	2,006,423	2,127,884	1,609,065	941,431	1,205,315
総資産額	(百万円)	7,537,443	7,744,782	6,968,568	5,977,347	5,971,982
1株当たり純資産額	(円)	1,412.35	1,507.85	1,145.72	670.34	858.24
1株当たり配当額	(円)	13.00	14.00	16.00	103.84	27.32
(うち1株当たり中間配当額)	(円)	(4.00)	(6.00)	(7.00)	(—)	(—)
1株当たり当期純利益金額	(円)	45.49	38.98	27.19	33.16	18.12
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額	(円)	—	—	—	—	—
自己資本比率	(%)	26.62	27.48	23.09	15.75	20.18
自己資本利益率	(%)	3.75	2.68	2.05	3.65	2.37
株価収益率	(倍)	35.19	37.94	37.04	—	—
配当性向	(%)	28.58	35.92	58.85	313.15	150.77
従業員数	(人)	13,458	13,414	14,421	15,105	15,151
[外、平均臨時雇用者数]		[—]	[—]	[—]	[—]	[3,747]

(注) 1 正味損害率＝(正味支払保険金＋損害調査費)÷正味収入保険料

2 正味事業費率＝(諸手数料及び集金費＋保険引受に係る営業費及び一般管理費)÷正味収入保険料

3 運用資産利回り(インカム利回り)＝利息及び配当金収入÷平均運用額

4 資産運用利回り(実現利回り)＝資産運用損益÷平均運用額

5 純資産額の算定にあたり、第90期から「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準」(企業会計基準第5号 平成17年12月9日)及び「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準等の適用指針」(企業会計基準適用指針第8号 平成17年12月9日)を適用しております。

6 第92期の1株当たり配当額(103円84銭)は、現物配当(69円49銭)を含んでおります。

7 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

8 株価収益率については、提出会社の株式が平成20年3月26日付で上場廃止となったため、第91期は平成20年3月25日の東京証券取引所における終値によって算出しており、第92期以降は記載しておりません。

## 2【沿革】

大正7年10月	東京において、当時の三井物産株式会社関係者を中心に一般財界人が参加して大正海上火災保険株式会社を設立（資本金500万円）
大正7年12月	営業開始
昭和16年11月	新日本火災海上保険株式会社を吸収合併
昭和19年6月	三井火災海上保険株式会社を吸収合併
昭和47年6月	Concordia Companhia de Seguros S.A.（現在のMitsui Sumitomo Seguros S/A.）に資本参加
昭和47年7月	Taisho Marine and Fire Insurance Company (U.K.),Ltd.（現在のMitsui Sumitomo Insurance Company (Europe), Limited）を設立
昭和50年12月	P.T.Asuransi Insindo Taisho（現在のPT. Asuransi MSIG Indonesia）を設立
昭和54年4月	Taisho (Malaysia) Insurance Sdn. Bhd.（現在のMSIG Insurance (Malaysia)Bhd.）を設立
昭和56年2月	Hong Kong and Orient General Insurance Co.,Ltd.（現在のMitsui Sumitomo Insurance Company (Hong Kong), Limited）を設立
昭和63年1月	Taisho Marine & Fire Insurance Company of America（現在のMitsui Sumitomo Insurance USA Inc.）を設立
平成2年12月	Taisho Marine and Fire Insurance(Asia)Pte. Limited（現在のMitsui Sumitomo Insurance (Singapore) Pte Ltd）を設立
平成2年12月	株式会社三井海上キャピタル（現在の三井住友海上キャピタル株式会社）を設立
平成3年4月	三井海上火災保険株式会社に商号変更
平成8年8月	三井みらい生命保険株式会社（平成13年10月1日に住友海上ゆうゆう生命保険株式会社（現在の三井住友海上きらめき生命保険株式会社）と合併し、解散）を設立し、平成8年10月より生命保険事業を開始
平成9年9月	MM Reinsurance Company Limited（現在のMS Frontier Reinsurance Limited）を設立
平成12年1月	Mitsui Marine Corporate Capital Limited（現在のMSI Corporate Capital Limited）を設立
平成13年10月	住友海上火災保険株式会社と合併し、三井住友海上火災保険株式会社に商号変更 当該合併に伴う子会社間の合併等により、新たに、三井住友海上きらめき生命保険株式会社、Mitsui Sumitomo Reinsurance Limited及びSumitomo Marine & Fire Insurance Company of America（現在のMitsui Sumitomo Insurance Company of America）が主要な連結子会社となる
平成16年4月	Mitsui Sumitomo Insurance (London) Limitedが主要な連結子会社となる
平成16年9月	Aviva General Insurance Limited（現在のMSIG Insurance (Hong Kong) Limited）を設立
平成16年9月	Aviva General Insurance Pte. Ltd.（現在のMSIG Insurance (Singapore) Pte. Ltd.）を設立
平成17年2月	Aviva Insurance(Thai)Company Limited（現在のMSIG Insurance (Thailand) Co., Ltd.）に資本参加
平成17年9月	Mingtai Fire & Marine Insurance Co., Ltd.（現在のMSIG Mingtai Insurance Co., Ltd）に資本参加
平成17年9月	Aviva Insurance Berhad（現在のMSIG Berhad）に資本参加
平成19年3月	三井ダイレクト損害保険株式会社が主要な連結子会社となる
平成19年9月	Mitsui Sumitomo Insurance (China) Company Limited を設立
平成20年4月	株式移転により完全親会社「三井住友海上グループホールディングス株式会社」を設立
平成20年7月	当社が保有する三井住友海上きらめき生命保険株式会社、三井ダイレクト損害保険株式会社及び三井住友海上メットライフ生命保険株式会社の株式のすべてを三井住友海上グループホールディングス株式会社に配当
平成21年2月	MSIG Insurance (Vietnam) Company Limitedを設立
平成21年9月	MSIG Insurance (Lao) Co., Ltd.を設立

(注) 三井住友海上グループホールディングス株式会社は、平成22年4月1日付で、MS & AD インシュアランスグループホールディングス株式会社に商号を変更しております。

### 3 【事業の内容】

当社及び当社の子会社(95社)、関連会社(16社)は、親会社である三井住友海上グループホールディングス株式会社(現MS&ADインシュアランスグループホールディングス株式会社)のもと、損害保険事業及び損害保険関連事業を営んでおり、その主な事業の内容及び当該事業における各社の位置付けは次のとおりであります。

なお、親会社の子会社である三井ダイレクト損害保険株式会社は損害保険事業を、親会社の子会社である三井住友海上きらめき生命保険株式会社及び親会社の関連会社である三井住友海上メットライフ生命保険株式会社は生命保険事業を営んでおります。

<事業の内容>

[損害保険事業及び損害保険関連事業]

(1) 損害保険事業

日本国内では当社1社が、諸外国では当社のほかMitsui Sumitomo Insurance USA Inc.、Mitsui Sumitomo Insurance Company of America、Mitsui Sumitomo Insurance Company (Europe), Limited、Mitsui Sumitomo Insurance (Singapore) Pte Ltd等子会社19社及び関連会社4社が損害保険事業を行っております。

(2) 損害保険関連事業

日本国内では三井住友海上損害調査株式会社等子会社17社及び関連会社1社が、諸外国ではMSIG Holdings (Americas), Inc. 等子会社33社及び関連会社4社が損害保険関連事業を行っております。

(3) 資産運用関連事業

① 投信・投資顧問事業

日本国内では三井住友アセットマネジメント株式会社(関連会社)が投信・投資顧問事業を、諸外国では関連会社3社が投資顧問事業を行っております。

② その他の資産運用関連事業

日本国内では三井住友海上キャピタル株式会社等子会社14社が、諸外国では子会社3社及び関連会社2社がその他の資産運用関連事業を行っております。

(4) 総務・事務代行等関連事業

子会社9社及び関連会社1社が主に当社からの委託を受けて以下の事業を行っております。

① 総務関連事業

MSKビルサービス株式会社(不動産管理業務)等子会社2社及び関連会社1社が総務関連事業を行っております。

② 事務代行・計算関連事業

MSK情報サービス株式会社(コンピュータシステムの運用業務)及び三井住友海上システムズ株式会社(コンピュータソフトウェアの開発業務)の子会社2社が事務代行・計算関連事業を行っております。

③ 研修事業

三井住友海上エイジェンシー・サービス株式会社(子会社)が研修事業を行っております。

④ 人材派遣事業

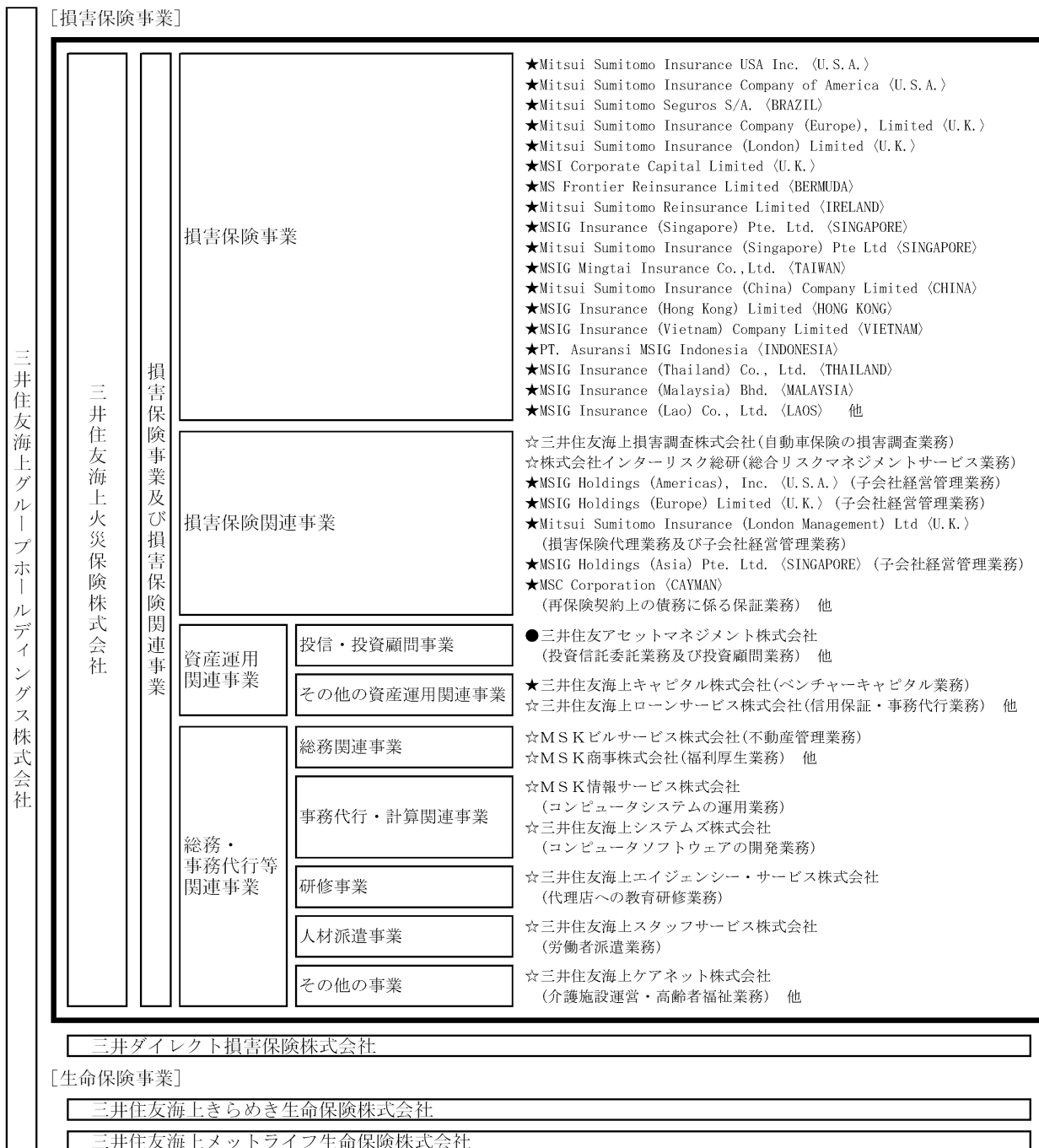
三井住友海上スタッフサービス株式会社(子会社)が人材派遣事業を行っております。

⑤ その他の事業

子会社等が行っているその他の事業として、三井住友海上ケアネット株式会社(子会社)の介護施設運営、高齢者福祉業務等があります。



<事業の概要図>



(注) 1 各記号の意味は次のとおりであります。★：連結子会社 ☆：非連結子会社 ●：持分法適用関連会社  
 2 三井住友海上グループホールディングス株式会社は、平成22年4月1日付で、MS&ADインシュアランスグループホールディングス株式会社に商号を変更しております。

#### 4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金	主要な事業の内容	議決権の所有（又は被所有）割合	関係内容
(親会社) 三井住友海上グループホールディングス株式会社	東京都中央区	100,000百万円	持株会社	被所有 100.0%	当社と経営管理契約を締結しております。 当社より建物の一部を賃借しております。 役員の兼任等 12名
(連結子会社) 三井住友海上キャピタル株式会社	東京都中央区	1,000百万円	損害保険事業	100.0%	役員の兼任等 7名
MSIG Holdings (Americas), Inc.	アメリカ合衆国 ニューヨーク	3,600千 米ドル	損害保険事業	100.0%	役員の兼任等 5名
Mitsui Sumitomo Insurance USA Inc.	アメリカ合衆国 ニューヨーク	5,000千 米ドル	損害保険事業	100.0% (100.0%)	当社と再保険取引を行っております。 役員の兼任等 9名
Mitsui Sumitomo Insurance Company of America	アメリカ合衆国 ニューヨーク	5,000千 米ドル	損害保険事業	100.0% (100.0%)	当社と再保険取引を行っております。 役員の兼任等 9名
Mitsui Sumitomo Seguros S/A.	ブラジル サンパウロ	281,368千 ブラジルリアル	損害保険事業	99.0% (0.1%)	当社と再保険取引を行っております。 役員の兼任等 2名
MSIG Holdings (Europe) Limited	イギリス ロンドン	391,843千 英ポンド	損害保険事業	100.0%	役員の兼任等 4名
Mitsui Sumitomo Insurance (London Management) Ltd	イギリス ロンドン	35,960千 英ポンド	損害保険事業	100.0% (100.0%)	役員の兼任等 4名
Mitsui Sumitomo Insurance Company (Europe), Limited	イギリス ロンドン	66,900千 英ポンド	損害保険事業	100.0% (100.0%)	当社と再保険取引を行っております。 役員の兼任等 7名
Mitsui Sumitomo Insurance (London) Limited	イギリス ロンドン	379,107千 英ポンド	損害保険事業	100.0% (100.0%)	役員の兼任等 4名
MSI Corporate Capital Limited	イギリス ロンドン	5,200千 英ポンド	損害保険事業	100.0% (100.0%)	役員の兼任等 2名
MS Frontier Reinsurance Limited	バミューダ ハミルトン	294,588千 米ドル	損害保険事業	100.0%	当社と再保険取引を行っております。 役員の兼任等 4名
Mitsui Sumitomo Reinsurance Limited	アイルランド ダブリン	20,000千 ユーロ	損害保険事業	100.0% (100.0%)	当社と再保険取引を行っております。 役員の兼任等 5名
MSIG Holdings (Asia) Pte. Ltd.	シンガポール シンガポール	673,515千 シンガポールドル	損害保険事業	100.0%	役員の兼任等 4名
MSIG Insurance (Singapore) Pte. Ltd.	シンガポール シンガポール	263,442千 シンガポールドル	損害保険事業	100.0% (100.0%)	当社と再保険取引を行っております。 役員の兼任等 1名
Mitsui Sumitomo Insurance (Singapore) Pte Ltd	シンガポール シンガポール	25,000千 シンガポールドル	損害保険事業	100.0% (100.0%)	当社と再保険取引を行っております。 役員の兼任等 3名
MSIG Mingtai Insurance Co., Ltd.	台湾 台北	2,535百万 新台幣ドル	損害保険事業	100.0%	当社と再保険取引を行っております。 役員の兼任等 4名
Mitsui Sumitomo Insurance (China) Company Limited	中華人民共和国 上海	500,000千 中国元	損害保険事業	100.0%	当社と再保険取引を行っております。 役員の兼任等 9名
MSIG Insurance (Hong Kong) Limited	中華人民共和国 香港	1,625,842千 香港ドル	損害保険事業	100.0% (100.0%)	当社と再保険取引を行っております。 役員の兼任等 2名
MSIG Insurance (Vietnam) Company Limited	ベトナム ハノイ	300,000百万 ベトナムドン	損害保険事業	100.0%	当社と再保険取引を行っております。 役員の兼任等 5名
PT. Asuransi MSIG Indonesia	インドネシア ジャカルタ	40,000百万 インドネシアルピア	損害保険事業	80.0% (80.0%)	当社と再保険取引を行っております。 役員の兼任等 4名
MSIG Insurance (Thailand) Co., Ltd.	タイ バンコク	142,666千 タイバーツ	損害保険事業	80.3% (80.3%)	当社と再保険取引を行っております。
MSIG Insurance (Malaysia) Bhd.	マレーシア クアラルンプール	212,000千 マレーシアリングギ	損害保険事業	93.5% (50.0%) [2.1%]	当社と再保険取引を行っております。 役員の兼任等 2名
MSIG Insurance (Lao) Co., Ltd.	ラオス ビエンチャン	2,000千 米ドル	損害保険事業	51.0% (51.0%)	役員の兼任等 2名

名称	住所	資本金	主要な事業の内容	議決権の所有（又は被所有）割合	関係内容
MSC Corporation	ケイマン グランドケイマン	1千 米ドル	損害保険 事業	— [100.0%]	当社の再保険契約上の債務を保証しております。
その他9社					
(持分法適用関連会社) 三井住友アセットマネジメン ト株式会社	東京都港区	2,000百万円	損害保険 事業	27.5%	当社が資産運用の一部を委託しております。 当社が投信の販売を行っております。 役員の兼任等 2名
その他2社					

- (注) 1 三井住友海上グループホールディングス株式会社は、平成22年4月1日付で、MS & ADインシュアランスグループホールディングス株式会社に商号を変更しております。
- 2 Mitsui Sumitomo Seguros S/A.、MSIG Holdings (Europe) Limited、Mitsui Sumitomo Insurance Company (Europe), Limited、Mitsui Sumitomo Insurance (London) Limited、MS Frontier Reinsurance Limited、MSIG Holdings (Asia) Pte. Ltd.、MSIG Insurance (Singapore) Pte. Ltd. 及びMSIG Insurance (Hong Kong) Limitedは、特定子会社に該当しております。
- 3 上記関係会社のうち、有価証券報告書を提出している会社は、三井住友海上グループホールディングス株式会社であります。
- 4 主要な事業の内容欄には、事業の種類別セグメントの名称を記載しております。
- 5 議決権の所有割合の（ ）内は、間接所有割合で内数、[ ]内は、緊密な者又は同意している者の所有割合で外数であります。
- 6 MSC Corporationに対する持分は100分の50以下ではありますが、実質的に支配しているため子会社としたものであります。

## 5 【従業員の状況】

### (1) 連結会社の状況

(平成22年3月31日現在)

事業の種類別セグメントの名称	従業員数（人）
損害保険事業	20,166 [4,034]
合計	20,166 [4,034]

- (注) 1 従業員数は就業人員数（当社グループからグループ外への出向者を除き、グループ外から当社グループへの出向者を含む。）であり、臨時従業員数は[ ]内に年間の平均人員を外数で記載しております。
- 2 臨時従業員には、パートタイマーを含み、派遣社員を除いております。

### (2) 提出会社の状況

(平成22年3月31日現在)

従業員数（人）	平均年齢（歳）	平均勤続年数（年）	平均年間給与（円）
15,151 [3,747]	38.2	11.4	7,088,292

- (注) 1 従業員数は就業人員数（当社から社外への出向者を除き、社外から当社への出向者を含む。）であり、執行役員及び退職者を含んでおりません。臨時従業員数は[ ]内に年間の平均人員を外数で記載しております。
- 2 臨時従業員には、パートタイマーを含み、派遣社員を除いております。
- 3 平均年齢及び平均勤続年数は小数点以下第2位を切り捨てて小数点以下第1位まで表示しております。
- 4 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。
- 5 当社は60歳定年制を採用しております。ただし、会社が必要と認めるときは、定年後も期間を定めて再雇用することがあります。

### (3) 労働組合の状況

当社グループの主な労働組合としては、三井住友海上労働組合（組合員数 18,299名）、全日本損害保険労働組合三井住友支部（組合員数 5名）の2組合が組織されております。なお、労使関係について特に記載すべき事項はありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【業績等の概要】

#### (1) 業績

当期のわが国経済は、期半ば以降、輸出の増加、設備投資や個人消費の持ち直しなど、一部に緩やかな回復の動きが見られましたが、企業収益の本格的な改善には至らず、深刻な雇用情勢が続くなど、全体としては低調に推移しました。

損害保険業界におきましても、このような景気動向に加え、自動車保険や海上保険の低迷などから、保険料収入が減少するなど、引き続き厳しい事業環境におかれましては。

当社におきましては、平成19年度からスタートいたしました中期経営計画「ニューチャレンジ10」の3年目を迎え、三井住友海上グループホールディングス株式会社（現MS&ADインシュアランスグループホールディングス株式会社）による経営管理のもと、企業品質を競争力として永続的に発展する世界トップ水準の保険・金融グループを目指して、「品質」の向上、お客さまからの「信頼」の獲得、事業の「成長」という好循環を通じたCSR（企業の社会的責任）経営を積極的に進め、この結果、当連結会計年度の業績は次のとおりとなりました。

経常収益は、保険引受収益が1兆7,204億円、資産運用収益が1,195億円、その他経常収益が68億円となった結果、1兆8,468億円となりました。一方、経常費用は、保険引受費用が1兆4,818億円、資産運用費用が465億円、営業費及び一般管理費が2,623億円、その他経常費用が64億円となった結果、1兆7,972億円となりました。

以上の結果、経常損益は前連結会計年度に比べ555億円増加し、496億円となりました。経常損益に特別利益、特別損失、法人税及び住民税などを加減した当期純利益は、前連結会計年度に比べ198億円増加し、348億円となりました。

所在地別セグメントの業績は、次のとおりであります。

経常収益は日本が1兆6,374億円、アジアが730億円、欧州が1,059億円、米州が439億円となり、経常利益は、日本が357億円、アジアが81億円、欧州が19億円、米州が103億円となりました。日本の内部取引消去前の経常収益シェアは88%と大きなウェイトを占めております。

#### (2) キャッシュ・フロー

当連結会計年度のキャッシュ・フローにつきましては、営業活動によるキャッシュ・フローが、保険料の収入額が減少したことや利息及び配当金の受取額が減少したことなどにより、前連結会計年度に比べ1,280億円減少し、△1,233億円となりました。投資活動によるキャッシュ・フローは前連結会計年度に比べ47億円増加し、1,473億円となりました。財務活動によるキャッシュ・フローは社債の償還による支出などにより、前連結会計年度に比べ939億円減少し、△1,090億円となりました。これらの結果、当連結会計年度末の現金及び現金同等物は前連結会計年度末より778億円減少し、3,610億円となりました。

## 2【保険引受及び資産運用の状況】

### 損害保険事業の状況

#### (1) 保険引受業務

##### ① 元受正味保険料（含む収入積立保険料）

区分	前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)			当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)		
	金額 (百万円)	構成比 (%)	対前年増減 (△)率 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	対前年増減 (△)率 (%)
火災	314,513	18.75	△1.06	309,649	19.30	△1.55
海上	110,565	6.59	△9.35	91,816	5.72	△16.96
傷害	263,330	15.69	△11.68	246,565	15.37	△6.37
自動車	593,098	35.35	△6.59	583,853	36.38	△1.56
自動車損害賠償責任	137,598	8.20	△17.04	129,284	8.06	△6.04
その他	258,712	15.42	△10.00	243,482	15.17	△5.89
合計	1,677,818	100.00	△8.13	1,604,651	100.00	△4.36
(うち収入積立保険料)	(165,464)	(9.86)	(△16.06)	(145,026)	(9.04)	(△12.35)

(注) 1 前連結会計年度の諸数値はセグメント間の内部取引相殺前の金額であります。

2 元受正味保険料（含む収入積立保険料）とは、元受保険料から元受解約返戻金及び元受その他返戻金を控除したものであります。（積立型保険の積立保険料を含む。）

##### ② 正味収入保険料

区分	前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)			当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)		
	金額 (百万円)	構成比 (%)	対前年増減 (△)率 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	対前年増減 (△)率 (%)
火災	220,095	15.47	△2.25	218,268	16.03	△0.83
海上	93,680	6.58	△10.03	75,936	5.58	△18.94
傷害	135,870	9.55	△1.70	134,999	9.91	△0.64
自動車	586,274	41.20	△6.19	578,964	42.51	△1.25
自動車損害賠償責任	148,324	10.42	△22.45	134,645	9.89	△9.22
その他	238,822	16.78	△7.19	218,944	16.08	△8.32
合計	1,423,067	100.00	△7.65	1,361,758	100.00	△4.31

(注) 前連結会計年度の諸数値はセグメント間の内部取引相殺前の金額であります。

③ 正味支払保険金

区分	前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)			当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)		
	金額 (百万円)	構成比 (%)	対前年増減 (△)率 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	対前年増減 (△)率 (%)
火災	96,269	10.95	△8.15	96,342	10.78	0.08
海上	42,481	4.83	△4.25	40,442	4.52	△4.80
傷害	71,892	8.18	2.36	77,002	8.61	7.11
自動車	380,075	43.22	△3.01	375,611	42.01	△1.17
自動車損害賠償責任	137,242	15.61	0.51	133,498	14.93	△2.73
その他	151,348	17.21	14.76	171,210	19.15	13.12
合計	879,310	100.00	△0.05	894,109	100.00	1.68

(注) 前連結会計年度の諸数値はセグメント間の内部取引相殺前の金額であります。

(2) 資産運用業務

① 運用資産

区分	前連結会計年度 (平成21年3月31日)		当連結会計年度 (平成22年3月31日)	
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)
預貯金	435,051	6.91	296,752	4.72
コールローン	31,900	0.51	33,700	0.54
買現先勘定	—	—	15,998	0.25
買入金銭債権	127,339	2.02	108,158	1.72
金銭の信託	14,476	0.23	10,592	0.17
有価証券	4,058,016	64.44	4,363,277	69.37
貸付金	754,700	11.99	718,625	11.42
土地・建物	237,528	3.77	229,879	3.65
運用資産計	5,659,012	89.87	5,776,985	91.84
総資産	6,297,181	100.00	6,290,327	100.00

② 有価証券

区分	前連結会計年度 (平成21年3月31日)		当連結会計年度 (平成22年3月31日)	
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)
国債	359,394	8.85	469,539	10.76
地方債	127,410	3.14	114,421	2.62
社債	1,132,615	27.91	1,074,092	24.62
株式	1,386,518	34.17	1,724,318	39.52
外国証券	998,159	24.60	933,931	21.40
その他の証券	53,917	1.33	46,973	1.08
合計	4,058,016	100.00	4,363,277	100.00

③ 利回り

イ 運用資産利回り (インカム利回り)

区分	前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)			当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)		
	収入金額 (百万円)	平均運用額 (百万円)	年利回り (%)	収入金額 (百万円)	平均運用額 (百万円)	年利回り (%)
預貯金	9,881	309,774	3.19	4,410	286,886	1.54
コールローン	80	21,737	0.37	28	26,098	0.11
買現先勘定	22	4,801	0.48	23	19,630	0.12
買入金銭債権	2,137	114,054	1.87	1,832	135,229	1.36
金銭の信託	715	32,792	2.18	178	14,804	1.21
有価証券	115,094	3,871,299	2.97	94,776	3,613,008	2.62
貸付金	15,493	791,711	1.96	14,332	738,185	1.94
土地・建物	7,367	246,182	2.99	7,664	239,180	3.20
小計	150,794	5,392,354	2.80	123,247	5,073,023	2.43
その他	910	—	—	1,025	—	—
合計	151,704	—	—	124,273	—	—

(注) 1 前連結会計年度の諸数値はセグメント間の内部取引相殺前の金額であります。

2 収入金額は、連結損益計算書における「利息及び配当金収入」に、「金銭の信託運用益」及び「金銭の信託運用損」のうち利息及び配当金収入相当額を含めた金額であります。

3 平均運用額は原則として各月末残高 (取得原価又は償却原価) の平均に基づいて算出しております。ただし、コールローン、買現先勘定及び買入金銭債権については日々の残高 (取得原価又は償却原価) の平均に基づいて算出しております。

4 連結貸借対照表における有価証券には持分法適用会社に対する株式が含まれておりますが、平均運用額及び年利回りの算定上は同株式を除外しております。



ロ 資産運用利回り（実現利回り）

区分	前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)			当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)		
	資産運用損益 (実現ベース) (百万円)	平均運用額 (取得原価ベ ース) (百万円)	年利回り (%)	資産運用損益 (実現ベース) (百万円)	平均運用額 (取得原価ベ ース) (百万円)	年利回り (%)
預貯金	2,396	309,774	0.77	2,966	286,886	1.03
コールローン	80	21,737	0.37	28	26,098	0.11
買現先勘定	22	4,801	0.48	23	19,630	0.12
買入金銭債権	1,864	114,054	1.63	1,616	135,229	1.20
金銭の信託	△2,542	32,792	△7.75	653	14,804	4.42
有価証券	41,248	3,871,299	1.07	73,350	3,613,008	2.03
貸付金	15,406	791,711	1.95	14,233	738,185	1.93
土地・建物	7,367	246,182	2.99	7,664	239,180	3.20
金融派生商品	576	—	—	24,777	—	—
その他	458	—	—	1,716	—	—
合計	66,879	5,392,354	1.24	127,031	5,073,023	2.50

(注) 1 前連結会計年度の諸数値はセグメント間の内部取引相殺前の金額であります。

2 資産運用損益（実現ベース）は、連結損益計算書における「資産運用収益」及び「積立保険料等運用益」の合計額から「資産運用費用」を控除した金額であります。

3 平均運用額（取得原価ベース）は原則として各月末残高（取得原価又は償却原価）の平均に基づいて算出しております。ただし、コールローン、買現先勘定及び買入金銭債権については日々の残高（取得原価又は償却原価）の平均に基づいて算出しております。

4 連結貸借対照表における有価証券には持分法適用会社に対する株式が含まれておりますが、平均運用額及び年利回りの算定上は同株式を除外しております。

5 資産運用利回り（実現利回り）にその他有価証券の評価差額等を加味した時価ベースの利回り（時価総合利回り）は以下のとおりであります。

なお、資産運用損益等（時価ベース）は、資産運用損益（実現ベース）にその他有価証券に係る評価差額（税効果控除前の金額による）の当期増加額及び繰延ヘッジ損益（税効果控除前の金額による）の当期増加額などを加算した金額であります。

また、平均運用額（時価ベース）は、平均運用額（取得原価ベース）にその他有価証券に係る前期末評価差額（税効果控除前の金額による）及び金銭の信託に係る前期末評価損益などを加算した金額であります。

区分	前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)			当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)		
	資産運用損 益等 (時価ベース) (百万円)	平均運用額 (時価ベース) (百万円)	年利回り (%)	資産運用損 益等 (時価ベース) (百万円)	平均運用額 (時価ベース) (百万円)	年利回り (%)
預貯金	2,396	309,774	0.77	2,966	286,886	1.03
コールローン	80	21,737	0.37	28	26,098	0.11
買現先勘定	22	4,801	0.48	23	19,630	0.12
買入金銭債権	280	115,976	0.24	2,357	135,566	1.74
金銭の信託	△2,542	30,503	△8.34	653	13,304	4.91
有価証券	△853,509	5,226,156	△16.33	516,634	4,066,570	12.70
貸付金	15,391	791,711	1.94	14,193	738,185	1.92
土地・建物	7,367	246,182	2.99	7,664	239,180	3.20
金融派生商品	9,260	—	—	13,172	—	—
その他	458	—	—	1,716	—	—
合計	△820,794	6,746,843	△12.17	559,412	5,525,422	10.12

④ 海外投融資

区分	前連結会計年度 (平成21年3月31日)		当連結会計年度 (平成22年3月31日)	
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)
外貨建				
外国公社債	435,123	34.55	433,997	39.09
外国株式	12,492	0.99	28,486	2.57
その他	351,417	27.91	282,554	25.45
計	799,034	63.45	745,037	67.11
円貨建				
非居住者貸付	26,573	2.11	23,173	2.09
外国公社債	301,373	23.93	236,502	21.30
その他	132,399	10.51	105,520	9.50
計	460,346	36.55	365,196	32.89
合計	1,259,380	100.00	1,110,234	100.00
海外投融資利回り				
運用資産利回り (インカム利回り)		3.09%		2.98%
資産運用利回り (実現利回り)		△ 2.15%		1.14%

(注) 1 前連結会計年度の諸数値はセグメント間の内部取引相殺前の金額であります。

2 金銭の信託として運用しているものを含めて表示しております。

3 「海外投融資利回り」のうち「運用資産利回り (インカム利回り)」は、海外投融資に係る資産について、「③ 利回り イ 運用資産利回り (インカム利回り)」と同様の方法により算出したものであります。

4 「海外投融資利回り」のうち「資産運用利回り (実現利回り)」は、海外投融資に係る資産について、「③ 利回り ロ 資産運用利回り (実現利回り)」と同様の方法により算出したものであります。

なお、海外投融資に係る時価総合利回りは前連結会計年度△6.55%、当連結会計年度6.84%であります。

## (参考) 提出会社の状況

## (1) 保険引受利益

区分	前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	対前年増減(△)額 (百万円)
	金額(百万円)	金額(百万円)	
保険引受収益	1,598,901	1,525,130	△73,771
保険引受費用	1,354,265	1,333,731	△20,534
営業費及び一般管理費	213,110	207,829	△5,281
その他収支	952	485	△467
保険引受利益又は 保険引受損失(△)	32,477	△15,945	△48,422

(注) 1 営業費及び一般管理費は、損益計算書における営業費及び一般管理費のうち保険引受に係る金額であります。

2 その他収支は、自動車損害賠償責任保険等に係る法人税相当額などであります。

## (2) 種目別保険料・保険金

## ① 元受正味保険料(含む収入積立保険料)

区分	前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)			当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)		
	金額 (百万円)	構成比 (%)	対前年増減 (△)率(%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	対前年増減 (△)率(%)
火災	261,373	17.96	0.61	259,954	18.37	△0.54
海上	77,903	5.35	△8.91	65,593	4.64	△15.80
傷害	255,020	17.53	△11.69	240,139	16.97	△5.83
自動車	536,269	36.85	△3.63	536,866	37.94	0.11
自動車損害賠償責任	137,598	9.46	△17.04	129,284	9.14	△6.04
その他	186,997	12.85	△2.99	183,031	12.94	△2.12
合計	1,455,161	100.00	△6.07	1,414,870	100.00	△2.77
(うち収入積立保険料)	(165,464)	(11.37)	(△16.06)	(145,026)	(10.25)	(△12.35)

② 正味収入保険料

区分	前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)			当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)		
	金額 (百万円)	構成比 (%)	対前年増減 (△)率(%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	対前年増減 (△)率(%)
火災	176,199	14.28	△0.05	179,426	14.91	1.83
海上	64,189	5.20	△11.79	51,910	4.32	△19.13
傷害	128,947	10.45	△1.40	129,471	10.76	0.41
自動車	535,745	43.41	△3.62	536,006	44.56	0.05
自動車損害賠償責任	148,274	12.02	△22.37	134,645	11.19	△9.19
その他	180,654	14.64	△2.14	171,547	14.26	△5.04
合計	1,234,011	100.00	△5.90	1,203,007	100.00	△2.51

③ 正味支払保険金

区分	前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)			当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)		
	金額 (百万円)	対前年増減 (△)率(%)	正味損害率 (%)	金額 (百万円)	対前年増減 (△)率(%)	正味損害率 (%)
火災	70,940	△9.77	42.63	73,768	3.99	43.26
海上	31,017	△10.47	51.46	30,236	△2.52	61.72
傷害	68,879	3.49	60.39	72,692	5.53	62.88
自動車	352,674	△0.21	73.98	350,966	△0.48	73.48
自動車損害賠償責任	137,200	0.60	99.80	133,498	△2.70	107.31
その他	124,090	15.17	72.29	110,834	△10.68	68.24
合計	784,803	0.95	69.77	771,996	△1.63	70.36

(注) 正味損害率 = (正味支払保険金 + 損害調査費) / 正味収入保険料 × 100

## (3) 利回り

## ① 運用資産利回り（インカム利回り）

区分	前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)			当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)		
	収入金額 (百万円)	平均運用額 (百万円)	年利回り (%)	収入金額 (百万円)	平均運用額 (百万円)	年利回り (%)
預貯金	4,431	149,111	2.97	2,475	156,602	1.58
コールローン	80	21,737	0.37	28	26,098	0.11
買現先勘定	22	4,801	0.48	23	19,630	0.12
買入金銭債権	2,031	109,936	1.85	1,821	131,422	1.39
金銭の信託	715	32,712	2.19	178	14,743	1.21
有価証券	108,023	3,834,942	2.82	90,385	3,593,589	2.52
貸付金	15,490	791,638	1.96	14,330	738,141	1.94
土地・建物	7,165	231,886	3.09	7,460	226,614	3.29
小計	137,962	5,176,766	2.67	116,704	4,906,843	2.38
その他	631	—	—	951	—	—
合計	138,593	—	—	117,656	—	—

(注) 1 収入金額は、損益計算書における「利息及び配当金収入」に、「金銭の信託運用益」及び「金銭の信託運用損」のうち利息及び配当金収入相当額を含めた金額であります。

2 平均運用額は原則として各月末残高（取得原価又は償却原価）の平均に基づいて算出しております。ただし、コールローン、買現先勘定及び買入金銭債権については日々の残高（取得原価又は償却原価）の平均に基づいて算出しております。

② 資産運用利回り（実現利回り）

区分	前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)			当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)		
	資産運用損益 (実現ベース) (百万円)	平均運用額 (取得原価 ベース) (百万円)	年利回り (%)	資産運用損益 (実現ベース) (百万円)	平均運用額 (取得原価 ベース) (百万円)	年利回り (%)
預貯金	△3,780	149,111	△2.54	2,431	156,602	1.55
コールローン	80	21,737	0.37	28	26,098	0.11
買現先勘定	22	4,801	0.48	23	19,630	0.12
買入金銭債権	1,758	109,936	1.60	1,605	131,422	1.22
金銭の信託	△2,542	32,712	△7.77	653	14,743	4.43
有価証券	42,003	3,834,942	1.10	66,887	3,593,589	1.86
貸付金	15,403	791,638	1.95	14,231	738,141	1.93
土地・建物	7,165	231,886	3.09	7,460	226,614	3.29
金融派生商品	△774	—	—	25,238	—	—
その他	△803	—	—	771	—	—
合計	58,532	5,176,766	1.13	119,331	4,906,843	2.43

(注) 1 資産運用損益（実現ベース）は、損益計算書における「資産運用収益」及び「積立保険料等運用益」の合計額から「資産運用費用」を控除した金額であります。

2 平均運用額（取得原価ベース）は原則として各月末残高（取得原価又は償却原価）の平均に基づいて算出しております。ただし、コールローン、買現先勘定及び買入金銭債権については日々の残高（取得原価又は償却原価）の平均に基づいて算出しております。

3 資産運用利回り（実現利回り）にその他有価証券の評価差額等を加味した時価ベースの利回り（時価総合利回り）は以下のとおりであります。

なお、資産運用損益等（時価ベース）は、資産運用損益（実現ベース）にその他有価証券に係る評価差額（税効果控除前の金額による）の当期増加額及び繰延ヘッジ損益（税効果控除前の金額による）の当期増加額を加算した金額であります。

また、平均運用額（時価ベース）は、平均運用額（取得原価ベース）にその他有価証券に係る前期末評価差額（税効果控除前の金額による）及び金銭の信託に係る前期末評価損益を加算した金額であります。

区分	前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)			当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)		
	資産運用 損益等 (時価ベース) (百万円)	平均運用額 (時価ベース) (百万円)	年利回り (%)	資産運用 損益等 (時価ベース) (百万円)	平均運用額 (時価ベース) (百万円)	年利回り (%)
預貯金	△3,780	149,111	△2.54	2,431	156,602	1.55
コールローン	80	21,737	0.37	28	26,098	0.11
買現先勘定	22	4,801	0.48	23	19,630	0.12
買入金銭債権	173	111,858	0.16	2,346	131,759	1.78
金銭の信託	△2,542	30,423	△8.36	653	13,243	4.94
有価証券	△855,114	5,182,194	△16.50	509,402	4,038,085	12.61
貸付金	15,388	791,638	1.94	14,191	738,141	1.92
土地・建物	7,165	231,886	3.09	7,460	226,614	3.29
金融派生商品	7,910	—	—	13,634	—	—
その他	△803	—	—	771	—	—
合計	△831,500	6,523,650	△12.75	550,943	5,350,175	10.30

## (4) ソルベンシー・マージン比率

	前事業年度 (平成21年3月31日) (百万円)	当事業年度 (平成22年3月31日) (百万円)
(A) ソルベンシー・マージン総額	1,857,520	2,241,511
資本金又は基金等	634,512	621,596
価格変動準備金	2,871	2,689
危険準備金	1,292	233
異常危険準備金	562,522	583,635
一般貸倒引当金	1,350	1,338
その他有価証券の評価差額(税効果控除前)	400,349	799,409
土地の含み損益	83,820	72,972
払戻積立金超過額	—	—
負債性資本調達手段等	—	—
控除項目	31,083	35,583
その他	201,886	195,220
(B) リスクの合計額 $\sqrt{(R_1+R_2)^2+(R_3+R_4)^2}+R_5+R_6$	536,176	534,040
一般保険リスク (R <sub>1</sub> )	77,100	73,498
第三分野保険の保険リスク (R <sub>2</sub> )	12	23
予定利率リスク (R <sub>3</sub> )	6,625	6,426
資産運用リスク (R <sub>4</sub> )	281,114	289,698
経営管理リスク (R <sub>5</sub> )	11,826	11,736
巨大災害リスク (R <sub>6</sub> )	226,455	217,188
(C) ソルベンシー・マージン比率 [(A) / {(B) × 1/2}] × 100	692.8%	839.4%

(注) 上記の金額及び数値は、保険業法施行規則第86条及び第87条並びに平成8年大蔵省告示第50号の規定に基づいて算出しております。

## &lt;ソルベンシー・マージン比率&gt;

- ・損害保険会社は、保険事故発生の際の保険金支払や積立型保険の満期返戻金支払等に備えて準備金を積み立てておりますが、巨大災害の発生や、損害保険会社が保有する資産の大幅な価格下落等、通常の見積を超える危険が発生した場合でも、十分な支払能力を保持しておく必要があります。
- ・こうした「通常の見積を超える危険」を示す「リスクの合計額」(上表の(B))に対する「損害保険会社が保有している資本金・準備金等の支払余力」(すなわちソルベンシー・マージン総額：上表の(A))の割合を示す指標として、保険業法等に基づき計算されたのが、「ソルベンシー・マージン比率」(上表の(C))であります。



- ・「通常の予測を超える危険」とは、次に示す各種の危険の総額であります。
  - ① 保険引受上の危険 : 保険事故の発生率等が通常の予測を超えることにより発生し得る危険  
 (一般保険リスク) (巨大災害に係る危険を除く。)  
 (第三分野保険の  
 保険リスク)
  - ② 予定利率上の危険 : 実際の運用利回りが保険料算出時に予定した利回りを下回ることにより発生し得る危険  
 (予定利率リスク)
  - ③ 資産運用上の危険 : 保有する有価証券等の資産の価格が通常の予測を超えて変動することにより発生し得る  
 (資産運用リスク) 危険等
  - ④ 経営管理上の危険 : 業務の運営上通常の予測を超えて発生し得る危険で上記①～③及び⑤以外のもの  
 (経営管理リスク)
  - ⑤ 巨大災害に係る危険 : 通常の予測を超える巨大災害(関東大震災や伊勢湾台風相当)により発生し得る危険  
 (巨大災害リスク)
- ・「損害保険会社が保有している資本金・準備金等の支払余力」(ソルベンシー・マージン総額)とは、損害保険会社の純資産(社外流出予定額を除く)、諸準備金(価格変動準備金・異常危険準備金等)、土地の含み益の一部等の総額であります。
- ・ソルベンシー・マージン比率は、行政当局が保険会社を監督する際に活用する客観的な判断指標のひとつですが、その数値が200%以上であれば「保険金等の支払能力の充実の状況が適当である」とされております。

### 3 【対処すべき課題】

世界経済は世界同時景気後退による成長鈍化、貿易量の低減の後、EUを中心とした市場の混乱といった下振れリスクは残っているものの、持ち直しの動きが続いております。わが国においても、企業収益が改善し、設備投資や個人消費等の国内需要の回復が進むなど、経済活動は緩やかながらも回復基調で推移していくものと見込まれております。

損害保険業界におきましては、自動車保有台数及び住宅着工件数の伸び悩みや少子高齢化の進展など、厳しい事業環境が続く中、各社間の競争が激化することが予想されます。また金融市場も回復には時間を要すると予想され、資産運用収益も急速な回復は見込めないと考えられます。

このため、お客さまのニーズに的確に対応するとともに、適切な保険の引受管理を行い、効果的・効率的な業務プロセスを実現して、収益を確保する体制を着実に構築することがますます重要になっております。

このような中、当社は、新たにスタートした中期経営計画「ニューフロンティア2013」に基づき、お客さまのニーズに対応した業務プロセスの構築、総合的なリスクソリューションの提供、お客さまに信頼される販売網の構築、公平かつ公正で迅速な保険金支払のための態勢の一層の強化などを進め、業務品質のさらなる向上を図り、これを競争力として事業を推進してまいります。また、海外事業について、アジア・欧州・米州の3極体制のもとでの成長戦略を進め、とりわけアジアにおいて一層強固な事業基盤の確立を目指してまいります。

さらに、あいおい損害保険株式会社及びニッセイ同和損害保険株式会社との経営統合によるシナジーの発揮に向けて、お客さまへの提案、商品開発・企画、事務・システム対応などにおける各社の強みや新グループの強力な顧客・営業基盤を活かした取組みを推進してまいります。

### 4 【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、当社グループの業績及び財政状況に関して投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性があると考えられる主な事項は以下のとおりであります。

なお、本項に記載した将来に関する事項は有価証券報告書提出日現在において判断したものであります。

#### (1) 資産運用に関するリスク

当社グループは、有価証券・貸付金・不動産等様々な運用資産（オフバランス資産を含む）を保有しておりますが、経済環境や金融市場環境の悪化等により資産の価値が減少するリスクを内包しており、主に以下のようなリスクがあります。

##### ① 株価下落リスク

取引先との中長期的な関係維持の観点等から大量の株式を保有しておりますが、株式相場が下落した場合に、資産価値が減少するリスクや評価損や売却損が発生するリスクがあります。

##### ② 金利リスク

保有している債券、貸付金等の固定金利資産については、市場金利が上昇した場合に資産価値が減少するリスクがあります。

##### ③ 為替リスク

米ドル、ユーロを中心とした外貨建て資産を保有しておりますが、為替変動の影響によりこれらの資産価値が減少するリスクがあります。

##### ④ 信用リスク

保有している株式や社債、貸付金等の資産については、株式や社債の発行者又は貸付先の信用力の低下や破綻、信用市場の混乱によって、資産価値が減少するリスクや元本・利息の回収ができなくなるリスクがあります。

#### (2) 自然災害の発生による多額の保険金支払のリスク

台風や地震等の自然災害による損害はときに巨額になることから、当社グループでは、再保険の利用や異常危険準備金の積み立てによってこれらの損害に備えておりますが、地球温暖化の影響等に伴う異常気象やその他予想を超える巨大な自然災害が発生する可能性があり、これらに係る多額の保険金の支払いにより業績が悪化するリスクがあります。

(3) 流動性リスク

自然災害の発生による支払保険金の増加等により資金繰りが悪化し、資金の確保に通常よりも著しく高いコストを必要としたり、著しく低い価格での資産売却を余儀なくされることにより損失を被るリスクがあります。また、信用リスクが増加することによる社債市場の機能低下から資金調達が困難となるリスクもあります。

(4) 再保険取引に関するリスク

当社グループでは、保険契約によって引き受けた保険責任を分散し、収益を安定させる目的で再保険を利用しておりますが、再保険市場の状況変化により、再保険料が高騰して収支が悪化するリスクや十分な再保険手配ができずに保険引受能力が低下するリスクがあります。

また、再保険会社の破綻等により再保険金の回収ができなくなるという再保険会社の信用リスクを負っております。

(5) 予期せぬ経済環境・社会環境等の変化により損失が発生するリスク

保険会社は、予め将来発生するであろう損害を予測して保険料の水準を設定しますが、実際に発生する損害額は予測を上回る可能性があります。特に保険期間が長期にわたる場合には、当初想定した環境・条件等が大きく変動し、予期せぬ損害が発生する可能性があり、このため、保険契約準備金の積み増しが必要になる等収益が圧迫されるリスクがあります。

また、当社グループでは予め固定された予定利率による積立保険や長期の第三分野商品等を販売しておりますが、将来の金利変動により当該金利適用に基づく保険負債の評価額が変動するリスクがあります。

(6) 更なる規制緩和や新規参入者の増加などにより競争が激化するリスク

規制緩和の進展により、外国保険会社や異業種企業による損害保険業への新規参入、料率水準の低下等の影響を受け、当社グループを取り巻く環境は厳しくなっておりますが、更なる規制緩和や新規参入者の増加により競争が一層激化し、収益が圧迫されるリスクがあります。

(7) 海外事業に関するリスク

アジア・欧州・米州等において支店や子会社等を通じて積極的に海外事業を展開しておりますが、これらの国々における予期せぬ政治・経済・社会環境の変化や諸規制の変更、為替の変動及び自然災害や伝染病の発生等のリスクがあります。

(8) お客さま情報の漏洩等に関するリスク

当社グループは、個人情報を含む大量のお客さま情報を保有しておりますが、万一、重大な漏洩等が発生した場合にはお客さまの信頼や社会的信用を失うリスクがあります。また、漏洩等の原因となった業務運営の不備に関して監督当局から行政処分を受ける可能性があり、このため、当社グループの業績に影響が生じるリスクがあります。

(9) 事業運営に関するリスク

事業運営リスクは、当社グループの事業活動にかかるものであり、事務ミス、法令違反、従業員による不正、外部の者による犯罪行為、情報システムの障害、災害の発生等によって、お客さまの信頼や社会的信用を失うリスクや業務運営が阻害されるリスクがあります。また、これらを原因として監督当局から行政処分を受ける可能性があり、このため当社グループの業績に影響が生じるリスクがあります。

(10) 事業中断に関するリスク

当社グループでは、首都圏直下型地震の発生や、新型インフルエンザ等の疾病の大流行等自然災害や不測の事故、事態に備え、事業継続計画の策定や危機管理態勢の整備を行うなど、事業中断期間を一定程度に抑え、事業を継続的に運営できる体制を整備しておりますが、こうした危機管理にもかかわらず、当社の事業継続が阻害されたり、想定を超える影響を受け、当社グループの業績や財政状態に影響が生じるリスクがあります。

(11) 法律や諸制度の変更によるリスク

当社グループは、保険業法等法令による規制を受けつつ営業しており、また、諸会計基準に従って財務報告を行っております。今後これらの法令や制度が改定され、保険商品の販売方法や商品内容を変更したり、保険契約準備金の積立方法や会計処理を変更することなどによって、当社グループの業績に影響が生じるリスクがあります。

(12) あいおい損害保険株式会社とニッセイ同和損害保険株式会社との経営統合に関するリスク

当社グループは、あいおい損害保険株式会社及びニッセイ同和損害保険株式会社と平成22年4月に経営統合しており、あいおい損害保険株式会社とニッセイ同和損害保険株式会社は平成22年10月1日に合併を予定しております。これに関連して次のような統合関連リスクが考えられます。

- ① 合併・統合により期待される効果・シナジーが十分に発揮されない。
- ② 予期せぬ事態により統合コストが増大する。

## 5【経営上の重要な契約等】

### (1) あいおい損害保険株式会社及びニッセイ同和損害保険株式会社との経営統合に関する合意

当社及び三井住友海上グループホールディングス株式会社（以下「持株会社」といいます。）は、あいおい損害保険株式会社（以下「あいおい損保」といいます。）及びニッセイ同和損害保険株式会社（以下「ニッセイ同和損保」といいます。）との間で、経営統合に関する協議を進め、最終合意に至りました。

これに基づき、持株会社は、平成21年9月30日付で、あいおい損保及びニッセイ同和損保との間で株式交換契約を締結いたしました。

#### ①経営統合の目的

スピード感を持って飛躍的に事業基盤及び経営資源の質・量の強化・拡大を図ることにより、グローバルに事業展開する世界トップ水準の保険・金融グループを創造して、持続的な成長と企業価値向上を実現いたします。

#### ②経営統合の方法

持株会社は、あいおい損保及びニッセイ同和損保との間で、それぞれ持株会社を株式交換完全親会社とする株式交換を行うとともに、商号をMS&ADインシュアランスグループホールディングス株式会社（以下「MS&ADホールディングス」といいます。）に変更いたします。

また、経営統合実施後、あいおい損保とニッセイ同和損保は、あいおい損保を存続会社として合併し、商号をあいおいニッセイ同和損害保険株式会社（以下「あいおいニッセイ同和損保」といいます。）に変更いたします。

#### ③株式交換及び合併の期日

株式交換期日を平成22年4月1日、2社の合併期日を平成22年10月1日といたします。

#### ④経営統合後のグループ・ガバナンス体制

- a. MS&ADホールディングスの下でグループ・ガバナンス体制を構築し、グループ全体の成長力、収益力を強化する観点から、グループ経営戦略を推進するとともに、事業会社は執行に専念して市場への迅速な対応を図ります。
- b. 営業推進、商品戦略、損害サービス戦略など当社とあいおいニッセイ同和損保（合併前はあいおい損保及びニッセイ同和損保）との間での戦略の調整が必要となる領域については、「損害保険事業戦略会議」を設置し、グループの総合力を最大限発揮しうる戦略を策定します。
- c. 当社とあいおいニッセイ同和損保（合併前はあいおい損保及びニッセイ同和損保）とは、それぞれの自主性を最大限に発揮した事業運営を行います。

### (2) 経営管理契約

当社は、持株会社との間で経営管理契約を締結しております。

## 6【研究開発活動】

該当事項はありません。

## 7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

当連結会計年度の財政状態及び経営成績の分析は、以下のとおりであります。

なお、本項に記載した予想、予測、見込み、見通し、方針、予定等の将来に関する事項は有価証券報告書提出日現在において判断したものであり、将来に関する事項には不確実性が内在しており、将来生じる実際の結果とは大きく異なる可能性があります。

### (1) 重要な会計方針及び見積り

当社の連結財務諸表はわが国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して作成しております。その作成には経営者による会計方針の選択・適用、資産・負債及び収益・費用の開示に影響を与える見積りが必要とします。経営者は、これらの見積りについて過去の実績等を勘案し合理的に判断しておりますが、見積り特有の不確実性から、実際の結果はこれらの見積りと異なる場合があります。

当社の連結財務諸表で採用する重要な会計方針は、「第5 経理の状況」の「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」に記載しておりますが、特に次の重要な会計方針及び見積りが連結財務諸表に大きな影響を及ぼすと考えております。

#### ① 時価の算定方法

資産、負債の一部は時価をもって貸借対照表価額としており、時価の算定は市場価格等に基づいております。一部のデリバティブ取引において市場価格がない場合には、将来キャッシュ・フローの現在価値や取引対象の市場価格、契約期間等の構成要素に基づく合理的な見積りによって算出された価格を時価としております。

#### ② 有価証券の減損

保有している有価証券は有価証券市場の価格変動リスクを負っているため、合理的な基準に基づいて減損処理を行っております。将来、有価証券市場が悪化した場合には有価証券評価損が発生する可能性があります。

#### ③ 固定資産の減損

収益性の低下により投資額の回収が見込めなくなった固定資産については、一定の条件の下で回収可能性を反映させるように、減損処理を行っております。資産又は資産グループの回収可能価額は、正味売却価額（資産又は資産グループの時価から処分費用見込額を控除して算定される価額）と使用価値（資産又は資産グループの継続的使用と使用後の処分によって生ずると見込まれる将来キャッシュ・フローの現在価値）のいずれか高い金額であることから、固定資産の減損損失の金額は合理的な仮定及び予測に基づく将来キャッシュ・フローの見積りに依存しております。従って、固定資産の使用方法を変更した場合又は不動産取引相場や賃料相場等が変動した場合には、新たに減損損失が発生する可能性があります。

#### ④ 繰延税金資産

繰延税金資産の回収可能性の判断に際して、将来の課税所得を合理的に見積もっております。繰延税金資産の回収可能性は将来の課税所得の見積りに依存するため、その見積額が変動した場合は繰延税金資産が変動する可能性があります。

#### ⑤ 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えて、回収不能となる見積額を貸倒引当金として計上しております。貸付先の財務状況の変化などにより、回収不能となった金額や貸倒引当金の計上額が、当初の見積額から変動する可能性があります。

#### ⑥ 支払備金

保険契約に基づいて支払義務が発生した、または発生したと認められる保険金等のうち、まだ支払っていない金額を見積り、支払備金として積み立てております。裁判等の結果や為替の変動などにより保険金等の支払額や支払備金の計上額が、当初の見積額から変動する可能性があります。

#### ⑦ 責任準備金等

保険契約に基づく将来における債務の履行に備えるため、責任準備金等を積み立てております。当初想定した環境・条件等が大きく変動し予期せぬ損害の発生が見込まれる場合には、責任準備金等の積み増しが必要になる可能性があります。

#### ⑧ 退職給付費用及び債務

退職給付費用及び債務は、割引率や将来の退職率及び死亡率など、いくつかの前提条件に基づいて算出しております。実際の結果が前提条件と異なる場合、または前提条件を変更する必要が生じた場合には、将来の退職給付費用及び退職給付債務が変動する可能性があります。

(2) 当連結会計年度の経営成績の分析

当連結会計年度における損益の状況は、以下のとおりであります。

[連結主要指標]

	前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	比較増減	増減率
正味収入保険料 (百万円)	1,423,067	1,361,758	△61,309	△4.3%
経常利益又は経常損失 (△) (百万円)	△5,854	49,650	55,504	—
当期純利益 (百万円)	14,972	34,815	19,843	132.5%

正味収入保険料は、自動車損害賠償責任保険や海上保険の減収を主因に当社の正味収入保険料が前連結会計年度に比べ310億円減少したことや、円高の影響を受けて海外の連結子会社の正味収入保険料が減少したことなどにより、前連結会計年度に比べ613億円減少し、1兆3,617億円となりました。

経常損益については、有価証券評価損が減少したことなどから、前連結会計年度に比べ555億円増加し、496億円となりました。経常損益に特別利益、特別損失、法人税及び住民税などを加減した当期純利益は、前連結会計年度に比べて198億円増加し、348億円となりました。

次に、連結会社の中で特に重要な当社の損益の状況は、以下のとおりであります。

[当社(単体)の主要指標]

	前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	比較増減	増減率
正味収入保険料 (百万円)	1,234,011	1,203,007	△31,003	△2.5%
正味損害率 (%)	69.8	70.4	0.6	—
正味事業費率 (%)	34.1	34.5	0.4	—
保険引受利益又は保険引受損失 (△) (百万円)	32,477	△15,945	△48,422	△149.1%
経常利益 (百万円)	25,532	35,786	10,253	40.2%
当期純利益 (百万円)	46,580	25,458	△21,122	△45.3%

保険引受の概況は次のとおりであります。

保険引受収益のうち正味収入保険料は、自動車損害賠償責任保険や海上保険などの減収により、1兆2,030億円と前事業年度に比べて2.5%の減収となりました。

一方、保険引受費用のうち正味支払保険金は、7,719億円と、前事業年度に比べて128億円減少したものの、正味収入保険料の減少により、正味損害率は、70.4%と、前事業年度に比べて0.6ポイントの上昇となりました。

また、諸手数料及び集金費並びに保険引受に係る営業費及び一般管理費は前事業年度に比べて減少したものの、正味収入保険料の減少により、正味事業費率は、34.5%と、前事業年度に比べて0.4ポイントの上昇となりました。これらに収入積立保険料、満期返戻金、支払備金戻入額、責任準備金戻入額などを加減した結果、保険引受損益は前事業年度に比べて484億円減少し、159億円の損失となりました。

保険種目別の概況は次のとおりであります。

火災保険

正味収入保険料は、前事業年度に比べて1.8%増の1,794億円となりました。また、正味損害率は、前事業年度を0.7ポイント上回る43.3%となりました。

## 海上保険

物流量の減少や円高などの影響により、正味収入保険料は、前事業年度に比べて19.1%減の519億円となりました。また、正味損害率は、前事業年度を10.2ポイント上回る61.7%となりました。

## 傷害保険

正味収入保険料は、前事業年度に比べて0.4%増の1,294億円となりました。また、正味損害率は、前事業年度を2.5ポイント上回る62.9%となりました。

## 自動車保険

正味収入保険料は、ほぼ前事業年度並みの5,360億円となりました。また、正味損害率は、前事業年度を0.5ポイント下回る73.5%となりました。

## 自動車損害賠償責任保険

前事業年度の保険料率引下げなどの影響により、正味収入保険料は、前事業年度に比べて9.2%減の1,346億円となりました。また、正味損害率は、前事業年度を7.5ポイント上回る107.3%となりました。

## その他の保険

正味収入保険料は、前事業年度に比べて5.0%減の1,715億円となりました。また、正味損害率は、前事業年度を4.1ポイント下回る68.2%となりました。

資産運用の概況は次のとおりであります。

利息及び配当金収入が前事業年度を203億円下回る1,174億円となり、また、有価証券売却益が前事業年度を下回ったことなどから、積立型保険の満期返戻金などに充当する運用益を控除した残額の資産運用収益は、前事業年度を537億円下回る1,076億円となりました。一方、資産運用費用は、有価証券評価損の減少などにより、前事業年度を1,133億円下回る423億円となりました。

これらの結果、経常利益は前事業年度に比べて102億円増加し、357億円となりました。経常利益に特別利益、特別損失、法人税及び住民税などを加減した当期純利益は、価格変動準備金の戻入に伴う特別利益の計上があった前事業年度に比べて211億円減少し、254億円となりました。

### (3) 財政状態の分析

#### ① 総資産の状況

当連結会計年度末の総資産は、前連結会計年度末に比べて68億円減少し、6兆2,903億円となりました。総資産の内訳では、有価証券が3,502億円増加し、4兆3,632億円となりました。

#### ② リスク管理債権の状況

	前連結会計年度 (平成21年3月31日) (百万円)	当連結会計年度 (平成22年3月31日) (百万円)	比較増減 (百万円)
破綻先債権額	13	1,441	1,427
延滞債権額	2,609	2,426	△182
3ヵ月以上延滞債権額	817	855	38
貸付条件緩和債権額	845	2,043	1,197
計	4,285	6,766	2,481
貸付金残高に対する比率	0.6%	0.9%	0.3%
(参考) 貸付金残高	754,700	718,625	△36,075

リスク管理債権は、前連結会計年度末に比べて24億円増加し、67億円となりました。貸付金残高に対するリスク管理債権の比率は、前連結会計年度末を0.3ポイント上回る0.9%となりました。各債権の意義は「第5 経理の状況」の連結貸借対照表関係の注記に記載しております。

③ ソルベンシー・マージン比率

当社の当事業年度末のソルベンシー・マージン比率は、保有株式の時価上昇を主因に、前事業年度末に比べ146.6ポイント上昇し、839.4%となりました。

ソルベンシー・マージン比率は、行政当局が保険会社を監督する際に活用する客観的な判断指標のひとつですが、その数値が200%以上であれば「保険金等の支払能力の充実の状況が適当である」とされています。

(4) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

① キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度のキャッシュ・フローにつきましては、営業活動によるキャッシュ・フローが、保険料の収入額が減少したことや利息及び配当金の受取額が減少したことなどにより、前連結会計年度に比べ1,280億円減少し、△1,233億円となりました。投資活動によるキャッシュ・フローは前連結会計年度に比べ47億円増加し、1,473億円となりました。財務活動によるキャッシュ・フローは社債の償還による支出などにより、前連結会計年度に比べ939億円減少し、△1,090億円となりました。これらの結果、当連結会計年度末の現金及び現金同等物は前連結会計年度末より778億円減少し、3,610億円となりました。

なお、キャッシュ・フロー関連指標のトレンドは以下のとおりであります。

	平成18年3月期 (%)	平成19年3月期 (%)	平成20年3月期 (%)	平成21年3月期 (%)	平成22年3月期 (%)
自己資本比率	23.6	24.1	19.7	14.6	19.1
時価ベースの自己資本比率	28.2	24.8	16.8	—	—

(注) 1 自己資本比率：自己資本／総資産×100

2 時価ベースの自己資本比率：株式時価総額／総資産×100

3 時価ベースの自己資本比率については、当社の株式が平成20年3月26日付で上場廃止となったため、平成21年3月期以降は記載しておりません。

② 資金の流動性について

保険金等の支払いによる資金流出や市場の混乱等により資金繰りが悪化する場合に備え、流動性資産を十分に保有するとともに、資金の流入の動向を踏まえて資産・負債両面から流動性についての評価を行い、適切な資金繰りを行っております。

(5) 問題認識と今後の方針について

問題認識と今後の方針につきましては「対処すべき課題」に記載しているとおりであります。



### 第3【設備の状況】

#### 1【設備投資等の概要】

当連結会計年度の設備投資は、主として損害保険事業に係る営業店舗網の整備並びに業務効率化及び顧客サービスの充実に主眼に実施いたしました。

このうち主なものは、国内店舗等に係る建物等の取得（89億円）及びパソコンネットワーク関連機器をはじめとするコンピュータ関連機器の購入（35億円）であり、これらを含む当連結会計年度中の投資総額は149億円であります。

## 2【主要な設備の状況】

当社グループ（当社及び連結子会社）における主要な設備は以下のとおりであります。

（平成22年3月31日現在）

会社名	店名 (所在地)	所属 出先 機関 (店)	事業の 種類別 セグメ ントの 名称	帳簿価額（百万円）			従業員数 (人)	年間 賃借料 (百万円)
				土地 (面積㎡) [面積㎡]	建物	動産		
提出会社	北海道本部 (札幌市中央区) 本部内 4支店	15	損害保 険事業	4,329 (973)	494	278	524 [173]	218
	東北本部 (仙台市青葉区) 本部内 6支店	23	損害保 険事業	2,275 (5,455)	3,298	392	736 [213]	225
	関東甲信越本部 (東京都中央区) 本部内 6支店	28	損害保 険事業	596 (4,995)	1,571	527	1,022 [323]	471
	千葉埼玉本部 (東京都中央区) 本部内 4支店	13	損害保 険事業	1,547 (4,143)	1,956	392	919 [263]	367
	東京本部 (東京都中央区) 本部内 5支店	6	損害保 険事業	598 (1,210)	1,757	294	781 [180]	632
	東京企業第一本部 東京企業第二本部 東京自動車本部 自動車営業推進本部 金融公務営業推進本部 (東京都千代田区) 本部内 支店なし	1	損害保 険事業	12,130 (11,850)	7,144	231	1,389 [277]	83
	神奈川静岡本部 (横浜市中区) 本部内 4支店	16	損害保 険事業	732 (2,957)	1,670	345	910 [251]	428
	北陸本部 (石川県金沢市) 本部内 3支店	5	損害保 険事業	1,032 (1,638)	1,204	123	273 [88]	80
	中部本部 名古屋企業本部 (名古屋市中区) 本部内 5支店	16	損害保 険事業	7,855 (5,038) [388]	5,232	551	1,316 [352]	509
	関西本部 大阪企業本部 関西自動車本部 (大阪市中央区) 本部内 10支店	25	損害保 険事業	12,924 (8,004)	15,208	1,214	2,546 [692]	667
	中国本部 (広島市中区) 本部内 4支店	16	損害保 険事業	2,606 (4,740)	1,457	331	758 [205]	219
四国本部 (香川県高松市) 本部内 4支店	8	損害保 険事業	1,076 (4,310)	1,097	149	357 [117]	110	

会社名	店名 (所在地)	所属 出先 機関 (店)	事業の 種類別 セグメ ントの 名称	帳簿価額 (百万円)			従業員数 (人)	年間 賃借料 (百万円)
				土地 (面積㎡) [面積㎡]	建物	動産		
提出会社	九州本部 (福岡市中央区) 本部内 9支店	21	損害保 険事業	3,254 (3,315)	3,004	447	1,145 [352]	432
	本店 (東京都中央区) 本店内 2支店	29	損害保 険事業	20,248 (162,348) [4,651]	30,372	11,825	2,475 [261]	2,700
(在外子会社) MSIG Mingtai Insurance Co., Ltd	本店 (台湾 台北)	72	損害保 険事業	3,316 (10,886)	1,760	411	1,373 [37]	123

- (注) 1 上記は全て営業用設備であります。  
2 提出会社における本店の所属出先機関には、海外駐在員事務所を含めております。  
3 土地及び建物の一部を賃借しております。賃借している土地の面積については、[ ]で外書きしております。  
4 臨時従業員数については、従業員数欄に[ ]で外書きしております。  
5 上記の他、主要な賃貸用設備として以下のものがあります。

会社名	設備名	帳簿価額 (百万円)	
		土地 (面積㎡)	建物
提出会社	八重洲ファーストフィナンシャル ビル (東京都中央区)	28 (1,515)	5,403
	三井住友海上テプコビル (東京都中央区)	56 (1,390)	4,458
	大阪淀屋橋ビル (大阪市中央区)	1,394 (376)	1,453
	千里ビル (大阪府豊中市)	786 (4,065)	1,433
	コルティール駒場 (東京都目黒区)	4 (4,435)	793

- 6 上記の他、主要な社宅用、厚生用設備として以下のものがあります。

会社名	設備名	帳簿価額 (百万円)	
		土地 (面積㎡)	建物
提出会社	千葉ニュータウン社宅・独身寮 (千葉県印西市)	1,886 (14,044)	1,105
	天王台社宅 (千葉県我孫子市)	1,200 (2,833)	238

### 3【設備の新設、除却等の計画】

平成22年3月31日現在の重要な設備の新設、除却等の計画は以下のとおりであります。

#### (1) 新設

会社名 設備名	所在地	事業の種類別 セグメントの 名称	内容	投資予定金額		資金調達 方法	着手及び完了予定	
				総額 (百万円)	既支払額 (百万円)		着手	完了
提出会社 駿河台新館ビル (仮称)	東京都 千代田区	損害保険事業	営業・賃貸用 ビル取得	40,200	4,686	自己資金	平成21年 10月	平成24年 2月
提出会社 神田錦町共同 ビル(仮称)	東京都 千代田区	損害保険事業	賃貸用ビル取 得	2,550	4	自己資金	平成23年 1月	平成25年 1月
提出会社 事務機器	—	損害保険事業	—	11,443	3,543	自己資金	—	主なものは 平成24年3 月末までに 設置予定

#### (2) 改修

該当事項はありません。

#### (3) 売却

該当事項はありません。

## 第4【提出会社の状況】

### 1【株式等の状況】

#### (1)【株式の総数等】

##### ①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	3,000,000,000
計	3,000,000,000

##### ②【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成22年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成22年6月29日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	1,404,402,464	1,404,402,464	—	単元株式数1,000株 (注)
計	1,404,402,464	1,404,402,464	—	—

(注) 当社の株式を譲渡により取得するには、取締役会の承認を要する旨を定款に定めております。

#### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

#### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

平成22年2月1日以後に開始する事業年度に係る有価証券報告書から適用されるため、記載事項はありません。

#### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

#### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成20年3月31日	△108,782	1,404,402	—	139,595	—	93,107

(注) 平成20年3月31日の発行済株式総数の減少は、自己株式の消却によるものであります。

#### (6)【所有者別状況】

(平成22年3月31日現在)

区分	株式の状況(1単元の株式数1,000株)							単元未満 株式の状況 (株)	
	政府及び地 方公共団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人その他		計
					個人以外	個人			
株主数(人)	—	—	—	1	—	—	—	1	—
所有株式数 (単元)	—	—	—	1,404,402	—	—	—	1,404,402	464
所有株式数の 割合(%)	—	—	—	100.00	—	—	—	100.00	—

(7) 【大株主の状況】

(平成22年3月31日現在)

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数の 割合 (%)
三井住友海上グループホールディングス株式会社	東京都中央区新川2-27-2	1,404,402	100.00
計	—	1,404,402	100.00

(注) 三井住友海上グループホールディングス株式会社は、平成22年4月1日付で、MS&ADインシュアランスグループホールディングス株式会社に商号を変更しております。

(8) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

(平成22年3月31日現在)

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式 (自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式 (その他)	—	—	—
完全議決権株式 (自己株式等)	—	—	単元株式数1,000株 (注)
完全議決権株式 (その他)	普通株式 1,404,402,000	1,404,402	同上
単元未満株式	普通株式 464	—	一単元 (1,000株) 未 満の株式
発行済株式総数	1,404,402,464	—	—
総株主の議決権	—	1,404,402	—

(注) 当社の株式を譲渡により取得するには、取締役会の承認を要する旨を定款に定めております。

② 【自己株式等】

該当事項はありません。

(9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

## 2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 該当事項はありません。

- (1) 【株主総会決議による取得の状況】  
該当事項はありません。
- (2) 【取締役会決議による取得の状況】  
該当事項はありません。
- (3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】  
該当事項はありません。
- (4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】  
該当事項はありません。

### 3 【配当政策】

当社は、当社の完全親会社であるMS & ADインシュアランスグループホールディングス株式会社の資本政策に沿って、剰余金の配当等の決定を行う方針としており、法令に別段の定めがある場合を除き、会社法第459条第1項各号に掲げる事項を取締役会の決議により定めることができる旨を定款に定めております。

内部留保資金につきましては、担保力の増強を図るとともに、事業環境の変化に備えるべく、経営基盤の強化に向け有効投資してまいります。

当事業年度の剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)
平成21年11月19日 取締役会決議	5,500	3.91
平成22年1月29日 取締役会決議	12,500	8.90
平成22年2月12日 取締役会決議	6,375	4.53
平成22年5月20日 取締役会決議	14,000	9.96

### 4 【株価の推移】

#### (1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第89期	第90期	第91期
決算年月	平成18年3月	平成19年3月	平成20年3月
最高(円)	1,626	1,694	1,728
最低(円)	918	1,226	921

(注) 1 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

2 平成20年3月26日に上場が廃止されたため、最終取引日である平成20年3月25日までの株価について記載しております。

#### (2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

該当事項はありません。



5 【役員の状況】

(平成22年6月29日現在)

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数
取締役会長 会長執行役員 (代表取締役)	—	江頭 敏明	昭和23年 11月30日生	昭和47年4月 当社入社 平成7年4月 火災新種商品企画部保証信用保険室長 平成9年6月 社長室部長 平成11年4月 商品業務統括火災新種業務部長 平成12年5月 社長室（休職 社団法人日本損害保険協会出向）部長 平成13年4月 商品業務統括火災新種業務部長 平成13年10月 執行役員火災新種保険部長 平成14年6月 執行役員中国本部長 平成15年6月 常務執行役員中国本部長 平成16年4月 常務執行役員神奈川静岡本部長 平成17年10月 常務執行役員神奈川静岡本部長兼同本部損害サービス改革本部長 平成18年4月 共同最高経営責任者 平成18年6月 取締役社長共同最高経営責任者 平成18年8月 取締役社長最高経営責任者 平成18年9月 取締役社長 社長執行役員 平成20年4月 三井住友海上グループホールディングス株式会社（現MS&ADインシュアランスグループホールディングス株式会社）取締役社長 平成21年4月 同社取締役社長 社長執行役員（現職） 平成22年4月 当社取締役会長 会長執行役員（現職）	(注) 3	—
取締役社長 社長執行役員 (代表取締役)	—	柄澤 康喜	昭和25年 10月27日生	昭和50年4月 住友海上火災保険株式会社入社 平成10年6月 同社広報部長 平成12年2月 同社社長室長兼業務管理部長 平成12年4月 同社社長室長 平成13年10月 当社経営企画部業務企画特命部長 平成14年7月 金融サービス本部財務企画部長 平成16年4月 執行役員経営企画部長 平成17年6月 取締役執行役員経営企画部長 平成18年4月 取締役常務執行役員 平成20年4月 取締役専務執行役員 三井住友海上グループホールディングス株式会社（現MS&ADインシュアランスグループホールディングス株式会社）取締役 平成21年4月 同社取締役専務執行役員 平成22年4月 当社取締役社長 社長執行役員（現職） MS&ADインシュアランスグループホールディングス株式会社取締役執行役員（現職）	(注) 3	—

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数
取締役 専務執行役員	—	飯島 一郎	昭和24年 11月10日生	昭和48年4月 当社入社 平成10年1月 商品業務統括商品企画部長 平成10年3月 商品業務統括商品企画部長兼商品業務統括商品企画部商品照会センター所長 平成10年4月 商品業務統括商品企画部長 平成10年9月 商品業務統括商品企画部長兼社長室次長（IT企画担当） 平成11年4月 商品業務統括自動車業務部長兼販売支援統括部長（業務開発担当） 平成11年9月 商品業務統括自動車業務部長 平成13年10月 自動車保険部長 平成14年6月 執行役員自動車保険部長 平成15年6月 執行役員欧州中東部長 平成17年4月 執行役員欧州中東部長兼パリ事務所長兼マドリッド事務所長 平成18年4月 常務執行役員名古屋企業本部長兼同本部損害サービス改革本部長 平成19年4月 常務執行役員名古屋企業本部長兼同本部損害サービス・イノベーション本部長 平成20年4月 専務執行役員名古屋企業本部長兼同本部損害サポート・イノベーション本部長 平成22年4月 取締役専務執行役員（現職）	(注) 4	—
取締役 専務執行役員	—	池田 克朗	昭和26年 9月8日生	昭和49年4月 当社入社 平成10年4月 運用本部金融サービス部長 平成11年6月 経理部長 平成15年6月 取締役執行役員経理部長 平成17年4月 取締役常務執行役員 平成18年4月 取締役常務執行役員金融サービス本部長 平成20年4月 三井住友海上グループホールディングス株式会社（現MS&ADインシュアランスグループホールディングス株式会社）取締役 平成21年4月 同社取締役常務執行役員 平成22年4月 当社取締役専務執行役員（現職） MS&ADインシュアランスグループホールディングス株式会社取締役執行役員（現職）	(注) 3	—
取締役 専務執行役員	—	市原 等	昭和26年 6月19日生	昭和49年4月 当社入社 平成13年4月 事務推進部長 平成13年10月 営業事務部事務統合特命部長 平成14年7月 営業事務部長 平成16年4月 執行役員人事部長 平成18年4月 常務執行役員 平成18年6月 取締役常務執行役員 平成20年4月 三井住友海上グループホールディングス株式会社（現MS&ADインシュアランスグループホールディングス株式会社）取締役 平成21年4月 同社取締役常務執行役員 平成22年4月 当社取締役専務執行役員（現職）	(注) 3	—

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数
取締役 常務執行役員	—	市原 進	昭和29年 1月26日生	昭和52年4月 当社入社 平成10年4月 アジア本部ホンコン部長 平成13年10月 アジア本部ホンコン特命部長 平成14年4月 アジア本部マレーシア部長 平成15年6月 アジア第二本部マレーシア部長 平成18年4月 執行役員Mitsui Sumitomo Insurance (Malaysia)Bhd. 取締役 平成20年4月 当社執行役員東アジア・インド本部長 平成21年4月 常務執行役員東アジア・インド本部長 平成22年4月 取締役常務執行役員（現職）	(注) 4	—
取締役 常務執行役員	—	西方 正明	昭和28年 9月17日生	昭和52年4月 住友海上火災保険株式会社入社 平成14年7月 当社神奈川静岡岡本部浜松支店長 平成16年4月 火災新種保険部長 平成18年10月 商品本部火災新種保険部長 平成19年4月 執行役員北海道本部長兼同本部損害サービス・イノベーション本部長 平成20年4月 執行役員北海道本部長兼同本部損害サポート・イノベーション本部長 平成21年4月 常務執行役員東京企業第二本部長兼同本部損害サポート・イノベーション本部長 平成22年4月 取締役常務執行役員（現職）	(注) 4	—
取締役 常務執行役員	金融サービス 本部長	岸本 保夫	昭和29年 5月27日生	昭和52年4月 住友海上火災保険株式会社入社 平成14年7月 当社経営企画部事業企画特命部長 平成16年4月 金融サービス本部財務企画部長 平成18年4月 執行役員人事部長 平成20年4月 執行役員中国本部長兼同本部損害サポート・イノベーション本部長 平成21年4月 常務執行役員中国本部長兼同本部損害サポート・イノベーション本部長 平成22年4月 取締役常務執行役員金融サービス本部長（現職） MS&ADインシュアランスグループホールディングス株式会社執行役員（現職）	(注) 4	—
取締役 常務執行役員	商品本部長	太田 誠一	昭和29年 3月9日生	昭和53年4月 住友海上火災保険株式会社入社 平成15年4月 当社中部本部岐阜支店長 平成17年4月 関西本部堺支店長 平成19年4月 理事 営業事務部長兼長期契約対応センター長 平成20年4月 執行役員商品本部副本部長兼自動車保険部長 平成22年4月 取締役常務執行役員商品本部長（現職） MS&ADインシュアランスグループホールディングス株式会社執行役員（現職）	(注) 4	—

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数
取締役	—	秦 喜 秋	昭和20年 11月4日生	昭和43年4月 住友海上火災保険株式会社入社 平成2年6月 同社大阪営業第二部長 平成2年10月 同社大阪本社営業第二部長 平成4年6月 同社社長室長 平成7年6月 同社取締役社長室長 平成10年6月 同社常務取締役 平成11年6月 同社常務取締役関東甲信越営業本部長 平成12年6月 同社常務取締役リスクマネジメント企画本部長兼関東甲信越営業本部長 平成12年6月 同社常務取締役常務執行役員リスクマネジメント企画本部長兼関東甲信越営業本部長 平成13年10月 当社常務取締役常務執行役員 平成14年6月 専務取締役専務執行役員 平成17年4月 取締役 副社長執行役員 平成18年4月 取締役共同最高経営責任者 平成18年6月 取締役会長共同最高経営責任者 平成18年8月 取締役会長 平成20年4月 三井住友海上グループホールディングス株式会社（現MS&ADインシュアランスグループホールディングス株式会社）取締役会長 平成22年4月 当社取締役（現職）	(注) 3	—
取締役	—	河 野 栄 子	昭和21年 1月1日生	昭和44年12月 株式会社日本リクルートセンター（現株式会社リクルート）入社 昭和59年4月 同社取締役広告事業本部副本部長 昭和59年11月 同社取締役広告事業本部本部長 昭和60年8月 同社常務取締役 昭和61年11月 同社専務取締役 平成6年7月 同社取締役副社長 平成9年6月 同社取締役社長 平成15年6月 同社取締役会長兼CEO 平成16年4月 同社取締役会長兼取締役会議長 平成16年6月 当社監査役 平成17年6月 当社取締役（現職） 株式会社リクルート特別顧問 平成20年4月 三井住友海上グループホールディングス株式会社（現MS&ADインシュアランスグループホールディングス株式会社）取締役	(注) 3	—
取締役	—	頃 安 健 司	昭和17年 4月16日生	昭和42年4月 東京地方検察庁検事 平成8年1月 法務省官房長 平成9年12月 最高検察庁総務部長 平成11年4月 同庁刑事部長 平成11年12月 法務総合研究所長 平成13年5月 札幌高等検察庁検事長 平成14年6月 名古屋高等検察庁検事長 平成15年2月 大阪高等検察庁検事長 平成16年7月 弁護士登録 東京永和法律事務所客員弁護士 平成17年6月 当社取締役（現職） 平成20年4月 三井住友海上グループホールディングス株式会社（現MS&ADインシュアランスグループホールディングス株式会社）取締役 平成20年7月 TMI 総合法律事務所顧問（現職）	(注) 3	—

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数
取締役	—	西村吉正	昭和15年 12月15日生	昭和38年4月 大蔵省入省 昭和63年6月 同省大阪税関長 平成元年6月 同省大臣官房審議官（銀行局担当） 平成4年6月 同省財政金融研究所（現財務総合政策研究所）所長 平成6年7月 同省銀行局長 平成8年9月 スタンフォード大学フーバー研究所特別客員研究員 平成9年10月 早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授 平成16年9月 同大学アジア太平洋研究科長 平成19年4月 同大学大学院商学研究科教授（現職） 平成22年4月 当社取締役（現職）	(注) 4	—
監査役 (常勤)	—	新谷和夫	昭和23年 11月17日生	昭和47年4月 当社入社 平成7年7月 道東支店長 平成9年6月 北海道本部道東支店長 平成10年4月 検査部部長（検査役） 平成11年1月 販売支援統括販売企画部部長 平成11年4月 販売支援統括販売企画部部長（代理店業務担当） 平成11年9月 販売支援統括部長（業務開発担当） 平成12年4月 販売支援統括リテールBSP推進担当部長 平成13年1月 総務部部長 平成13年3月 総務部長 平成13年10月 東京企業第二本部企業営業第三部長 平成14年6月 執行役員東京企業第二本部企業営業第三部長 平成15年6月 執行役員北海道本部長 平成16年4月 常務執行役員北海道本部長 平成17年4月 常務執行役員東京企業第一本部長兼金融公務営業推進本部長 平成17年10月 常務執行役員東京企業第一本部長兼同本部損害サービス改革本部長 金融公務営業推進本部長兼同本部損害サービス改革本部長 平成18年4月 常務執行役員東京企業第一本部長兼同本部損害サービス改革本部長 平成19年4月 常務執行役員東京企業第一本部長兼同本部損害サービス・イノベーション本部長 平成20年4月 常任監査役 平成20年6月 監査役（現職）	(注) 5	—
監査役 (常勤)	—	中川敏洋	昭和23年 7月14日生	昭和47年4月 住友海上火災保険株式会社入社 平成8年4月 同社埼玉東支店長 平成10年2月 同社岡山支店長 平成12年6月 同社中・四国営業本部長 平成12年6月 同社執行役員中・四国営業本部長 平成13年10月 当社執行役員四国本部長 平成14年6月 執行役員千葉埼玉本部長 平成16年4月 常務執行役員関東甲信越本部長 平成17年10月 常務執行役員関東甲信越本部長兼同本部損害サービス改革本部長 平成18年4月 専務執行役員関東甲信越本部長兼同本部損害サービス改革本部長 平成19年4月 専務執行役員関東甲信越本部長兼同本部損害サービス・イノベーション本部長 平成20年4月 三井住友海上グループホールディングス株式会社（現MS&ADインシュアランスグループホールディングス株式会社）専務取締役 平成21年4月 当社監査役（現職）	(注) 6	—

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数
監査役 (常勤)	—	宮 沢 秀 紀	昭和26年 6月3日生	昭和50年4月 当社入社 平成13年9月 関西業務部統合担当部長 平成13年10月 関西第一本部企画特命部長 平成14年4月 関西第一本部企画特命部長（コンプライアンス・オフィサー） 平成14年7月 関西本部大阪北支店長 平成17年4月 神奈川静岡本部静岡支店長 平成19年4月 理事 業務監査部長 平成22年4月 監査役（現職）	(注) 7	—
監査役	—	首 藤 恵	昭和23年 1月23日生	昭和47年4月 財団法人日本証券経済研究所研究員 昭和60年11月 同法人主任研究員 昭和63年4月 明海大学経済学部助教授 平成5年4月 中央大学経済学部教授 平成16年3月 早稲田大学大学院ファイナンス研究科教授 平成17年6月 当社監査役（現職） 平成20年9月 早稲田大学大学院ファイナンス研究科長兼ファイナンス研究センター所長（現職）	(注) 8	—
監査役	—	荒 井 卓 一	昭和22年 5月30日生	昭和49年11月 アーサーヤング会計事務所入所 昭和55年10月 公認会計士登録 昭和60年9月 監査法人朝日新和会計社（現あずさ監査法人）入社 平成8年5月 同法人代表社員 平成21年6月 同法人顧問 平成22年6月 当社監査役（現職）	(注) 9	—
監査役	—	西 山 茂	昭和36年 10月27日生	昭和59年4月 監査法人サンワ事務所（現監査法人トーマツ）入所 昭和62年3月 公認会計士登録 平成7年9月 株式会社西山アソシエイツ代表取締役 平成14年4月 早稲田大学アジア太平洋研究科助教授 平成18年4月 同大学アジア太平洋研究科教授 平成20年4月 同大学商学研究科教授（現職） 平成22年6月 当社監査役（現職）	(注) 9	—
計						—

- (注) 1 取締役河野栄子、頃安健司及び西村吉正は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。
- 2 監査役首藤 恵、荒井卓一及び西山 茂は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。
- 3 平成22年6月29日付の定時株主総会での選任後平成22年度に関する定時株主総会終結の時までであります。
- 4 平成22年4月1日付の臨時株主総会での選任後平成22年度に関する定時株主総会終結の時までであります。
- 5 平成20年4月1日付の臨時株主総会での選任後平成23年度に関する定時株主総会終結の時までであります。
- 6 平成21年4月1日付の臨時株主総会での選任後平成24年度に関する定時株主総会終結の時までであります。
- 7 平成22年4月1日付の臨時株主総会での選任後平成25年度に関する定時株主総会終結の時までであります。
- 8 平成21年6月25日付の定時株主総会での選任後平成24年度に関する定時株主総会終結の時までであります。
- 9 平成22年6月29日付の定時株主総会での選任後平成25年度に関する定時株主総会終結の時までであります。

## 6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

コーポレート・ガバナンスに対する基本的な考え方

当社は、MS&ADインシュアランスグループの一員として、「MS&ADインシュアランスグループ 経営理念・経営ビジョン・行動指針」のもと、経営資源の効率的な活用と適切なリスク管理を通じ、持続的発展を実現するため、透明性と牽制機能を備えた経営体制を構築し、当社及びMS&ADインシュアランスグループ全体の企業価値の向上に努めてまいります。

そのため、行動指針及び行動指針の具体的な活動を示すものとして、お客さま、株主等をはじめ7つのステークホルダー（利害関係者）への責任を適切に果たしていくことを明確にした「三井住友海上 行動憲章」の浸透に努めております。また、中期経営計画においても、コーポレート・ガバナンス、コンプライアンス、リスク管理等を経営の重要課題として位置づけ、計画の推進に積極的に取り組んでおります。

なお、当社は、完全親会社であるMS&ADインシュアランスグループホールディングス株式会社との間で経営管理契約を締結し、同社から経営に関する助言等を受けております。

#### ① 会社の機関

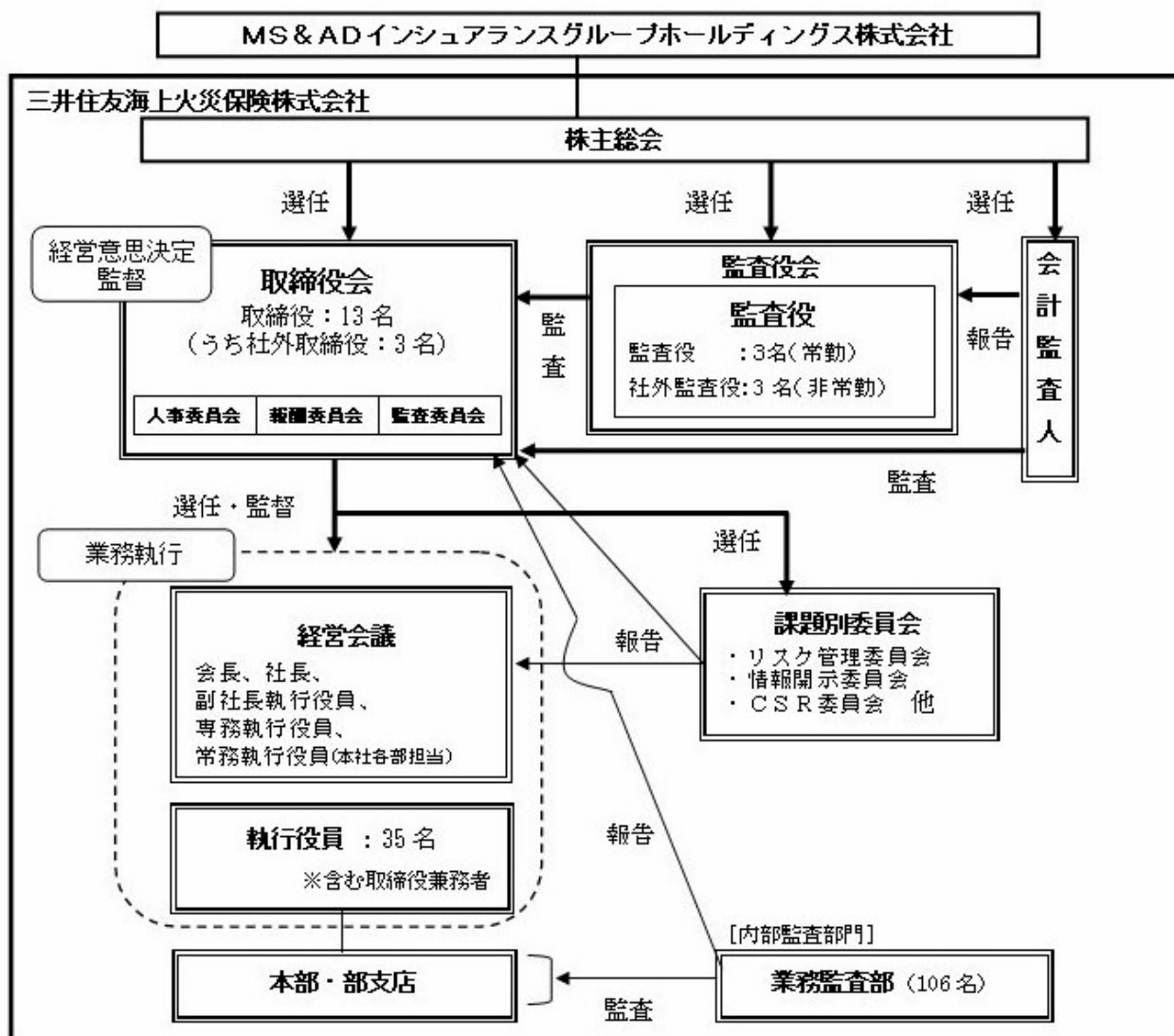
##### イ 会社の機関の基本説明

当社は、監査役会設置会社として、取締役（会）及び監査役（会）双方の機能の強化、積極的な情報開示等を通じ、ガバナンスの向上に取り組んでおります。

迅速な意思決定と適切なモニタリングを両立させるため、執行役員制度及び社外取締役を導入し、経営重要事項の決定及び監督を担う「取締役（会）」と執行責任を負う「執行役員」との役割分担の明確化及びその機能強化を図っております。

また、取締役会において実質的な論議を可能とするため取締役の員数を15名以内とするとともに、取締役会の内部委員会として、委員の過半数を社外取締役とする「人事委員会」「報酬委員会」「監査委員会」を設置することにより経営の監視・監督機能を強化し、透明性の高い経営を行っております。同時に、執行役員へ業務執行権限の委譲を進めることにより意思決定及び業務執行の迅速化を図っております。

ロ 当社の経営体制（平成22年6月29日現在）



ハ 各機関の内容

a. 取締役会

取締役会は、経営重要事項について論議・決定するとともに、取締役、執行役員の職務の執行を監督しております。

これらの機能を一層強化するため、取締役の役制を廃止（会長及び社長を除く。）するとともに、3名の社外取締役を選任しております。

また、取締役会の内部委員会として、委員の過半数を社外取締役とする「人事委員会」「報酬委員会」「監査委員会」を設置することにより経営の監視・監督機能を強化し、透明性の高い経営を行っております。

・人事委員会

取締役、執行役員、理事の候補者の選任等の重要な人事事項について審議し、取締役会に助言することとしております。

・報酬委員会

取締役、執行役員、理事の業績評価、報酬等について取締役会に助言することとしております。

・監査委員会

業務運営の適切性を検証し、その結果について取締役会に意見具申することとしております。



b. 監査役会・監査役

監査役会は、常勤監査役3名、非常勤監査役（社外監査役）3名で構成されております。

各監査役は、監査役会で定めた監査の方針・計画等に従い、取締役会その他の重要な会議への出席、重要な決裁書類等の閲覧、本社、部支店及び海外拠点への往査、子会社の調査等により、取締役の職務の執行、内部統制等について監査しております。

c. 経営会議

当社では、執行役員が、取締役会の定める基本方針に沿って、具体的な業務執行を担うことから、会長、社長、専務以上執行役員及び本社各部担当の常務執行役員で構成する経営会議を設置しております。経営会議では、経営方針、経営戦略等、会社の経営、事業の遂行に関する重要な事項について協議するとともに、執行役員による決裁事項の一部について報告を受けることにより具体的な業務執行のモニタリングを行っております。

d. その他の機関

業務執行上の経営的重要事項に関する協議及び関係部門の意見の相互調整を図ることを目的に、当該事項を所管する執行役員を中心に構成する課題別委員会を設置しております。委員会の協議結果は、必要に応じ担当役員が取りまとめ、取締役会、経営会議等に報告しております。なお、MS&ADインシュアランスグループ全体にかかわる重要事項については、MS&ADインシュアランスグループホールディングス株式会社の課題別委員会にて協議することとしております。

主な委員会は以下のとおりであります。

・リスク管理委員会（原則年2回）

リスク管理に関する方針・計画、リスク及びリスク管理状況のモニタリング、リスク量と資本の状況の確認ならびにその他の重要事項について協議・調整等を行い、統合リスク管理の推進・徹底を行っております。

・情報開示委員会（原則年2回）

財務情報をはじめとする当社の企業情報を適正に開示できるよう、社内の業務プロセスを検証し、内部統制の有効性評価を行っております。

・CSR委員会（原則年2回）

企業価値向上・持続的発展のため、CSR（企業の社会的責任）取組の全体バランスの最適化・レベルアップと総合的な進捗管理を行っております。

② 内部統制システムに関する基本的な考え方及びその整備状況

会社法及び会社法施行規則に基づき決定した「内部統制システムに関する方針」の概要は以下のとおりであり、本方針に基づき体制を整備しております。

1. 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

迅速な意思決定と適切なモニタリングを両立させるため、執行役員制度及び社外取締役を導入するとともに、取締役の員数を15名以内とする。

2. 取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

(1) 「MS&ADインシュアランス グループ コンプライアンス基本方針」を当社のコンプライアンスに係る基本方針及び遵守基準として、その周知徹底を図るとともに、法令等遵守規程を制定し、コンプライアンスの徹底と企業倫理の確立を図る。また、反社会的勢力排除のための体制整備に取り組み、全役職員に反社会的勢力に対しては毅然とした姿勢で臨み、不当、不正な要求には応じない旨を徹底する。

(2) コンプライアンスに係る具体的な計画としてコンプライアンス・プログラムを策定する。また、コンプライアンスの推進・徹底を図るため、コンプライアンス統括部門等の組織・体制を整備するとともに、コンプライアンスを含めた業務運営の適切性を検証し取締役会に意見具申する機関として、取締役会内部に監査委員会を設置する。なお、違法行為等に関する情報把握ルートの確保を図るため、内部通報制度を別途設ける。

3. 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

「MS&ADインシュアランス グループ リスク管理基本方針」に従い、リスク管理方針を策定し、適切にリスク管理を行うための組織・体制及びリスク管理における役割と責任を明確に定めるとともに、統合リスク管理の推進・徹底を図るためリスク管理委員会を設置する。また、リスクモニタリング部門は、リスク及びリスク管理の状況をモニタリングするとともにリスク量と資本の比較により、必要な資本が確保されることを確認する。なお、危機発生時においては、危機管理マニュアルに基づき適切に対応する。

4. 財務報告の信頼性を確保するための体制

監査役のうち最低1名は経理又は財務に関して十分な知識を有する者を選任する。また、「MS&ADインシュアランス グループ 情報開示統制基本方針」に従い、当社及び当社の連結子会社に関する財務情報及び非財務情報を適時かつ適正に開示するため、情報開示委員会等の体制を整備する。なお、情報開示委員会は、情報開示統制の有効性の評価結果（金融商品取引法に準拠して実施する「財務報告に係る内部統制」の整備・運用状況の評価結果を含む。）を検証する。

5. 内部監査の実効性を確保するための体制

「MS&ADインシュアランス グループ 内部監査基本方針」に従い、効率的かつ実効性のある内部監査を実施するため、内部監査部門として独立した専門組織を設置し、当社及び当社の子会社・関連会社のすべての業務活動を対象として内部監査を実施する。内部監査部門には、専門性を有する内部監査人を配置すると同時に、適正な要員規模を確保する。また、内部監査規程に内部監査にかかわる基本的事項を定めるとともに、内部監査方針及び内部監査計画を策定する。内部監査部門は、内部監査結果及び改善状況等を定期的に取り締り会及び監査委員会に報告する。

6. 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

文書管理規程に従い、取締役及び執行役員の職務の執行に係る文書その他の情報を適切に保存及び管理する。取締役及び監査役は、これらの情報を常時閲覧できるものとする。

7. 監査役監査の実効性を確保するための体制

(1) 監査役室を設け専任の従業員を置く。監査役室の組織変更、当該従業員の人事異動及び懲戒処分を行うにあたっては監査役会の同意を得るほか、当該従業員の人事考課については監査役会が定める監査役と協議のうえ行う。

(2) 取締役及び執行役員は、職務執行に関して重大な法令・定款違反もしくは不正行為の事実又は会社に著しい損害を及ぼすおそれのある事実を知ったときは、直ちに監査役会に報告しなければならない。また、事業・組織に重大な影響を及ぼす決定、内部監査の実施結果、内部通報制度における通報状況及び内容を遅滞なく監査役会に報告する。従業員は、これらの報告事項について監査役会に直接報告できるものとする。

(3) 監査役が、経営会議、執行役員会議、リスク管理委員会その他の重要な会議に出席できるものとする。また、取締役会長、取締役社長及び代表取締役は監査役会と定期的に意見交換を行い、内部監査部門は監査役の監査に協力する。

#### 8. 当社及び子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

- (1) 当社は、MS&ADインシュアランスグループホールディングス株式会社（以下「持株会社」という。）と締結する「経営管理契約」に定められた義務等を適切に履行するために必要な対応を行う。
- (2) 当社は、持株会社と締結する「経営管理契約」に基づき、当社の子会社・関連会社の経営管理を行う。そのため、当社における担当執行役員及び担当部門を定めるとともに、グループ横断の内部統制システムを整備するにあたり必要な助言・指導・支援を行う。子会社を所管する当社各部門は、子会社管理上の重要事項について当社取締役会に報告する。また、子会社・関連会社のリスク管理に関する事項についてはリスク管理委員会等において、コンプライアンスに関する事項についてはコンプライアンス統括部門及び監査委員会等において、横断的にモニタリングを行う。
- (3) 当社は、当社及び当社の子会社・関連会社の全役職員が、不正・違法・反倫理的行為を社内の窓口及び社外の弁護士に直接通報できる制度を設ける。また、万が一、当社より法令違反行為を強要され、それを拒否できない場合、子会社・関連会社の業務執行者又は監査役等は、当社監査役又は当社業務執行者から独立した通報窓口に対して報告を行う。

#### ③ 会計監査の状況

あずさ監査法人を会計監査人に選任しており、森公高氏、平栗郁朗氏及び久野佳樹氏が監査業務を執行しております。また、監査業務に係る補助者の人数は、公認会計士7名、その他16名であります。

#### ④ 監査・監督の各機関の連携状況

##### イ 監査役と会計監査人の連携状況

監査役は、定例の打合会により監査計画、監査実施状況、監査結果等について、会計監査人から報告・説明を受けております。

また、必要に応じ会計監査上の諸問題について意見・情報交換を行っております。

##### ロ 監査役と内部監査部門の連携状況

監査役と内部監査部門は、定期的（原則、月1回）に連絡会を開催し監査方針、監査の実施状況等について意見・情報交換を行っております。

また、内部監査部門による監査結果は、全件監査役に報告されております。

#### ⑤ 役員報酬

当連結会計年度における当社の取締役に対する報酬その他職務遂行の対価の総額は352百万円（うち社外取締役15百万円）、また当社の監査役に対する報酬その他職務遂行の対価の総額は99百万円（うち社外監査役22百万円）であります。

なお、当社では、平成17年3月31日をもって退職慰労金制度を廃止しており、取締役及び監査役の当連結会計年度中の職務遂行の対価としての退職慰労金はありません。また、平成17年3月31日までの在任期間中の職務遂行の対価として、当連結会計年度中に支払った退職慰労金（既に退任している取締役及び監査役に対する年金の支給額を含みます。）が、287百万円（うち取締役278百万円、監査役8百万円）あります。

⑥ 責任限定契約の締結

氏名		責任限定契約の内容の概要
社外取締役	河野 栄子 頃安 健司 西村 吉正	当社は各氏との間で会社法第423条第1項の賠償責任を限定する契約を締結しており、当該契約に基づく責任の限度額は、会社法第425条第1項各号に定める額の合計額となります。
社外監査役	首藤 恵 荒井 卓一 西山 茂	

※会計監査人について、該当事項はありません。

⑦ 社外取締役及び社外監査役との関係

当社では、社外取締役3名と社外監査役3名を選任しております。現在、社外取締役及び社外監査役と当社との間には特別な利害関係はありません。

⑧ 取締役の定数

当社では、取締役は15名以内とする旨を定款に定めております。

⑨ 取締役の選解任の決議要件

当社では、取締役の選任決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨を定款に定めております。なお、取締役の選任決議は、累積投票によらないものとしております。

⑩ 株主総会決議事項を取締役会で決議することができることとした事項

イ 当社では、完全親会社であるMS&ADインシュアランスグループホールディングス株式会社の資本政策に沿って迅速かつ機動的に配当を行えるよう、会社法第459条第1項の規定により、取締役会の決議によって剰余金の配当等を決定することができる旨を定款に定めております。

ロ 当社では、社外取締役及び社外監査役を招聘するに当たり、取締役及び監査役の責任を合理的な範囲にとどめることにより、それぞれが職務の執行に際して期待される役割を十分に発揮できるよう、会社法第426条第1項の規定により、任務を怠ったことによる取締役（取締役であった者を含む。）及び監査役（監査役であった者を含む。）の損害賠償責任を、法令の限度において、取締役会の決議によって免除することができる旨を定款に定めております。

また、会社法第427条第1項の規定により、社外取締役及び社外監査役との間に、任務を怠ったことによる損害賠償責任を限定する契約を締結することができる旨を定款に定めております。ただし、当該契約に基づく責任の限度額は、会社法第425条第1項各号に定める額の合計額としております。

⑪ 株主総会の特別決議要件の変更

当社では、株主総会における円滑な意思決定を行うために、会社法第309条第2項に定める決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。

(2) 【監査報酬の内容等】

① 【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬（百万円）	非監査業務に基づく報酬（百万円）	監査証明業務に基づく報酬（百万円）	非監査業務に基づく報酬（百万円）
提出会社	131	27	131	—
連結子会社	2	—	2	—
計	133	27	133	—

② 【その他重要な報酬の内容】

（前連結会計年度）

当社及び当社の連結子会社は、当社の監査公認会計士等と同一のネットワークに属しているKPMG台湾等に対して、監査証明業務及び非監査業務に基づく報酬として160百万円を支払っております。

（当連結会計年度）

当社及び当社の連結子会社は、当社の監査公認会計士等と同一のネットワークに属しているKPMG LLP (Singapore)等に対して、監査証明業務及び非監査業務に基づく報酬として257百万円を支払っております。

③ 【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

（前連結会計年度）

当社が監査公認会計士等に対して報酬を支払っている非監査業務の内容は、財務デュー・デリジェンスに係るアドバイザー業務等であります。

（当連結会計年度）

該当事項はありません。

④ 【監査報酬の決定方針】

決定方針の定めはありませんが、監査に要する日数、監査人の人数等を総合的に勘案して決定しております。

## 第5【経理の状況】

### 1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号。以下「連結財務諸表規則」という。）並びに同規則第46条及び第68条の規定に基づき「保険業法施行規則」（平成8年大蔵省令第5号）に準拠して作成しております。

なお、前連結会計年度（自平成20年4月1日 至平成21年3月31日）は、改正前の連結財務諸表規則及び保険業法施行規則に基づき、当連結会計年度（自平成21年4月1日 至平成22年3月31日）は、改正後の連結財務諸表規則及び保険業法施行規則に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。）第2条に基づき、同規則及び「保険業法施行規則」（平成8年大蔵省令第5号）に準拠して作成しております。

なお、前事業年度（自平成20年4月1日 至平成21年3月31日）は、改正前の財務諸表等規則及び保険業法施行規則に基づき、当事業年度（自平成21年4月1日 至平成22年3月31日）は、改正後の財務諸表等規則及び保険業法施行規則に基づいて作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前連結会計年度（自平成20年4月1日 至平成21年3月31日）及び当連結会計年度（自平成21年4月1日 至平成22年3月31日）の連結財務諸表並びに前事業年度（自平成20年4月1日 至平成21年3月31日）及び当事業年度（自平成21年4月1日 至平成22年3月31日）の財務諸表について、あずさ監査法人による監査を受けております。

### 3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、「第4 提出会社の状況 6 コーポレート・ガバナンスの状況等」（1）②に記載のとおり、「内部統制システムに関する方針」に基づき財務報告の信頼性を確保するための体制を整備しております。当該体制整備の一環として、会計基準等の内容を適切に把握し、会計基準等の変更等についての的確に対応するため、公益財団法人財務会計基準機構及び企業会計基準委員会の行うセミナーへの参加等により必要な情報を入手しております。

1 【連結財務諸表等】  
 (1) 【連結財務諸表】  
 ① 【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成21年3月31日)	当連結会計年度 (平成22年3月31日)
<b>資産の部</b>		
現金及び預貯金	※4 435,496	※4 297,098
コールローン	31,900	33,700
買現先勘定	—	15,998
買入金銭債権	127,339	108,158
金銭の信託	14,476	10,592
有価証券	※2、※4、※5 4,058,016	※2、※4、※5 4,363,277
貸付金	※3、※8 754,700	※3、※8 718,625
有形固定資産	※1、※4 261,705	※1、※4 253,302
土地	103,117	100,852
建物	134,410	129,027
建設仮勘定	1,429	4,427
その他の有形固定資産	22,747	18,995
無形固定資産	60,146	63,419
ソフトウェア	4,197	8,488
のれん	52,279	50,940
その他の無形固定資産	3,669	3,990
その他資産	419,642	429,155
繰延税金資産	140,393	6,058
貸倒引当金	△6,635	△9,061
資産の部合計	6,297,181	6,290,327
<b>負債の部</b>		
保険契約準備金	4,807,619	4,666,409
支払備金	770,979	728,646
責任準備金等	4,036,640	3,937,762
社債	164,960	94,969
その他負債	295,930	192,491
退職給付引当金	80,616	81,948
役員退職慰労引当金	2,311	2,003
賞与引当金	11,237	11,412
特別法上の準備金	2,871	2,689
価格変動準備金	2,871	2,689
繰延税金負債	3,537	32,148
負債の部合計	5,369,086	5,084,072
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	139,595	139,595
資本剰余金	93,107	93,107
利益剰余金	436,906	433,290
株主資本合計	669,609	665,993
<b>評価・換算差額等</b>		
その他有価証券評価差額金	288,487	574,244
繰延ヘッジ損益	9,671	2,138
為替換算調整勘定	△49,625	△40,309
評価・換算差額等合計	248,532	536,072
少数株主持分	9,952	4,188
純資産の部合計	928,094	1,206,255
負債及び純資産の部合計	6,297,181	6,290,327

## ②【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)		当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	
	経常収益	1,961,297		1,846,886
保険引受収益	1,766,244		1,720,446	
正味収入保険料	1,423,067		1,361,758	
収入積立保険料	165,464		145,026	
積立保険料等運用益	52,862		54,064	
生命保険料	34,095		—	
支払備金戻入額	—		52,496	
責任準備金等戻入額	89,795		104,614	
その他保険引受収益	959		2,486	
資産運用収益	188,085		119,561	
利息及び配当金収入	155,376		124,094	
金銭の信託運用益	118		675	
有価証券売却益	75,551		19,146	
有価証券償還益	3,726		1,727	
金融派生商品収益	576		24,777	
その他運用収益	5,598		3,205	
積立保険料等運用益振替	△52,862		△54,064	
その他経常収益	6,966		6,878	
持分法による投資利益	—		416	
その他の経常収益	6,966		6,461	
経常費用	1,967,151		1,797,236	
保険引受費用	1,511,604		1,481,820	
正味支払保険金	879,310		894,109	
損害調査費	※1	80,652	※1	78,381
諸手数料及び集金費	※1	234,592	※1	228,323
満期返戻金	283,405		278,423	
契約者配当金	507		1,062	
生命保険金等	7,446		—	
支払備金繰入額	21,856		—	
その他保険引受費用	3,832		1,519	
資産運用費用	169,674		46,594	
金銭の信託運用損	2,661		21	
有価証券売却損	17,414		16,992	
有価証券評価損	118,122		6,065	
有価証券償還損	9,358		4,435	
その他運用費用	22,116		19,077	
営業費及び一般管理費	※1	280,159	※1	262,352
その他経常費用	5,714		6,469	
支払利息	1,631		2,244	
貸倒引当金繰入額	1,971		2,053	
貸倒損失	269		131	
持分法による投資損失	60		—	
その他の経常費用	1,781		2,039	
経常利益又は経常損失(△)	△5,854		49,650	



(単位：百万円)

	前連結会計年度		当連結会計年度	
	(自	平成20年4月1日	(自	平成21年4月1日
	至	平成21年3月31日)	至	平成22年3月31日)
特別利益		27,308		3,773
固定資産処分益		1,414		3,591
特別法上の準備金戻入額		25,893		182
価格変動準備金戻入額		25,893		182
特別損失		3,658		5,969
固定資産処分損		2,613		2,538
減損損失		※2 1,044		※2 3,431
税金等調整前当期純利益		17,795		47,454
法人税及び住民税等		33,629		18,633
過年度法人税等戻入額		△7,307		△13,947
法人税等調整額		△24,668		7,172
法人税等合計		1,653		11,857
少数株主利益		1,169		781
当期純利益		14,972		34,815

## ③【連結株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)		当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	
<b>株主資本</b>				
資本金				
前期末残高		139,595		139,595
当期末残高		139,595		139,595
資本剰余金				
前期末残高		93,107		93,107
当期末残高		93,107		93,107
利益剰余金				
前期末残高		534,410		436,906
当期変動額				
実務対応報告第18号の適用に伴う変動		8,986		—
剰余金の配当		△145,482		△37,375
連結範囲の変動		8,550		△1,055
持分法の適用範囲の変動		15,469		—
当期純利益		14,972		34,815
当期変動額合計		△97,504		△3,615
当期末残高		436,906		433,290
株主資本合計				
前期末残高		767,113		669,609
当期変動額				
実務対応報告第18号の適用に伴う変動		8,986		—
剰余金の配当		△145,482		△37,375
連結範囲の変動		8,550		△1,055
持分法の適用範囲の変動		15,469		—
当期純利益		14,972		34,815
当期変動額合計		△97,504		△3,615
当期末残高		669,609		665,993

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		
前期末残高	875,914	288,487
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△587,427	285,756
当期変動額合計	△587,427	285,756
当期末残高	288,487	574,244
繰延ヘッジ損益		
前期末残高	528	9,671
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	9,142	△7,532
当期変動額合計	9,142	△7,532
当期末残高	9,671	2,138
為替換算調整勘定		
前期末残高	11,505	△49,625
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△61,131	9,316
当期変動額合計	△61,131	9,316
当期末残高	△49,625	△40,309
評価・換算差額等合計		
前期末残高	887,949	248,532
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△639,416	287,540
当期変動額合計	△639,416	287,540
当期末残高	248,532	536,072
少数株主持分		
前期末残高	16,454	9,952
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△6,501	△5,764
当期変動額合計	△6,501	△5,764
当期末残高	9,952	4,188
純資産合計		
前期末残高	1,671,517	928,094
当期変動額		
実務対応報告第18号の適用に伴う変動	8,986	—
剰余金の配当	△145,482	△37,375
連結範囲の変動	8,550	△1,055
持分法の適用範囲の変動	15,469	—
当期純利益	14,972	34,815
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△645,917	281,775
当期変動額合計	△743,422	278,160
当期末残高	928,094	1,206,255

## ④【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)		当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	
	営業活動によるキャッシュ・フロー			
税金等調整前当期純利益		17,795		47,454
減価償却費		21,123		21,276
減損損失		1,044		3,431
のれん償却額		3,640		3,617
負ののれん償却額		△16		△20
支払備金の増減額 (△は減少)		33,225		△55,769
責任準備金等の増減額 (△は減少)		△87,816		△105,182
貸倒引当金の増減額 (△は減少)		1,777		2,331
退職給付引当金の増減額 (△は減少)		3,093		1,283
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)		△290		△307
賞与引当金の増減額 (△は減少)		△1,900		143
価格変動準備金の増減額 (△は減少)		△25,893		△182
利息及び配当金収入		△155,376		△124,094
有価証券関係損益 (△は益)		65,618		6,621
金融派生商品損益 (△は益)		△576		△24,777
支払利息		1,631		2,244
為替差損益 (△は益)		8,494		363
有形固定資産関係損益 (△は益)		1,199		△1,053
持分法による投資損益 (△は益)		60		△416
その他資産 (除く投資活動関連、財務活動関連) の増減額 (△は増加)		△26,076		△15,166
その他負債 (除く投資活動関連、財務活動関連) の増減額 (△は減少)		△2,121		△6,322
その他		9,672		14,259
小計		△131,689		△230,265
利息及び配当金の受取額		154,785		125,825
利息の支払額		△1,659		△2,321
法人税等の支払額		△16,752		△16,581
営業活動によるキャッシュ・フロー		4,683		△123,343
投資活動によるキャッシュ・フロー				
預貯金の純増減額 (△は増加)		△43,923		22,611
買入金銭債権の取得による支出		△3,000		—
買入金銭債権の売却・償還による収入		3,692		4,934
金銭の信託の増加による支出		△3		△13
金銭の信託の減少による収入		33,090		5,400
有価証券の取得による支出		△707,381		△542,788
有価証券の売却・償還による収入		829,837		700,581
貸付けによる支出		△184,378		△148,806
貸付金の回収による収入		205,677		184,162
債券貸借取引受入担保金の純増減額 (△は減少)		24,466		△60,508
その他		4,980		△391
資産運用活動計		163,058		165,182
営業活動及び資産運用活動計		167,741		41,838
有形固定資産の取得による支出		△17,219		△16,213
有形固定資産の売却による収入		2,775		5,365
無形固定資産の取得による支出		△2,332		△6,418
その他		△3,661		△569
投資活動によるキャッシュ・フロー		142,621		147,345

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期社債の発行による収入	16,949	—
短期社債の償還による支出	△47,000	—
社債の発行による収入	64,967	—
社債の償還による支出	—	△70,000
配当金の支払額	△47,889	△37,375
少数株主への配当金の支払額	△1,235	△910
その他	△851	△756
財務活動によるキャッシュ・フロー	△15,059	△109,041
現金及び現金同等物に係る換算差額	△45,943	8,554
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	86,302	△76,485
現金及び現金同等物の期首残高	364,081	438,869
連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額	※2 △11,514	△1,316
現金及び現金同等物の期末残高	※1 438,869	※1 361,067

【連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項】

項目	前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
1 連結の範囲に関する事項	<p>(1) 連結子会社数 34社</p> <p>主要な連結子会社は「第1 企業の概況 4 関係会社の状況」に記載しているため省略いたしました。</p> <p>提出会社の親会社である三井住友海上グループホールディングス株式会社に対し、三井住友海上きらめき生命保険株式会社及び三井ダイレクト損害保険株式会社の株式を現物配当したことにより、当連結会計年度からこれらを連結の範囲から除外しております。なお、連結損益計算書及び連結キャッシュ・フロー計算書には、期首から平成20年6月30日までの損益及びキャッシュ・フローが含まれております。</p> <p>また、MSIG Insurance (Vietnam) Company Limitedを新たに設立したため、当連結会計年度から連結の範囲に含めております。</p> <p>(2) 非連結子会社 主な会社名 三井住友海上損害調査株式会社 三井住友海上スタッフサービス株式会社</p> <p>非連結子会社とした会社は、その総資産、経常収益、当期純損益のうち持分に見合う額及び利益剰余金のうち持分に見合う額等からみて、企業集団の財政状態及び経営成績に関する合理的な判断を妨げない程度に重要性の乏しい会社であります。</p>	<p>(1) 連結子会社数 33社</p> <p>主要な連結子会社は「第1 企業の概況 4 関係会社の状況」に記載しているため省略いたしました。</p> <p>なお、MSIG Insurance (Lao) Co., Ltd.を新たに設立したため、当連結会計年度から連結の範囲に含めております。</p> <p>また、Mitsui Sumitomo Insurance Company (Hong Kong), Limitedについては、事業再編により重要性が乏しくなったため、Thousand Fortune Islands Corporationについては、同社が発行した社債を取得し同社の資金調達額の総額の過半について融資を行うことにより資金の関係を通じて子会社としておりましたが、当該社債が償還されたため、それぞれ当連結会計年度より連結の範囲から除外しております。</p> <p>(2) 非連結子会社 同左</p>
2 持分法の適用に関する事項	<p>(1) 持分法適用の関連会社数 3社 主な会社名 三井住友アセットマネジメント株式会社</p>	<p>(1) 持分法適用の関連会社数 3社 主な会社名 三井住友アセットマネジメント株式会社</p>

項目	前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
3 連結子会社の事業年度等に関する事項	<p>SMA MSI ASについては、連結子会社であるMitsui Sumitomo Insurance Company (Europe), Limitedが当連結会計年度に株式を取得したことにより新たに関連会社となったため、当連結会計年度から持分法を適用しております。</p> <p>また、提出会社の親会社である三井住友海上グループホールディングス株式会社に対し、三井住友海上メットライフ生命保険株式会社の株式を現物配当したことにより、当連結会計年度から同社を持分法適用の関連会社から除外しております。なお、連結損益計算書には期首から平成20年6月30日までの持分法損益が含まれております。</p> <p>(2) 持分法を適用していない非連結子会社及び関連会社（三井住友海上スタッフサービス株式会社、BPI/MS Insurance Corporation他）については、それぞれ連結純損益及び利益剰余金等に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため、持分法の適用から除外しております。</p> <p>連結子会社のうち、MSIG Holdings (Americas), Inc. 他32社の決算日は12月31日ですが、決算日の差異が3ヵ月を超えていないため、本連結財務諸表の作成に当たっては、同日現在の決算財務諸表を使用しております。</p> <p>なお、連結決算日との差異期間における重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。</p>	<p>(2) 同左</p> <p>連結子会社のうち、MSIG Holdings (Americas), Inc. 他31社の決算日は12月31日ですが、決算日の差異が3ヵ月を超えていないため、本連結財務諸表の作成に当たっては、同日現在の決算財務諸表を使用しております。</p> <p>なお、連結決算日との差異期間における重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。</p>
4 会計処理基準に関する事項	<p>(1) 有価証券（保険業法施行規則上の「現金及び預貯金」又は「買入金銭債権」に区分されるものを含む）の評価基準及び評価方法</p> <p>① 満期保有目的の債券の評価は、償却原価法によっております。</p> <p>② 持分法を適用していない非連結子会社株式及び関連会社株式の評価は、移動平均法に基づく原価法によっております。</p>	<p>(1) 有価証券（保険業法施行規則上の「現金及び預貯金」又は「買入金銭債権」に区分されるものを含む）の評価基準及び評価方法</p> <p>① 同左</p> <p>② 同左</p>

項目	前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
	<p>③ その他有価証券のうち時価のあるものの評価は、期末日の市場価格等に基づく時価法によっております。なお、評価差額は全部純資産直入法により処理し、また、売却原価の算定は移動平均法に基づいております。</p> <p>④ その他有価証券のうち時価のないものの評価は、移動平均法に基づく原価法又は償却原価法によっております。</p> <p>⑤ 有価証券運用を主目的とする単独運用の金銭の信託において信託財産として運用されている有価証券の評価は、時価法によっております。</p> <p>(2) デリバティブ取引の評価基準及び評価方法 デリバティブ取引の評価は、時価法によっております。ただし、為替予約等の振当処理の適用要件を満たすものについて振当処理を、金利スワップの特例処理の適用要件を満たすものについて特例処理を適用しております。</p> <p>(3) 重要な減価償却資産の減価償却の方法</p> <p>① 有形固定資産 提出会社及び国内連結子会社の有形固定資産の減価償却は、定率法によっております。ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）については、定額法によっております。 在外連結子会社の有形固定資産の減価償却は、主に定額法によっております。</p> <p>② 無形固定資産 自社利用のソフトウェアの減価償却は、見積利用可能期間に基づく定額法によっております。</p>	<p>③ 同左</p> <p>④ その他有価証券のうち時価を把握することが極めて困難と認められるものの評価は、移動平均法に基づく原価法によっております。</p> <p>⑤ 同左</p> <p>(会計方針の変更) 「金融商品に関する会計基準」の適用 当連結会計年度末より、「金融商品に関する会計基準」（企業会計基準第10号（平成20年3月10日 最終改正））を適用し、時価をもって評価する有価証券の範囲を変更しております。なお、当該会計基準の適用が連結財務諸表に与える影響は軽微であります。</p> <p>(2) デリバティブ取引の評価基準及び評価方法 同左</p> <p>(3) 重要な減価償却資産の減価償却の方法 同左</p>



項目	前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
	<p>(4) 重要な引当金の計上基準</p> <p>① 貸倒引当金</p> <p>提出会社は、債権の貸倒れによる損失に備えるため、資産の自己査定基準及び償却・引当基準により、次のとおり計上しております。</p> <p>破産、特別清算、手形交換所における取引停止処分等、法的・形式的に経営破綻の事実が発生している債務者に対する債権及び実質的に経営破綻に陥っている債務者に対する債権については、債権額から担保の処分可能見込額及び保証による回収が可能と認められる額等を控除し、その残額を引き当てております。</p> <p>今後、経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者に対する債権については、債権額から担保の処分可能見込額及び保証による回収が可能と認められる額等を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断して必要と認められる額を引き当てております。</p> <p>上記以外の債権については、過去の一定期間における貸倒実績等から算出した貸倒実績率を債権額に乗じた額を引き当てております。</p> <p>また、全ての債権は資産の自己査定基準に基づき、関連部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しており、その査定結果に基づいて上記の引き当てを行っております。</p> <p>国内連結子会社は、提出会社に準じた資産の自己査定基準に基づき、資産査定を実施し、その査定結果に基づいて必要額を引き当てております。</p> <p>在外連結子会社は、主に個別の債権について回収可能性を検討し、貸倒見積額を計上しております。</p> <p>② 退職給付引当金</p> <p>従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。</p> <p>過去勤務債務は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により費用処理しております。</p>	<p>(4) 重要な引当金の計上基準</p> <p>① 貸倒引当金 同左</p> <p>② 退職給付引当金 同左</p>

項目	前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
	<p>数値計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により翌連結会計年度から費用処理することとしております。</p> <p>一部の連結子会社は、退職給付債務の算定に当たり、簡便法を採用しております。</p> <p>③ 役員退職慰労引当金 提出会社は、役員及び執行役員の退職慰労金（年金を含む）の支出に備えるため、当該退職慰労金の制度を廃止した平成17年3月末までの在任期間中の職務遂行に係る対価相当額を計上しております。</p> <p>④ 賞与引当金 従業員及び執行役員の賞与に充てるため、期末における支給見込額を基準に計上しております。</p> <p>⑤ 価格変動準備金 提出会社は株式等の価格変動による損失に備えるため、保険業法第115条の規定に基づき計上しております。</p> <p>(5) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準 外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外連結子会社等の資産及び負債は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び少数株主持分に含めております。</p>	<p>(会計方針の変更) 「『退職給付に係る会計基準』の一部改正（その3）」の適用 当連結会計年度末より、「『退職給付に係る会計基準』の一部改正（その3）」（企業会計基準第19号 平成20年7月31日）を適用しております。なお、従来の方法による割引率と同一の割引率を使用することとなったため、当連結会計年度の連結財務諸表に与える影響はありません。</p> <p>③ 役員退職慰労引当金 同左</p> <p>④ 賞与引当金 従業員及び執行役員の賞与に充てるため、当連結会計年度末における支給見込額を基準に計上しております。</p> <p>⑤ 価格変動準備金 同左</p> <p>(5) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準 同左</p>

項目	前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
	<p>(6) 消費税等の処理方法</p> <p>提出会社及び国内連結子会社の消費税等の会計処理は税抜方式によっております。ただし、提出会社の損害調査費、営業費及び一般管理費等の費用は税込方式によっております。なお、資産に係る控除対象外消費税等はその他資産に計上し、5年間で均等償却を行っております。</p> <p>(7) 重要なリース取引の処理方法</p> <p>所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年4月1日前に開始する連結会計年度に属するものについては、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。</p> <p>(会計方針の変更)</p> <p>「リース取引に関する会計基準」の適用</p> <p>所有権移転外ファイナンス・リース取引については、「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号(平成5年6月17日(企業会計審議会第一部会)、平成19年3月30日改正))及び「リース取引に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第16号(平成6年1月18日(日本公認会計士協会会計制度委員会)、平成19年3月30日改正))が平成20年4月1日以後開始する連結会計年度から適用されることになったことに伴い、当連結会計年度からこれらの会計基準等を適用し、リース取引開始日が平成20年4月1日以降の所有権移転外ファイナンス・リース取引について通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理によることとしております。</p> <p>なお、これらの会計基準等の適用が連結財務諸表に与える影響は軽微であります。</p>	<p>(6) 消費税等の処理方法</p> <p>同左</p>

項目	前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
<p>5 連結子会社の資産及び負債の評価に関する事項</p> <p>6 のれん及び負ののれんの償却に関する事項</p> <p>7 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲</p>	<p>(8) 重要なヘッジ会計の方法</p> <p>提出会社は、株価変動リスクをヘッジする目的で実施する株式先渡取引については繰延ヘッジを適用しております。外貨建債券等に係る為替変動リスクをヘッジする目的で実施する取引のうち、通貨スワップ取引については繰延ヘッジを適用し、為替予約取引の一部については時価ヘッジ又は振当処理を適用しております。また、金利変動に伴う貸付金及び債券のキャッシュ・フロー変動リスクをヘッジする目的で実施する金利スワップ取引については、繰延ヘッジ又は金利スワップの特例処理を適用しております。</p> <p>なお、ヘッジの有効性については、ヘッジ開始時から有効性判定時点までの期間において、ヘッジ対象の相場変動又はキャッシュ・フロー変動の累計とヘッジ手段の相場変動又はキャッシュ・フロー変動の累計とを四半期毎に比較し、両者の変動額等を基礎にして判断しております。ただし、ヘッジ対象とヘッジ手段との間に高い相関関係があることが明らかなもの及び金利スワップの特例処理の適用要件を満たすものについては、ヘッジ有効性の判定は省略しております。また、ALM（資産負債総合管理）における金利変動リスクを適切にコントロールする目的で実施している金利スワップ取引の一部については、業種別監査委員会報告第26号「保険業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会 平成14年9月3日）に基づく繰延ヘッジ処理及びヘッジ有効性の評価を行っております。ヘッジ有効性の評価はヘッジ対象とヘッジ手段双方の理論価格の算定に影響を与える金利の状況を検証することにより行っております。</p> <p>連結子会社の資産及び負債の評価については、全面時価評価法を採用しております。</p> <p>のれんについては、20年間で均等償却を行っております。ただし、少額のものについては発生年度に一括償却しております。</p> <p>連結キャッシュ・フロー計算書における資金（現金及び現金同等物）は、手許現金、要求払預金及び取得日から満期日又は償還日までの期間が3ヵ月以内の定期預金等の短期投資からなっております。</p>	<p>(7) 重要なヘッジ会計の方法</p> <p>同左</p> <p>同左</p> <p>同左</p>

【連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項の変更】

前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
<p>(「連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」の適用)</p> <p>当連結会計年度より、「連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」(実務対応報告第18号 平成18年5月17日)を適用し、連結決算上必要な修正を行っております。</p> <p>この結果、従来の方法に比べ、経常損失は1,867百万円増加し、税金等調整前当期純利益は1,881百万円減少しております。</p> <p>なお、セグメント情報に与える影響は、当該箇所に記載しております。</p>	—————

【表示方法の変更】

前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
<p>(連結貸借対照表関係)</p> <p>保険業法施行規則の改正により、当連結会計年度から、「有形固定資産」中の「土地」、「建物」、「建設仮勘定」及び「その他の有形固定資産」並びに「無形固定資産」中の「ソフトウェア」、「のれん」及び「その他の無形固定資産」を内訳表示しております。</p> <p>なお、前連結会計年度の有形固定資産及び無形固定資産の内訳は、それぞれ、土地103,993百万円、建物146,792百万円、建設仮勘定357百万円、その他の有形固定資産23,862百万円、ソフトウェア5,336百万円、のれん77,594百万円、その他の無形固定資産3,714百万円であります。</p>	—————

【追加情報】

<p>前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)</p>	<p>当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)</p>
<p>(子会社等株式の現物配当による事業の移管)</p> <p>(1) 概要</p> <p>提出会社は、平成20年6月26日の取締役会における決議に基づき、7月1日付で、提出会社の保有する次の子会社及び関連会社の株式すべてを完全親会社である三井住友海上グループホールディングス株式会社に配当する方法により、当該子会社等が営む事業を同社に移管しました。</p> <p>(対象となった子会社等の名称及びその事業の内容)</p> <p>三井ダイレクト損害保険株式会社 (子会社) …国内損害保険事業</p> <p>三井住友海上きらめき生命保険株式会社 (子会社) …国内生命保険事業</p> <p>三井住友海上メットライフ生命保険株式会社 (関連会社) …国内生命保険事業</p> <p>(2) 現物配当の目的</p> <p>提出会社が保有する国内の保険会社の株式を親会社である三井住友海上グループホールディングス株式会社が直接保有することにより、持株会社である同社を核としたグループ事業推進体制を整備し、これまで以上に迅速な事業運営とシナジー効果の発揮を目指すものであります。</p> <p>(3) 実施した会計処理の概要</p> <p>「企業結合に係る会計基準」(企業会計審議会 平成15年10月31日)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 最終改正平成19年11月15日)に基づき、共通支配下の取引として処理しております。</p> <p>(4) 当連結会計年度の連結損益計算書に計上されている上記子会社等に係る損益の概算額</p> <p>経常収益 23,727百万円 (うち正味収入保険料 7,061百万円)</p> <p>経常利益 427百万円</p>	<p>—————</p>

【注記事項】

(連結貸借対照表関係)

前連結会計年度 (平成21年3月31日)	当連結会計年度 (平成22年3月31日)												
<p>※1 有形固定資産の減価償却累計額は274,674百万円、圧縮記帳額は18,885百万円であります。</p> <p>※2 非連結子会社及び関連会社の株式等は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">有価証券(株式)</td> <td style="text-align: right;">10,672百万円</td> </tr> <tr> <td>有価証券(外国証券)</td> <td style="text-align: right;">6,246百万円</td> </tr> <tr> <td>有価証券(その他の証券)</td> <td style="text-align: right;">6,604百万円</td> </tr> </table> <p>※3</p> <p>(1) 貸付金のうち、破綻先債権額は13百万円、延滞債権額は2,609百万円であります。</p> <p>なお、破綻先債権とは、元本又は利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸付金(貸倒償却を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸付金」という。)のうち、法人税法施行令(昭和40年政令第97号)第96条第1項第3号イからホまで(貸倒引当金勘定への繰入限度額)に掲げる事由又は同項第4号に規定する事由が生じている貸付金であります。</p> <p>また、延滞債権とは、未収利息不計上貸付金であって、破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予した貸付金以外の貸付金であります。</p> <p>(2) 貸付金のうち、3ヵ月以上延滞債権額は817百万円であります。</p> <p>なお、3ヵ月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が、約定支払日の翌日から3月以上遅延している貸付金で破綻先債権及び延滞債権に該当しないものであります。</p> <p>(3) 貸付金のうち、貸付条件緩和債権額は845百万円であります。</p> <p>なお、貸付条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸付金で、破綻先債権、延滞債権及び3ヵ月以上延滞債権に該当しないものであります。</p> <p>(4) 破綻先債権額、延滞債権額、3ヵ月以上延滞債権額及び貸付条件緩和債権額の合計額は4,285百万円であります。</p> <p>※4 担保に供している資産は有価証券80,559百万円、現金及び預貯金4,122百万円並びに有形固定資産410百万円であります。これは、海外営業のための供託資産及び日本銀行当座預金決済の即時グロス決済制度のために差し入れている有価証券等であります。</p>	有価証券(株式)	10,672百万円	有価証券(外国証券)	6,246百万円	有価証券(その他の証券)	6,604百万円	<p>※1 有形固定資産の減価償却累計額は284,918百万円、圧縮記帳額は18,713百万円であります。</p> <p>※2 非連結子会社及び関連会社の株式等は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">有価証券(株式)</td> <td style="text-align: right;">10,880百万円</td> </tr> <tr> <td>有価証券(外国証券)</td> <td style="text-align: right;">7,972百万円</td> </tr> <tr> <td>有価証券(その他の証券)</td> <td style="text-align: right;">6,164百万円</td> </tr> </table> <p>※3</p> <p>(1) 貸付金のうち、破綻先債権額は1,441百万円、延滞債権額は2,426百万円であります。</p> <p>なお、破綻先債権とは、元本又は利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸付金(貸倒償却を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸付金」という。)のうち、法人税法施行令(昭和40年政令第97号)第96条第1項第3号イからホまで(貸倒引当金勘定への繰入限度額)に掲げる事由又は同項第4号に規定する事由が生じている貸付金であります。</p> <p>また、延滞債権とは、未収利息不計上貸付金であって、破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予した貸付金以外の貸付金であります。</p> <p>(2) 貸付金のうち、3ヵ月以上延滞債権額は855百万円であります。</p> <p>なお、3ヵ月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が、約定支払日の翌日から3月以上遅延している貸付金で破綻先債権及び延滞債権に該当しないものであります。</p> <p>(3) 貸付金のうち、貸付条件緩和債権額は2,043百万円であります。</p> <p>なお、貸付条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸付金で、破綻先債権、延滞債権及び3ヵ月以上延滞債権に該当しないものであります。</p> <p>(4) 破綻先債権額、延滞債権額、3ヵ月以上延滞債権額及び貸付条件緩和債権額の合計額は6,766百万円であります。</p> <p>※4 担保に供している資産は有価証券76,040百万円、現金及び預貯金3,335百万円並びに有形固定資産244百万円であります。これは、海外営業のための供託資産及び日本銀行当座預金決済の即時グロス決済制度のために差し入れている有価証券等であります。</p>	有価証券(株式)	10,880百万円	有価証券(外国証券)	7,972百万円	有価証券(その他の証券)	6,164百万円
有価証券(株式)	10,672百万円												
有価証券(外国証券)	6,246百万円												
有価証券(その他の証券)	6,604百万円												
有価証券(株式)	10,880百万円												
有価証券(外国証券)	7,972百万円												
有価証券(その他の証券)	6,164百万円												

前連結会計年度 (平成21年3月31日)	当連結会計年度 (平成22年3月31日)
<p>※5 有価証券には消費貸借契約により貸し付けているものが88,481百万円含まれております。</p> <p>6 提出会社は、リミテッド・パートナーシップが行う取引の履行に関して保証を行っております。なお、当該取引の当連結会計年度末時点における当該保証対象取引の現在価値の合計額は296,290百万円であり、実質保証額がないため、支払承諾見返及び支払承諾には計上しておりません。</p> <p>7 提出会社は、三井住友海上グループホールディングス株式会社の関連会社である三井住友海上メットライフ生命保険株式会社との間で、同社の純資産額が一定水準を下回った場合、又は債務の支払いに必要な流動資産が不足した場合に、同社に対して資金を提供すること等を約した純資産維持契約を締結しており、三井住友海上グループホールディングス株式会社が当社と連帯して契約上の義務を負っております。同社の当連結会計年度末における負債合計は2,444,271百万円（保険契約準備金2,424,052百万円を含む）であり、資産合計は2,470,766百万円であります。</p> <p>なお、本契約は同社の債務支払に対して保証を行うものではありません。また、当連結会計年度末において、同社の純資産は一定水準を超えており、かつ流動資産の不足も発生しておりません。</p> <p>※8 貸出コミットメント契約に係る融資未実行残高は3,164百万円であります。</p>	<p>※5 有価証券には消費貸借契約により貸し付けているものが39,791百万円含まれております。</p> <p>6 提出会社は、リミテッド・パートナーシップが行う取引の履行に関して保証を行っております。なお、当連結会計年度末時点における当該保証対象取引の現在価値の合計額は177,933百万円であり、実質保証額がないため、支払承諾見返及び支払承諾には計上しておりません。</p> <p>7 提出会社は、三井住友海上グループホールディングス株式会社（現MS&amp;ADインシュアランスグループホールディングス株式会社）の関連会社である三井住友海上メットライフ生命保険株式会社との間で、同社の純資産額が一定水準を下回った場合、又は債務の支払いに必要な流動資産が不足した場合に、同社に対して資金を提供すること等を約した純資産維持契約を締結しており、三井住友海上グループホールディングス株式会社が当社と連帯して契約上の義務を負っております。同社の当連結会計年度末における負債合計は3,081,115百万円（保険契約準備金3,068,340百万円を含む）であり、資産合計は3,116,508百万円であります。</p> <p>なお、本契約は同社の債務支払に対して保証を行うものではありません。また、当連結会計年度末において、同社の純資産は一定水準を超えており、かつ流動資産の不足も発生しておりません。</p> <p>※8 貸出コミットメント契約に係る融資未実行残高は1,856百万円であります。</p>



## (連結損益計算書関係)

前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)		当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)																																															
※1 事業費の主な内訳は次のとおりであります。 代理店手数料等 243,831百万円 給与 131,074百万円 なお、事業費は連結損益計算書における損害調査費、営業費及び一般管理費並びに諸手数料及び集金費の合計であります。		※1 事業費の主な内訳は次のとおりであります。 代理店手数料等 237,997百万円 給与 128,813百万円 なお、事業費は連結損益計算書における損害調査費、営業費及び一般管理費並びに諸手数料及び集金費の合計であります。																																															
※2 当連結会計年度において、以下の資産について減損損失を計上しております。		※2 当連結会計年度において、以下の資産について減損損失を計上しております。																																															
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">用途</th> <th rowspan="2">種類</th> <th rowspan="2">資産</th> <th colspan="2">減損損失 (百万円)</th> </tr> <tr> <th colspan="2">内訳</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">賃貸不動産</td> <td rowspan="2">土地及び建物</td> <td rowspan="2">群馬県内に保有する賃貸用ビル</td> <td rowspan="2">371</td> <td>土地</td> <td>104</td> </tr> <tr> <td>建物</td> <td>267</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">遊休不動産及び売却予定不動産</td> <td rowspan="2">土地及び建物</td> <td rowspan="2">新潟県内に保有する事務所ビルなど9物件</td> <td rowspan="2">673</td> <td>土地</td> <td>157</td> </tr> <tr> <td>建物</td> <td>516</td> </tr> </tbody> </table> <p>           保険事業等の用に供している不動産等について保険事業等全体で1つの資産グループとし、賃貸不動産、遊休不動産及び売却予定不動産等については個別の物件毎にグルーピングしております。            不動産価格が下落したこと及び未使用となったこと等により、上記の資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失(1,044百万円)として特別損失に計上しております。            なお、当該資産の回収可能価額は正味売却価額と使用価値のいずれか高い価額としております。正味売却価額は不動産鑑定士による鑑定評価額又は路線価方式による相続税評価額を基に算出し、使用価値は将来キャッシュ・フローを5.4%で割り引いて算定しております。         </p>		用途	種類	資産	減損損失 (百万円)		内訳		賃貸不動産	土地及び建物	群馬県内に保有する賃貸用ビル	371	土地	104	建物	267	遊休不動産及び売却予定不動産	土地及び建物	新潟県内に保有する事務所ビルなど9物件	673	土地	157	建物	516	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">用途</th> <th rowspan="2">種類</th> <th rowspan="2">資産</th> <th colspan="2">減損損失 (百万円)</th> </tr> <tr> <th colspan="2">内訳</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">賃貸不動産</td> <td rowspan="2">土地及び建物</td> <td rowspan="2">愛知県内に保有する賃貸用ビルなど2物件</td> <td rowspan="2">1,358</td> <td>土地</td> <td>526</td> </tr> <tr> <td>建物</td> <td>831</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">遊休不動産及び売却予定不動産</td> <td rowspan="2">土地及び建物</td> <td rowspan="2">千葉県内に保有する住宅など3物件</td> <td rowspan="2">2,073</td> <td>土地</td> <td>1,882</td> </tr> <tr> <td>建物</td> <td>190</td> </tr> </tbody> </table> <p>           保険事業等の用に供している不動産等について保険事業等全体で1つの資産グループとし、賃貸不動産、遊休不動産及び売却予定不動産等については個別の物件毎にグルーピングしております。            不動産価格が下落したこと及び売却予定となったこと等により、上記の資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失(3,431百万円)として特別損失に計上しております。            なお、当該資産の回収可能価額は正味売却価額と使用価値のいずれか高い価額としております。正味売却価額は不動産鑑定士による鑑定評価額を基に算出し、使用価値は将来キャッシュ・フローを5.5%で割り引いて算定しております。         </p>		用途	種類	資産	減損損失 (百万円)		内訳		賃貸不動産	土地及び建物	愛知県内に保有する賃貸用ビルなど2物件	1,358	土地	526	建物	831	遊休不動産及び売却予定不動産	土地及び建物	千葉県内に保有する住宅など3物件	2,073	土地	1,882	建物	190
用途	種類				資産	減損損失 (百万円)																																											
		内訳																																															
賃貸不動産	土地及び建物	群馬県内に保有する賃貸用ビル	371	土地	104																																												
				建物	267																																												
遊休不動産及び売却予定不動産	土地及び建物	新潟県内に保有する事務所ビルなど9物件	673	土地	157																																												
				建物	516																																												
用途	種類	資産	減損損失 (百万円)																																														
			内訳																																														
賃貸不動産	土地及び建物	愛知県内に保有する賃貸用ビルなど2物件	1,358	土地	526																																												
				建物	831																																												
遊休不動産及び売却予定不動産	土地及び建物	千葉県内に保有する住宅など3物件	2,073	土地	1,882																																												
				建物	190																																												

## (連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自平成20年4月1日至平成21年3月31日)

## 1 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前連結会計年度末 株式数(千株)	当連結会計年度 増加株式数(千株)	当連結会計年度 減少株式数(千株)	当連結会計年度末 株式数(千株)
発行済株式				
普通株式	1,404,402	—	—	1,404,402
合計	1,404,402	—	—	1,404,402

(注) 自己株式については、該当事項はありません。

## 2 配当に関する事項

## (1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成20年6月26日 定時株主総会	普通株式	12,639	9	平成20年3月31日	平成20年6月27日
平成20年6月26日 取締役会	普通株式	2,500	1.78	—	平成20年7月1日
平成20年9月30日 取締役会	普通株式	15,000	10.68	—	平成20年9月30日
平成20年12月26日 取締役会	普通株式	12,750	9.07	—	平成20年12月26日
平成21年1月30日 取締役会	普通株式	5,000	3.56	—	平成21年1月30日

決議	株式の種類	配当財産の種類及び帳簿価額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	
平成20年6月26日 取締役会	普通 株式	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三井住友海上きらめき生命保 険株式会社 普通株式</li> <li>・三井住友海上メットライフ生 命保険株式会社 普通株式</li> <li>・三井ダイレクト損害保険株式 会社 普通株式</li> <li>・三井ダイレクト損害保険株式 会社 議決権制限株式</li> </ul>	97,593	69.49	—	平成20年7月1日

## (2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成21年5月20日 取締役会	普通株式	13,000	利益剰余金	9.25	平成21年3月31日	平成21年6月1日

当連結会計年度（自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日）

1 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前連結会計年度末 株式数（千株）	当連結会計年度 増加株式数（千株）	当連結会計年度 減少株式数（千株）	当連結会計年度末 株式数（千株）
発行済株式				
普通株式	1,404,402	—	—	1,404,402
合計	1,404,402	—	—	1,404,402

（注） 自己株式については、該当事項はありません。

2 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 （百万円）	1株当たり 配当額（円）	基準日	効力発生日
平成21年5月20日 取締役会	普通株式	13,000	9.25	平成21年3月31日	平成21年6月1日
平成21年11月19日 取締役会	普通株式	5,500	3.91	—	平成21年11月30日
平成22年1月29日 取締役会	普通株式	12,500	8.90	—	平成22年2月5日
平成22年2月12日 取締役会	普通株式	6,375	4.53	—	平成22年2月19日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 （百万円）	配当の原資	1株当たり 配当額（円）	基準日	効力発生日
平成22年5月20日 取締役会	普通株式	14,000	利益剰余金	9.96	平成22年3月31日	平成22年6月1日

## (連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)																																										
<p>※1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成21年3月31日現在) (百万円)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>現金及び預貯金</td><td style="text-align: right;">435,496</td></tr> <tr><td>コールローン</td><td style="text-align: right;">31,900</td></tr> <tr><td>買入金銭債権</td><td style="text-align: right;">127,339</td></tr> <tr><td>金銭の信託</td><td style="text-align: right;">14,476</td></tr> <tr><td>有価証券</td><td style="text-align: right;">4,058,016</td></tr> <tr><td>預入期間が3ヵ月を超える定期預金</td><td style="text-align: right;">△79,135</td></tr> <tr><td>現金同等物以外の買入金銭債権</td><td style="text-align: right;">△77,769</td></tr> <tr><td>現金同等物以外の金銭の信託</td><td style="text-align: right;">△13,727</td></tr> <tr><td>現金同等物以外の有価証券</td><td style="text-align: right;">△4,057,727</td></tr> <tr><td>現金及び現金同等物</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">438,869</td></tr> </table>	現金及び預貯金	435,496	コールローン	31,900	買入金銭債権	127,339	金銭の信託	14,476	有価証券	4,058,016	預入期間が3ヵ月を超える定期預金	△79,135	現金同等物以外の買入金銭債権	△77,769	現金同等物以外の金銭の信託	△13,727	現金同等物以外の有価証券	△4,057,727	現金及び現金同等物	438,869	<p>※1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成22年3月31日現在) (百万円)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>現金及び預貯金</td><td style="text-align: right;">297,098</td></tr> <tr><td>コールローン</td><td style="text-align: right;">33,700</td></tr> <tr><td>買現先勘定</td><td style="text-align: right;">15,998</td></tr> <tr><td>買入金銭債権</td><td style="text-align: right;">108,158</td></tr> <tr><td>金銭の信託</td><td style="text-align: right;">10,592</td></tr> <tr><td>有価証券</td><td style="text-align: right;">4,363,277</td></tr> <tr><td>預入期間が3ヵ月を超える定期預金</td><td style="text-align: right;">△58,176</td></tr> <tr><td>現金同等物以外の買入金銭債権</td><td style="text-align: right;">△73,359</td></tr> <tr><td>現金同等物以外の金銭の信託</td><td style="text-align: right;">△9,092</td></tr> <tr><td>現金同等物以外の有価証券</td><td style="text-align: right;">△4,327,130</td></tr> <tr><td>現金及び現金同等物</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">361,067</td></tr> </table>	現金及び預貯金	297,098	コールローン	33,700	買現先勘定	15,998	買入金銭債権	108,158	金銭の信託	10,592	有価証券	4,363,277	預入期間が3ヵ月を超える定期預金	△58,176	現金同等物以外の買入金銭債権	△73,359	現金同等物以外の金銭の信託	△9,092	現金同等物以外の有価証券	△4,327,130	現金及び現金同等物	361,067
現金及び預貯金	435,496																																										
コールローン	31,900																																										
買入金銭債権	127,339																																										
金銭の信託	14,476																																										
有価証券	4,058,016																																										
預入期間が3ヵ月を超える定期預金	△79,135																																										
現金同等物以外の買入金銭債権	△77,769																																										
現金同等物以外の金銭の信託	△13,727																																										
現金同等物以外の有価証券	△4,057,727																																										
現金及び現金同等物	438,869																																										
現金及び預貯金	297,098																																										
コールローン	33,700																																										
買現先勘定	15,998																																										
買入金銭債権	108,158																																										
金銭の信託	10,592																																										
有価証券	4,363,277																																										
預入期間が3ヵ月を超える定期預金	△58,176																																										
現金同等物以外の買入金銭債権	△73,359																																										
現金同等物以外の金銭の信託	△9,092																																										
現金同等物以外の有価証券	△4,327,130																																										
現金及び現金同等物	361,067																																										
<p>※2 重要な非資金取引の内容</p> <p>(1) 提出会社の保有する三井住友海上きらめき生命保険株式会社、三井ダイレクト損害保険株式会社及び三井住友海上メットライフ生命保険株式会社の株式を現物配当したことにより、連結の対象から除外された資産及び負債の主な内訳並びに現金及び現金同等物の減少額の関係は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>資産(除く現金及び現金同等物)</td><td style="text-align: right;">1,055,643百万円</td></tr> <tr><td>(うち有価証券)</td><td style="text-align: right;">(990,749百万円)</td></tr> <tr><td>負債</td><td style="text-align: right;">△987,809百万円</td></tr> <tr><td>(うち保険契約準備金)</td><td style="text-align: right;">(△982,128百万円)</td></tr> <tr><td>純資産</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">△79,348百万円</td></tr> <tr><td>差引: 連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額</td><td style="text-align: right;">△11,514百万円</td></tr> </table> <p>(2) 当連結会計年度に新たに計上したファイナンス・リース取引に係る資産及び債務の額は、それぞれ651百万円であります。</p>	資産(除く現金及び現金同等物)	1,055,643百万円	(うち有価証券)	(990,749百万円)	負債	△987,809百万円	(うち保険契約準備金)	(△982,128百万円)	純資産	△79,348百万円	差引: 連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額	△11,514百万円	<p>2 重要な非資金取引の内容</p> <p style="text-align: center;">—————</p> <p>当連結会計年度に新たに計上したファイナンス・リース取引に係る資産及び債務の額は、それぞれ465百万円であります。</p>																														
資産(除く現金及び現金同等物)	1,055,643百万円																																										
(うち有価証券)	(990,749百万円)																																										
負債	△987,809百万円																																										
(うち保険契約準備金)	(△982,128百万円)																																										
純資産	△79,348百万円																																										
差引: 連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額	△11,514百万円																																										
<p>3 投資活動によるキャッシュ・フローには、保険事業に係る資産運用業務から生じるキャッシュ・フローを含んでおります。</p>	<p>3 同左</p>																																										

## (リース取引関係)

前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)																								
<p>1 ファイナンス・リース取引</p> <p>(1) 所有権移転外ファイナンス・リース取引 重要なものはありません。</p> <p>(2) 通常の賃貸借取引に係る方法に準じて会計処理を行っている所有権移転外ファイナンス・リース取引 三井住友海上きらめき生命保険株式会社及び三井ダイレクト損害保険株式会社を連結の範囲から除外したことなどにより、当連結会計年度末における該当のリース物件がなくなったため、記載を省略しております。</p> <p>2 オペレーティング・リース取引 オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料</p> <p>(借手側)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">1年内</td> <td style="text-align: right;">2,388百万円</td> </tr> <tr> <td>1年超</td> <td style="text-align: right;">7,568百万円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">9,957百万円</td> </tr> </table> <p>(貸手側)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">1年内</td> <td style="text-align: right;">1,018百万円</td> </tr> <tr> <td>1年超</td> <td style="text-align: right;">4,391百万円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">5,410百万円</td> </tr> </table>	1年内	2,388百万円	1年超	7,568百万円	合計	9,957百万円	1年内	1,018百万円	1年超	4,391百万円	合計	5,410百万円	<p style="text-align: center;">—————</p> <p style="text-align: center;">オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料</p> <p>(借手側)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">1年内</td> <td style="text-align: right;">2,554百万円</td> </tr> <tr> <td>1年超</td> <td style="text-align: right;">6,743百万円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">9,297百万円</td> </tr> </table> <p>(貸手側)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">1年内</td> <td style="text-align: right;">1,394百万円</td> </tr> <tr> <td>1年超</td> <td style="text-align: right;">4,144百万円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">5,538百万円</td> </tr> </table>	1年内	2,554百万円	1年超	6,743百万円	合計	9,297百万円	1年内	1,394百万円	1年超	4,144百万円	合計	5,538百万円
1年内	2,388百万円																								
1年超	7,568百万円																								
合計	9,957百万円																								
1年内	1,018百万円																								
1年超	4,391百万円																								
合計	5,410百万円																								
1年内	2,554百万円																								
1年超	6,743百万円																								
合計	9,297百万円																								
1年内	1,394百万円																								
1年超	4,144百万円																								
合計	5,538百万円																								

(金融商品関係)

当連結会計年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

1 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金コストや諸経費、リスク負担に係るコストなど、あらゆるコストを意識したリターン(コスト控除後のリターン)の積み上げにより、時価純資産の拡大を目指し、流動性に配慮しながら、金融商品を活用した資産運用を行っております。提出会社では、保険金や満期返戻金、解約返戻金等の保険契約に係る負債の支払いに備え、これらの負債特性を考慮したALM(資産・負債の総合管理)の高度化を進めるなど、リスク管理手法の継続的な向上に取り組むことにより、資産運用収益の安定性と保有資産の安全性の確保に努めております。

また、当社グループの流入資金は、保険営業収支と資産運用収支を源泉としており、自然災害や金融市場動向などの外部環境変化によって大きな影響を受けます。様々な環境下における資金効率の向上を図るため、必要に応じて社債や短期社債の発行などにより資金調達を行います。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

当社グループが保有する金融資産は、主に公社債、株式、外国証券を含む有価証券であり、その他に貸付金などがあります。有価証券は保有目的の区分を主に「その他有価証券」として保有しておりますが、一部は「満期保有目的の債券」としております。資産運用に関するリスクは、金利、株価、為替等の変動による市場リスク、有価証券の発行体や貸付金の相手先の信用リスク、市場の混乱等により著しく低い価格での取引を余儀なくされることにより損失を被る流動性リスクがあります。

デリバティブ取引については、ヘッジ会計が適用されていないものとして、提出会社では、資産運用における金利リスクをコントロールする目的で金利スワップ取引、為替変動リスクをヘッジする目的で為替予約取引、通貨オプション取引を利用しております。また、取引に係るリスクに留意した上で運用収益を獲得する目的で、金利関連、通貨関連、株式関連、債券関連のデリバティブ取引、クレジットデリバティブ取引、天候デリバティブ取引等を利用しております。連結子会社では、資産運用における為替変動リスクをヘッジする目的で、為替予約取引を利用しております。ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引については、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項 4 会計処理基準に関する事項 (7) 重要なヘッジ会計の方法」を参照下さい。デリバティブ取引は、一般に、取引の対象物の市場価格変動に係るリスク(市場リスク)やデリバティブ取引が基礎としている事象の変動に係るリスクを有しております。また、取引先の倒産等による契約不履行に係るリスク(信用リスク)を内包しております。当社グループが利用しているデリバティブ取引も同様に、その取引の対象物の価格変動に係る市場リスク等を内包しております。ただし、ヘッジ目的のものは現物資産とデリバティブ取引とは逆の価格変動をすることから、市場リスクは減殺されております。また、契約不履行に係る信用リスクを回避するため、デリバティブ取引契約先の大半は、信用度が高い金融機関に限定し、かつその中で取引を分散させております。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

当社グループは、取引全般に関する権限規程及びリスク管理に係る規定等を定め、これらの規定等に基づいて取引を実施し、管理しております。提出会社では、日常における管理について、取引の執行部門と後方事務・リスク管理部門を分離し、取り扱う業務・商品の種類・保有限度・リスク量・損失対応等が規定に沿って運営されているかをモニタリングすることで、組織的な牽制を行っております。また、リスク管理部門によりリスクを把握・分析し、リスク状況を定期的に取り締り委員会等に報告しております。

① 市場リスクの管理

当社グループは、市場リスクに係る管理規定等に従い、運用資産等の特性に応じたリスク管理を行う体制を整備し運営しております。提出会社では、執行部門及びリスク管理部門において、運用領域ごとに管理規定等を整備し、業務における手続きを明確化しているほか、必要に応じて保有限度額や損切り等適切なリミットを設定し管理しております。また、リスク管理部門においては、金利・為替・株価変動に対する感応度分析を行うと共に、市場リスクのVaR(バリュー・アット・リスク)を計測するなど、多面的にリスクを把握し、管理しております。

② 信用リスクの管理

当社グループは、信用リスクに係る管理規定等に従い、与信管理体制を整備して運営しております。提出会社では、貸付金について、執行部門及びリスク管理部門において、個別案件ごとの与信審査、与信限度額、信用情報管理、内部格付、保証や担保の設定、問題債権への対応などの与信管理体制を整備しております。有価証券の発行体の信用リスク及びデリバティブ取引のカウンターパーティ・リスクに関しては、執行部門及びリスク管理部門において、信用情報や時価の把握を定期的に行うことで管理しております。

③ 流動性リスクの管理

当社グループは、資金繰りの状況に応じて流動性に最大限配慮した資金管理・運営を行っております。提出会社では、様々な環境下においても十分な流動性を確保・維持するため、資金調達手段の多様化に取り組むとともに、巨大災害や金融市場の混乱による市場流動性の低下等の不測の事態発生に備えて、現預金及び国債を始めとする流動性の高い有価証券を十分に保有し、その総額を定期的にモニタリングすることにより流動性リスク管理を行っております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。また、「デリバティブ取引関係」注記におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

## 2 金融商品の時価等に関する事項

平成22年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表に含まれておりません((注)2参照)。

	連結貸借対照表 計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
(1) 現金及び預貯金	297,098	297,098	—
(2) コールローン	33,700	33,700	—
(3) 買現先勘定	15,998	15,998	—
(4) 買入金銭債権	108,158	108,158	—
(5) 金銭の信託	10,592	10,592	—
(6) 有価証券			
満期保有目的の債券	245	245	—
その他有価証券	4,203,480	4,203,480	—
(7) 貸付金	718,625		
貸倒引当金 (*1)	△4,014		
	714,610	722,755	8,145
資産計	5,383,886	5,392,031	8,145
社債	94,969	98,150	3,180
負債計	94,969	98,150	3,180
デリバティブ取引 (*2)			
ヘッジ会計が適用されていないもの	(6,118)	(6,118)	—
ヘッジ会計が適用されているもの	3,895	3,895	—
デリバティブ取引計	(2,222)	(2,222)	—

(\*1) 貸付金に対応する一般貸倒引当金及び個別貸倒引当金を控除しております。

(\*2) その他資産及びその他負債に計上しているデリバティブ取引を一括して表示しております。デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、( )で表示しております。

### (注) 1 金融商品の時価の算定方法

#### 資 産

##### (1) 現金及び預貯金

預貯金については、時価は帳簿価額と近似していることから当該帳簿価額によっております。

##### (2) コールローン

コールローンについては、時価は帳簿価額と近似していることから当該帳簿価額によっております。

##### (3) 買現先勘定

買現先勘定については、時価は帳簿価額と近似していることから当該帳簿価額によっております。

##### (4) 買入金銭債権

コマーシャルペーパーについては、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。コマーシャルペーパー以外の買入金銭債権は取引先の金融機関から提示された価格によっております。



- (5) 金銭の信託  
金銭の信託については、信託銀行から提示された価格によっております。
- (6) 有価証券  
株式は取引所の価格、債券は取引所の価格又は情報ベンダーが提供する価格、また一部、取引先の金融機関から提示された価格等によっております。
- (7) 貸付金  
貸付金のうち、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映するため、貸付先の信用状態が実行後大きく異なっていない限り、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。固定金利によるものは、貸付金の種類及び期間、与信管理上の信用リスク区分ごとに、その将来キャッシュ・フローを国債金利等適切な指標に信用スプレッドを上乗せした利率で割り引くことにより、現在価値を算定しております。また、一部の個人ローン等は、商品ごとの将来キャッシュ・フローを、同様の新規貸付を行った場合に想定される利率で割り引いて時価を算定しております。
- なお、保険約款貸付は、当該貸付を解約返戻金の範囲内に限るなどの特性により返済期限を設けておらず、返済見込み期間及び金利条件等から、時価は帳簿価額と近似しているものと想定されるため、帳簿価額を時価としております。
- また、破綻先、実質破綻先及び破綻懸念先に対する債権等については、見積将来キャッシュ・フローの現在価値又は担保及び保証による回収見込額等に基づいて貸倒見積高を算定しているため、時価は連結決算日における連結貸借対照表価額から現在の貸倒見積高を控除した金額に近似しており、当該価額を時価としております。

## 負債

### 社債

日本証券業協会が公表する公社債店頭売買参考統計値によっております。

### デリバティブ取引

「デリバティブ取引関係」注記をご参照ください。

- (注) 2 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品は、次のとおりであり、これらは「(6)有価証券」に含めておりません。
- 非上場株式93,839百万円、組合財産が非上場株式から構成されている組合出資金等39,076百万円、発行体が破綻、もしくは将来キャッシュ・フローの想定が困難等、合理的な価額を算出するための要素が不足している社債等1,616百万円は時価開示の対象としておりません。

## (注) 3 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
預貯金	290,069	6,683	—	—
コールローン	33,700	—	—	—
買現先勘定	15,998	—	—	—
買入金銭債権	34,801	—	—	72,281
有価証券				
満期保有目的の債券				
外国証券	247	—	—	—
その他有価証券のうち満期があるもの				
国債	7,611	79,910	42,300	331,100
地方債	7,845	27,178	6,200	70,700
社債	157,591	498,253	170,923	221,376
外国証券	143,654	352,487	107,174	62,262
貸付金(*)	100,615	302,570	160,773	132,358
合計	792,135	1,267,083	487,371	890,079

(\*) 貸付金のうち、破綻先、実質破綻先及び破綻懸念先に対する債権等、償還予定額が見込めない3,868百万円、返済期限の定めのないもの18,440百万円は含めておりません。

## (注) 4 社債の連結決算日後の返済予定額

	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
社債	—	—	30,000	65,000	—	—

(有価証券関係)

前連結会計年度(自平成20年4月1日至平成21年3月31日)

1 売買目的有価証券(平成21年3月31日)

該当事項はありません。

2 満期保有目的の債券で時価のあるもの(平成21年3月31日)

種類		連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
時価が連結貸借対照表計上額を超えるもの	外国証券	—	—	—
時価が連結貸借対照表計上額を超えないもの	外国証券	4,462	4,439	△23
合計		4,462	4,439	△23

3 その他有価証券で時価のあるもの(平成21年3月31日)

種類		取得原価 (百万円)	連結貸借対照表計上額 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	公社債	1,234,584	1,266,899	32,314
	株式	633,913	1,152,640	518,727
	外国証券	306,662	326,178	19,516
	その他	64,798	67,309	2,510
	小計	2,239,958	2,813,027	573,068
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	公社債	358,346	348,407	△9,939
	株式	154,679	127,271	△27,407
	外国証券	691,157	620,864	△70,292
	その他	57,393	52,352	△5,040
	小計	1,261,576	1,148,896	△112,679
合計		3,501,535	3,961,923	460,388

(注) 1 連結貸借対照表において買入金銭債権として処理されている貸付債権信託受益権を「その他」に含めております。

2 その他有価証券で時価のあるものについて106,810百万円減損処理を行っております。

なお、提出会社及び国内連結子会社は、原則として、時価が取得原価に比べて30%以上下落した銘柄を対象に減損処理を行っております。

4 当連結会計年度中に売却したその他有価証券(自平成20年4月1日至平成21年3月31日)

種類	売却額 (百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
その他有価証券	523,915	75,419	17,414

5 時価評価されていない主な有価証券の内容及び連結貸借対照表計上額（平成21年3月31日）

(1) 満期保有目的の債券

外国証券	1,112百万円
その他	139,670百万円

(注) 連結貸借対照表において現金及び預貯金として処理されている譲渡性預金並びに買入金銭債権として処理されているコマーシャルペーパーを「その他」に含めております。

(2) その他有価証券

公社債	4,114百万円
株式	89,328百万円
外国証券	39,295百万円
その他	11,958百万円

(注) 連結貸借対照表において買入金銭債権として処理されている貸付債権信託受益権を「その他」に含めております。

6 その他有価証券のうち満期があるもの及び満期保有目的の債券の償還予定額（平成21年3月31日）

種類	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
国債	11,280	69,819	20,317	257,977
地方債	13,583	31,336	4,583	77,908
社債	92,811	548,995	239,386	251,421
外国証券	144,445	416,045	108,753	64,612
その他	139,670	997	—	76,706
合計	401,791	1,067,194	373,040	728,625

(注) 連結貸借対照表において現金及び預貯金として処理されている譲渡性預金並びに買入金銭債権として処理されているコマーシャルペーパー等を「その他」に含めております。

当連結会計年度（自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日）

1 売買目的有価証券（平成22年3月31日）

該当事項はありません。

2 満期保有目的の債券（平成22年3月31日）

種類		連結貸借対 照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
時価が連結貸借 対照表計上額を 超えるもの	外国証券	—	—	—
	その他	—	—	—
	小計	—	—	—
時価が連結貸借 対照表計上額を 超えないもの	外国証券	245	245	—
	その他	76,549	76,549	—
	小計	76,795	76,795	—
合計		76,795	76,795	—

(注) 連結貸借対照表において現金及び預貯金として処理されている譲渡性預金並びに買入金銭債権として処理されているコマーシャルペーパーを「その他」に含めております。

3 その他有価証券（平成22年3月31日）

種類		連結貸借対 照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表 計上額が取得原 価を超えるもの	公社債	1,413,424	1,373,984	39,440
	株式	1,530,878	671,579	859,299
	外国証券	451,801	410,964	40,836
	その他	78,351	71,809	6,542
	小計	3,474,456	2,528,337	946,118
連結貸借対照表 計上額が取得原 価を超えないも の	公社債	243,012	246,450	△3,438
	株式	90,352	102,890	△12,538
	外国証券	442,525	468,485	△25,960
	その他	26,487	27,128	△640
	小計	802,377	844,955	△42,578
合計		4,276,833	3,373,293	903,540

(注) 1 連結貸借対照表において買入金銭債権として処理されている貸付債権信託受益権を「その他」に含めております。

2 時価を把握することが極めて困難と認められるその他有価証券は、上表には含めておりません。

4 当連結会計年度中に売却したその他有価証券（自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日）

種類	売却額 (百万円)	売却益の合計 額 (百万円)	売却損の合計 額 (百万円)
公社債	65,741	1,240	1,216
株式	31,362	12,925	3,377
外国証券	264,140	4,856	12,399
合計	361,243	19,023	16,992

5 当連結会計年度中に減損処理を行った有価証券（自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日）

当連結会計年度において、その他有価証券について 6,065百万円（うち、公社債 0百万円、株式 3,004百万円、外国証券 2,553百万円、その他 508百万円）減損処理を行っております。

なお、提出会社及び国内連結子会社は、時価のあるものについては、原則として、時価が取得原価に比べて30%以上下落した銘柄を対象に減損処理を行っております。

(金銭の信託関係)

前連結会計年度(自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)

1 運用目的の金銭の信託(平成21年3月31日)

種類	連結貸借対照表計上額(百万円)	損益に含まれた評価差額(百万円)
金銭の信託	13,727	△1,500

2 満期保有目的の金銭の信託(平成21年3月31日)

該当事項はありません。

3 運用目的、満期保有目的以外の金銭の信託(平成21年3月31日)

時価評価する単独運用の金銭の信託はありません。

取得原価をもって連結貸借対照表に計上している合同運用の金銭の信託が749百万円あります。

当連結会計年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

1 運用目的の金銭の信託(平成22年3月31日)

種類	連結貸借対照表計上額(百万円)	損益に含まれた評価差額(百万円)
金銭の信託	9,092	△93

2 満期保有目的の金銭の信託(平成22年3月31日)

該当事項はありません。

3 運用目的、満期保有目的以外の金銭の信託(平成22年3月31日)

種類	連結貸借対照表計上額(百万円)	取得原価(百万円)	差額(百万円)
金銭の信託	1,500	1,500	—

(デリバティブ取引関係)

前連結会計年度(自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)

1 取引の状況に関する事項

(1) 取引に対する取組方針・利用目的

提出会社では、主として資産運用における価格、為替、金利変動による市場リスクをコントロールする目的、及びALM(資産負債総合管理)における金利変動リスクを適切にコントロールする目的で、デリバティブ取引を利用しております。

また、提出会社では上記以外に、取引に係るリスクに留意した上で運用収益を獲得する目的でデリバティブ取引を利用しております。

連結子会社では、資産運用における為替変動による市場リスクをヘッジする目的で、デリバティブ取引を利用しております。

(2) 取引の内容

提出会社が、当連結会計年度にリスクコントロール目的で利用したデリバティブ取引は為替予約取引、通貨オプション取引、通貨スワップ取引、金利スワップ取引、債券店頭オプション取引、スワップ取引、株式先渡取引、個別株オプション取引、クレジットデリバティブ取引であります。

また、提出会社が収益獲得目的で利用したデリバティブ取引は、為替予約取引、通貨オプション取引、金利先物取引、金利スワップ取引、金利キャップ取引、金利フロア取引、スワップ取引、債券先物取引、債券先物オプション取引、株価指数先物取引、株価指数オプション取引、クレジットデリバティブ取引、天候デリバティブ取引等であります。

連結子会社が、当連結会計年度に利用したデリバティブ取引は、ヘッジ目的の為替予約取引であります。

(3) 取引に係るリスクの内容

デリバティブ取引は、一般に、取引の対象物の市場価格変動に係るリスク(市場リスク)やデリバティブ取引が基礎としている事象の変動に係るリスクを有しております。

また、取引先の倒産等による契約不履行に係るリスク(信用リスク)を内包しております。

提出会社及び連結子会社が利用しているデリバティブ取引も同様に、その取引の対象物の価格変動に係る市場リスク等を内包しております。

ただし、リスクコントロール目的のうちヘッジ目的のデリバティブ取引の場合には、現物資産とデリバティブ取引とは逆の価格変動をすることから、市場リスクは減殺されております。

また、契約不履行に係る信用リスクを回避するため、提出会社及び連結子会社のデリバティブ取引契約先の大半は、信用度が高い金融機関に限定し、かつその中で取引を分散させております。

(4) 取引に係るリスク管理体制

提出会社及び連結子会社では、デリバティブ取引を含む取引全般に関する権限規程及びリスク管理規定を定め、これらの規定に基づいてデリバティブ取引を実施し、管理しております。

日常におけるデリバティブ取引の管理については、取引の執行部門と後方事務・リスク管理部門を完全に分離し、取り扱う業務・商品の種類・保有限度・リスク量・損失対応等が規定に沿って運営されているかをモニタリングすることで、組織的な牽制を行っております。

また、リスク管理部門より、現物資産を含めたリスクをVaR(バリュー・アット・リスク)等の手法によって把握・分析し、リスク状況を定期的に取締役会等に報告しております。



## 2 取引の時価等に関する事項

デリバティブ取引における契約額等は、あくまでもデリバティブ取引における名目的な契約額又は計算上の想定元本であり、当該金額自体がそのままデリバティブ取引に係る市場リスクや信用リスク等を表すものではありません。

なお、以下の各表におけるオプション取引については、契約額等の下に括弧書きでオプション料を記載しております。

### (1) 通貨関連（平成21年3月31日）

種類	契約額等（百万円）		時価 （百万円）	評価損益 （百万円）
		うち1年超		
市場取引以外の取引				
為替予約取引				
売建				
米ドル	3,860	—	3,874	△13
ユーロ	112	—	125	△13
英ポンド	4,642	—	3,499	1,143
買建				
米ドル	226	—	226	0
通貨オプション取引				
売建				
コール米ドル	107	—	11	△1
	(10)	(—)		
買建				
コール米ドル	1,060	—	14	△2
	(17)	(—)		
プット米ドル	450	—	0	△12
	(12)	(—)		
プットユーロ	330	—	5	△3
	(9)	(—)		
合計	10,789	—	7,757	1,096

#### (注) 1 時価の算定方法

##### (1) 為替予約取引

先物相場を使用しております。

##### (2) 通貨オプション取引

オプション価格計算モデル等によっております。

#### 2 「外貨建取引等会計処理基準」により外貨建金銭債権債務等に振り当てたデリバティブ取引及びヘッジ会計が適用されているものについては、記載の対象から除いております。

## (2) 金利関連 (平成21年3月31日)

種類	契約額等 (百万円)		時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
		うち1年超		
市場取引以外の取引				
金利スワップ取引				
受取固定・支払変動	352,892	284,892	3,959	3,959
受取変動・支払固定	311,700	249,200	△4,376	△4,376
金利オプション取引				
スワップション				
売建				
コール	97,000	—	369	△208
	(160)	(—)		
プット	70,500	4,500	65	147
	(212)	(26)		
買建				
コール	107,000	—	509	291
	(217)	(—)		
プット	63,000	1,000	54	△189
	(243)	(26)		
キャップ				
買建	900	900	0	△12
	(13)	(13)		
フロア				
買建	900	900	17	4
	(13)	(13)		
合計	1,003,892	541,392	599	△384

## (注) 1 時価の算定方法

## (1) 金利スワップ取引

期末日現在の金利を基に将来予想されるキャッシュ・フローを現在価値に割り引いて算出しております。

## (2) 金利オプション取引

オプション価格計算モデル等によっております。

## 2 ヘッジ会計が適用されているものについては、記載対象から除いております。

## (3) 株式関連 (平成21年3月31日)

種類	契約額等 (百万円)		時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
		うち1年超		
市場取引				
株価指数オプション取引				
買建				
コール	1,200	—	25	23
	(2)	(—)		
合計	1,200	—	25	23

(注) 時価の算定方法

主たる取引所における最終の価格によっております。

## (4) 債券関連 (平成21年3月31日)

種類	契約額等 (百万円)		時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
		うち1年超		
市場取引				
債券先物取引				
買建	969	—	967	△1
債券先物オプション取引				
売建				
コール	2,800	—	2	14
	(17)	(—)		
買建				
コール	2,810	—	1	△11
	(13)	(—)		
プット	2,760	—	11	2
	(8)	(—)		
合計	9,339	—	983	4

(注) 時価の算定方法

主たる取引所における最終の価格によっております。

## (5) 信用関連 (平成21年3月31日)

種類	契約額等 (百万円)		時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
		うち1年超		
市場取引以外の取引				
クレジット				
デリバティブ取引				
売建	548,241	505,047	△32,060	△32,060
合計	548,241	505,047	△32,060	△32,060

(注) 1 時価の算定方法

取引対象物の価格、契約期間等の構成要素に基づき算定しております。また一部、取引先の金融機関から提示された価格によっております。

2 「売建」は信用リスクの引受取引であります。

## (6) その他（平成21年3月31日）

種類	契約額等（百万円）		時価 （百万円）	評価損益 （百万円）
		うち1年超		
市場取引以外の取引				
天候デリバティブ取引				
売建	1,156 (7)	— (—)	△22	△31
買建	1,146 (5)	— (—)	43	37
自然災害デリバティブ取引				
売建	9,022 (207)	797 (30)	127	80
買建	8,344 (126)	1,469 (25)	77	△48
その他				
売建	9,848 (14)	9,018 (—)	△3,911	△3,897
買建	10,822 (13)	10,000 (—)	3,911	3,898
包括的リスク引受契約	—	—	86	86
合計	40,340	21,285	311	124

(注) 時価の算定方法

オプション価格計算モデル等によっております。

なお、包括的リスク引受契約については取引先から提示された数値を基礎として算出しております。

当連結会計年度（自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日）

1 ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

(1) 通貨関連（平成22年3月31日）

区分	種類	契約額等（百万円）		時価 （百万円）	評価損益 （百万円）
			うち1年超		
市場取引 以外の取引	為替予約取引				
	売建	7,307	—	135	135
	買建	1,120	—	19	19
	通貨オプション取引				
	売建	140	—	△18	△3
	買建	525	—	0	△5
	合 計	—	—	136	146

(注) 1 時価の算定方法

(1) 為替予約取引

先物相場を使用しております。

(2) 通貨オプション取引

オプション価格計算モデル等によっております。

2 当連結会計年度末より、為替予約取引に係る時価について、先物相場により表示する方法からみなし決済損益により表示する方法に変更しております。

(2) 金利関連（平成22年3月31日）

区分	種類	契約額等（百万円）		時価 （百万円）	評価損益 （百万円）
			うち1年超		
市場取引 以外の取引	金利スワップ取引				
	受取固定・支払変動	584,342	306,092	5,118	5,118
	受取変動・支払固定	602,700	283,600	△4,636	△4,636
	金利オプション取引				
	スワップション				
	売建	53,000	1,000	△294	△37
	買建	101,133	6,133	500	81
	キャップ				
	買建	900	900	0	△13
	フロア				
買建	900	900	17	4	
	合 計	—	—	705	516

(注) 時価の算定方法

(1) 金利スワップ取引

期末日現在の金利を基に将来予想されるキャッシュ・フローを現在価値に割り引いて算出しております。

(2) 金利オプション取引

オプション価格計算モデル等によっております。

## (3) 信用関連 (平成22年3月31日)

区分	種類	契約額等 (百万円)		時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
			うち1年超		
市場取引 以外の取引	クレジット デリバティブ取引 売建	492,003	340,049	△7,397	△7,397
	合 計	—	—	△7,397	△7,397

## (注) 1 時価の算定方法

取引対象物の価格、契約期間等の構成要素に基づき算定しております。また一部、取引先の金融機関から提示された価格によっております。

2 「売建」は信用リスクの引受取引であります。

## (4) その他 (平成22年3月31日)

区分	種類	契約額等 (百万円)		時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
			うち1年超		
市場取引 以外の取引	天候デリバティブ取引 売建	1,042	—	△5	0
	買建	1,042	—	5	0
	自然災害デリバティブ取引 売建	9,904	924	△120	74
	買建	9,017	1,385	69	△49
	その他 売建	8,294	6,937	△29	△29
	買建	9,282	7,922	29	29
	包括的リスク引受 契約	—	—	488	488
	合 計	—	—	437	514

## (注) 時価の算定方法

オプション価格計算モデル等によっております。

なお、包括的リスク引受契約については取引先から提示された数値を基礎として算出しております。

## 2 ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

### (1) 通貨関連 (平成22年3月31日)

ヘッジ会計の方法	種類	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)		時価 (百万円)
				うち1年超	
為替予約等の振当処理	為替予約	外貨定期預金	56,841	-	(注2)
	売建				
時価ヘッジ	為替予約	その他有価証券	3,611	-	△114
	売建				
繰延ヘッジ	通貨スワップ取引	その他有価証券	8,642	2,148	675
合 計			—	—	560

(注) 1 時価の算定方法

(1) 為替予約取引

先物相場を使用しております。

(2) 通貨スワップ取引

割引現在価値等により算定しております。

2 為替予約等の振当処理によるものは、ヘッジ対象とされている外貨定期預金と一体として処理しております。

### (2) 金利関連 (平成22年3月31日)

ヘッジ会計の方法	種類	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)		時価 (百万円)
				うち1年超	
繰延ヘッジ	金利スワップ取引 受取固定・支払 変動	貸付金	6,365	5,365	111
	金利スワップ取引 受取固定・支払 変動	保険契約に係る負債	250,770	250,770	3,223
合 計			—	—	3,335

(注) 時価の算定方法

期末日現在の金利を基に将来予想されるキャッシュ・フローを現在価値に割り引いて算出しております。

## (退職給付関係)

前連結会計年度	当連結会計年度																																
<p>1 採用している退職給付制度の概要</p> <p>提出会社及び国内連結子会社は、退職一時金制度を設けております。このほかに提出会社は、確定給付型の制度として基金型確定給付企業年金制度を、また、確定拠出型の制度として確定拠出年金制度を設けております。</p> <p>また、一部の在外連結子会社においても、確定給付型又は確定拠出型の退職給付制度を設けております。</p> <p>なお、提出会社の適格退職年金制度は、平成18年4月1日に基金型確定給付企業年金制度に移行しております。</p>	<p>1 採用している退職給付制度の概要</p> <p>同左</p>																																
<p>2 退職給付債務に関する事項(平成21年3月31日現在)</p> <p>(百万円)</p> <table> <tr> <td>イ 退職給付債務</td> <td>△264,037</td> </tr> <tr> <td>ロ 年金資産</td> <td>138,674</td> </tr> <tr> <td>ハ 未積立退職給付債務(イ+ロ)</td> <td>△125,363</td> </tr> <tr> <td>ニ 未認識数理計算上の差異</td> <td>44,746</td> </tr> <tr> <td>ホ 未認識過去勤務債務</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>ヘ 連結貸借対照表計上額純額(ハ+ニ+ホ)</td> <td>△80,616</td> </tr> <tr> <td>ト 前払年金費用</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>チ 退職給付引当金(ヘ+ト)</td> <td>△80,616</td> </tr> </table> <p>(注) 一部の連結子会社は、退職給付債務の算定にあたり、簡便法を採用しております。</p>	イ 退職給付債務	△264,037	ロ 年金資産	138,674	ハ 未積立退職給付債務(イ+ロ)	△125,363	ニ 未認識数理計算上の差異	44,746	ホ 未認識過去勤務債務	—	ヘ 連結貸借対照表計上額純額(ハ+ニ+ホ)	△80,616	ト 前払年金費用	—	チ 退職給付引当金(ヘ+ト)	△80,616	<p>2 退職給付債務に関する事項(平成22年3月31日現在)</p> <p>(百万円)</p> <table> <tr> <td>イ 退職給付債務</td> <td>△268,960</td> </tr> <tr> <td>ロ 年金資産</td> <td>153,654</td> </tr> <tr> <td>ハ 未積立退職給付債務(イ+ロ)</td> <td>△115,306</td> </tr> <tr> <td>ニ 未認識数理計算上の差異</td> <td>33,357</td> </tr> <tr> <td>ホ 未認識過去勤務債務</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>ヘ 連結貸借対照表計上額純額(ハ+ニ+ホ)</td> <td>△81,948</td> </tr> <tr> <td>ト 前払年金費用</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>チ 退職給付引当金(ヘ+ト)</td> <td>△81,948</td> </tr> </table> <p>(注) 同左</p>	イ 退職給付債務	△268,960	ロ 年金資産	153,654	ハ 未積立退職給付債務(イ+ロ)	△115,306	ニ 未認識数理計算上の差異	33,357	ホ 未認識過去勤務債務	—	ヘ 連結貸借対照表計上額純額(ハ+ニ+ホ)	△81,948	ト 前払年金費用	—	チ 退職給付引当金(ヘ+ト)	△81,948
イ 退職給付債務	△264,037																																
ロ 年金資産	138,674																																
ハ 未積立退職給付債務(イ+ロ)	△125,363																																
ニ 未認識数理計算上の差異	44,746																																
ホ 未認識過去勤務債務	—																																
ヘ 連結貸借対照表計上額純額(ハ+ニ+ホ)	△80,616																																
ト 前払年金費用	—																																
チ 退職給付引当金(ヘ+ト)	△80,616																																
イ 退職給付債務	△268,960																																
ロ 年金資産	153,654																																
ハ 未積立退職給付債務(イ+ロ)	△115,306																																
ニ 未認識数理計算上の差異	33,357																																
ホ 未認識過去勤務債務	—																																
ヘ 連結貸借対照表計上額純額(ハ+ニ+ホ)	△81,948																																
ト 前払年金費用	—																																
チ 退職給付引当金(ヘ+ト)	△81,948																																
<p>3 退職給付費用に関する事項</p> <p>(自平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)</p> <p>(百万円)</p> <table> <tr> <td>イ 勤務費用</td> <td>10,297</td> </tr> <tr> <td>ロ 利息費用</td> <td>5,217</td> </tr> <tr> <td>ハ 期待運用収益</td> <td>△4,667</td> </tr> <tr> <td>ニ 数理計算上の差異の費用処理額</td> <td>3,375</td> </tr> <tr> <td>ホ 過去勤務債務の費用処理額</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>ヘ 退職給付費用(イ+ロ+ハ+ニ+ホ)</td> <td>14,222</td> </tr> <tr> <td>ト その他</td> <td>2,392</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>16,615</td> </tr> </table> <p>(注) 1 簡便法を採用している連結子会社の退職給付費用は、「イ 勤務費用」に計上しております。</p> <p>2 「ト その他」は、確定拠出年金(海外の制度を含む)への掛金支払額であります。</p>	イ 勤務費用	10,297	ロ 利息費用	5,217	ハ 期待運用収益	△4,667	ニ 数理計算上の差異の費用処理額	3,375	ホ 過去勤務債務の費用処理額	—	ヘ 退職給付費用(イ+ロ+ハ+ニ+ホ)	14,222	ト その他	2,392	計	16,615	<p>3 退職給付費用に関する事項</p> <p>(自平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)</p> <p>(百万円)</p> <table> <tr> <td>イ 勤務費用</td> <td>10,696</td> </tr> <tr> <td>ロ 利息費用</td> <td>5,291</td> </tr> <tr> <td>ハ 期待運用収益</td> <td>△4,153</td> </tr> <tr> <td>ニ 数理計算上の差異の費用処理額</td> <td>5,662</td> </tr> <tr> <td>ホ 過去勤務債務の費用処理額</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>ヘ 退職給付費用(イ+ロ+ハ+ニ+ホ)</td> <td>17,496</td> </tr> <tr> <td>ト その他</td> <td>2,349</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>19,846</td> </tr> </table> <p>(注) 同左</p>	イ 勤務費用	10,696	ロ 利息費用	5,291	ハ 期待運用収益	△4,153	ニ 数理計算上の差異の費用処理額	5,662	ホ 過去勤務債務の費用処理額	—	ヘ 退職給付費用(イ+ロ+ハ+ニ+ホ)	17,496	ト その他	2,349	計	19,846
イ 勤務費用	10,297																																
ロ 利息費用	5,217																																
ハ 期待運用収益	△4,667																																
ニ 数理計算上の差異の費用処理額	3,375																																
ホ 過去勤務債務の費用処理額	—																																
ヘ 退職給付費用(イ+ロ+ハ+ニ+ホ)	14,222																																
ト その他	2,392																																
計	16,615																																
イ 勤務費用	10,696																																
ロ 利息費用	5,291																																
ハ 期待運用収益	△4,153																																
ニ 数理計算上の差異の費用処理額	5,662																																
ホ 過去勤務債務の費用処理額	—																																
ヘ 退職給付費用(イ+ロ+ハ+ニ+ホ)	17,496																																
ト その他	2,349																																
計	19,846																																



前連結会計年度	当連結会計年度
<p>4 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項</p> <p>イ 退職給付見込額の期間配分方法 期間定額基準</p> <p>ロ 割引率 主として 2.00%</p> <p>ハ 期待運用収益率 主として 3.00%</p> <p>ニ 過去勤務債務の処理年数 4年  (発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法によっております。)</p> <p>ホ 数理計算上の差異の処理年数  旧適格退職年金制度 4年  上記以外 主として 10年  (発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により、翌連結会計年度から費用処理することとしております。)</p>	<p>4 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項</p> <p>同左</p>

## (税効果会計関係)

前連結会計年度 (平成21年3月31日)	当連結会計年度 (平成22年3月31日)
1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳	1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳
(百万円)	(百万円)
繰延税金資産	繰延税金資産
有価証券	有価証券
49,813	41,157
土地等	土地等
11,440	12,354
ソフトウェア	ソフトウェア
18,513	18,292
責任準備金等	責任準備金等
170,809	180,832
支払備金	支払備金
19,731	22,468
退職給付引当金	退職給付引当金
28,960	29,430
その他	その他
33,975	23,006
繰延税金資産小計	繰延税金資産小計
333,244	327,543
評価性引当額	評価性引当額
△17,668	△18,423
繰延税金資産合計	繰延税金資産合計
315,576	309,119
繰延税金負債	繰延税金負債
その他有価証券評価差額金	その他有価証券評価差額金
△163,871	△323,968
その他	その他
△14,848	△11,240
繰延税金負債合計	繰延税金負債合計
△178,720	△335,209
繰延税金資産の純額	繰延税金負債の純額
136,856	△26,089
2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳	2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳
(%)	(%)
国内の法定実効税率	国内の法定実効税率
36.1	36.1
(調整)	(調整)
税効果を認識しない連結子会社の当期損失	受取配当等の益金不算入額
68.4	△10.5
受取配当等の益金不算入額	在外連結子会社との税率差異
△46.2	△9.0
現物配当に伴うみなし譲渡損失	連結子会社からの受取配当金消去額
△45.7	5.4
在外連結子会社との税率差異	のれん及び負ののれん償却額
△15.7	2.7
連結子会社からの受取配当金消去額	その他
10.1	0.3
その他	税効果会計適用後の法人税等の負担率
2.3	25.0
税効果会計適用後の法人税等の負担率	
9.3	

(賃貸等不動産関係)

当連結会計年度(自平成21年4月1日至平成22年3月31日)

- 1 提出会社及び一部の連結子会社では、東京都その他の地域において、賃貸オフィスビル等を所有しております。これら賃貸等不動産の連結貸借対照表計上額、当連結会計年度増減額及び時価は次のとおりであります。

連結貸借対照表計上額			当連結会計年度末の時価 (百万円)
前連結会計年度末残高 (百万円)	当連結会計年度増減額 (百万円)	当連結会計年度末残高 (百万円)	
47,903	△2,568	45,335	111,981

- (注) 1 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額を控除した金額であります。  
2 当連結会計年度増減額のうち、主な増加額は自社使用から遊休等への用途変更(2,904百万円)であり、主な減少額は減損損失(2,982百万円)であります。  
3 当連結会計年度末の時価は、主に社外の不動産鑑定士による不動産鑑定評価書に基づく金額であります。

- 2 賃貸等不動産に関する損益は次のとおりであります。

賃貸収益 (百万円)	賃貸費用 (百万円)	差額 (百万円)	その他(売却損益等) (百万円)
7,145	3,637	3,508	△280

- (注) 賃貸収益は「利息及び配当金収入」に、賃貸費用(減価償却費、修繕費、保険料、租税公課等)は「営業費及び一般管理費」に計上しております。また、その他は売却損益及び減損損失であり、「特別利益」又は「特別損失」に計上しております。

## (セグメント情報)

## 【事業の種類別セグメント情報】

前連結会計年度(自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)

	損害保険事業 (百万円)	生命保険事業 (百万円)	計 (百万円)	消去 (百万円)	連結 (百万円)
I 経常収益及び経常損益					
経常収益					
(1) 外部顧客に対する経常収益	1,944,681	38,561	1,983,243	(21,945)	1,961,297
(2) セグメント間の内部経常収益	683	—	683	(683)	—
計	1,945,365	38,561	1,983,927	(22,629)	1,961,297
経常費用	1,951,082	38,699	1,989,781	(22,629)	1,967,151
経常損失	5,717	137	5,854	—	5,854
II 資産・減価償却費・減損損失 及び資本的支出					
資産	6,297,181	—	6,297,181	—	6,297,181
減価償却費	21,066	57	21,123	—	21,123
減損損失	1,044	—	1,044	—	1,044
資本的支出	21,505	31	21,537	—	21,537

(注) 1 事業区分は、提出会社及び連結子会社における業務の実態を勘案して区分しております。

## 2 各事業区分の主要な事業内容

損害保険事業……損害保険引受業務及び資産運用業務

生命保険事業……生命保険引受業務及び資産運用業務

なお、生命保険事業は、三井住友海上きらめき生命保険株式会社及び三井住友海上メットライフ生命保険株式会社の株式の現物配当により、親会社である三井住友海上グループホールディングス株式会社に移管されたため、上記セグメント情報には期首から平成20年6月30日までの損益等を記載しております。

3 当連結会計年度における外部顧客に対する経常収益の消去欄の金額のうち主なものは、生命保険事業セグメントに係る経常費用のうちの責任準備金等繰入額を連結損益計算書上は経常収益のうちの責任準備金等戻入額に含めて表示したことによる振替額であります。

## 4 会計方針の変更

「連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」の適用

当連結会計年度より、「連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」(実務対応報告第18号 平成18年5月17日)を適用し、連結決算上必要な修正を行っております。この結果、従来の方法に比べ、損害保険事業に係る経常収益が475百万円減少、経常費用が1,392百万円増加し、損害保険事業の経常損失が1,867百万円増加しております。

当連結会計年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

提出会社及び連結子会社は、損害保険事業以外に開示の対象とすべきセグメントがないため、事業の種類別セグメント情報の記載を省略しております。

なお、投資事業は損害保険事業の一環として行っており、独立したセグメントではありません。

【所在地別セグメント情報】

前連結会計年度（自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日）

	日本 (百万円)	アジア (百万円)	欧州 (百万円)	米州 (百万円)	計 (百万円)	消去 (百万円)	連結 (百万円)
I 経常収益及び経常損益							
経常収益							
(1) 外部顧客に対する経常収益	1,783,183	77,704	94,631	41,190	1,996,709	(35,412)	1,961,297
(2) セグメント間の内部経常収益	5,327	247	75	20	5,671	(5,671)	—
計	1,788,510	77,952	94,706	41,211	2,002,381	(41,083)	1,961,297
経常費用	1,763,520	74,505	131,036	34,527	2,003,590	(36,438)	1,967,151
経常利益又は経常損失(△)	24,989	3,446	△36,329	6,683	△1,209	(4,645)	△5,854
II 資産	5,692,808	226,456	229,669	161,272	6,310,206	(13,025)	6,297,181

(注) 1 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。

2 日本以外の区分に属する主な国又は地域

①アジア…………マレーシア、台湾、シンガポール

②欧州…………英国、アイルランド

③米州…………米国、ブラジル、バミューダ

3 当連結会計年度における外部顧客に対する経常収益の消去欄の金額のうち主なものは、日本に係る経常収益のうちの支払備金戻入額を連結損益計算書上は経常費用のうちの支払備金繰入額に含めて表示したことによる振替額であります。

4 会計方針の変更

「連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」の適用

当連結会計年度より、「連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」（実務対応報告第18号 平成18年5月17日）を適用し、連結決算上必要な修正を行っております。この結果、従来の方法に比べ、アジアに係る経常費用が946百万円増加し、経常利益が同額減少、欧州に係る経常収益が879百万円減少、経常費用が12百万円増加し、経常利益が891百万円減少、米州に係る経常費用が29百万円増加し、経常利益が同額減少しております。

当連結会計年度（自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日）

	日本 (百万円)	アジア (百万円)	欧州 (百万円)	米州 (百万円)	計 (百万円)	消去 (百万円)	連結 (百万円)
I 経常収益及び経常損益							
経常収益							
(1) 外部顧客に対する経常収益	1,629,890	72,802	105,887	43,950	1,852,530	(5,644)	1,846,886
(2) セグメント間の内部経常収益	7,591	266	86	14	7,959	(7,959)	—
計	1,637,482	73,069	105,973	43,964	1,860,490	(13,603)	1,846,886
経常費用	1,601,730	64,964	104,052	33,656	1,804,403	(7,167)	1,797,236
経常利益	35,752	8,105	1,920	10,308	56,086	(6,435)	49,650
II 資産	5,690,628	236,388	209,031	164,382	6,300,431	(10,104)	6,290,327

(注) 1 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。

2 日本以外の区分に属する主な国又は地域

①アジア…………マレーシア、台湾、シンガポール

②欧州…………英国、アイルランド

③米州…………米国、ブラジル、バミューダ

3 当連結会計年度における外部顧客に対する経常収益の消去欄の金額のうち主なものは、アジア及び米州に係る経常費用のうちの責任準備金等繰入額を連結損益計算書上は経常収益のうちの責任準備金等戻入額に含めて表示したことによる振替額であります。

【海外売上高】

前連結会計年度（自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日）

	アジア	欧州	米州	計
I 海外売上高（百万円）	111,135	94,590	53,514	259,240
II 連結経常収益（百万円）				1,961,297
III 連結経常収益に占める海外売上高の割合（%）	5.67	4.82	2.73	13.22

（注）1 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。

2 各区分に属する主な国又は地域

①アジア…マレーシア、台湾、シンガポール

②欧州…英国、アイルランド

③米州…米国、ブラジル、バミューダ

3 海外売上高は、提出会社の海外売上高及び在外連結子会社の経常収益の合計額であります。

当連結会計年度（自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日）

	アジア	欧州	米州	計
I 海外売上高（百万円）	102,367	105,754	54,139	262,262
II 連結経常収益（百万円）				1,846,886
III 連結経常収益に占める海外売上高の割合（%）	5.54	5.73	2.93	14.20

（注）1 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。

2 各区分に属する主な国又は地域

①アジア…マレーシア、シンガポール、台湾

②欧州…英国、アイルランド

③米州…米国、ブラジル、バミューダ

3 海外売上高は、提出会社の海外売上高及び在外連結子会社の経常収益の合計額であります。

【関連当事者情報】

前連結会計年度（自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日）

（追加情報）

当連結会計年度より、「関連当事者の開示に関する会計基準」（企業会計基準第11号 平成18年10月17日）及び「関連当事者の開示に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第13号 平成18年10月17日）を適用しております。なお、関連当事者との取引について従来の開示対象範囲から変更はありません。

1 関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の非連結子会社及び関連会社等

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の 所有(被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
子会社	三井住友海上ローンサービス株式会社	東京都中央区	186	消費者ローンに係る信用保証及び住宅ローン保証保険等に係る事務代行	(所有) 直接 50.0% 間接 50.0%	提出会社の行う消費者ローンに係る信用保証 提出会社の引き受ける住宅ローン保証保険等の事務代行 役員の派遣	第三者との取引に係る債務保証 (注)	113,877	-	-

取引条件及び取引条件の決定方針等

提出会社は三井住友海上ローンサービス株式会社とあらかじめローン種類ごとに融資条件を呈示した包括保証の約定書を取り交わしており、これに基づき保証を受けております。

(注) 提出会社は第三者に対する住宅ローン等の貸付に対して、三井住友海上ローンサービス株式会社より債務保証を受けております。

2 親会社又は重要な関連会社に関する注記

親会社情報

三井住友海上グループホールディングス株式会社（東京証券取引所、大阪証券取引所及び名古屋証券取引所に上場）

当連結会計年度（自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日）

1 関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の非連結子会社及び関連会社等

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の 所有(被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
子会社	三井住友海上ローンサービス株式会社	東京都中央区	186	消費者ローンに係る信用保証及び住宅ローン保証保険等に係る事務代行	(所有) 直接 20.0% 間接 80.0%	提出会社の行う消費者ローンに係る信用保証 提出会社の引き受ける住宅ローン保証保険等の事務代行 役員の派遣	第三者との取引に係る債務保証 (注)	117,359	-	-

取引条件及び取引条件の決定方針等

提出会社は三井住友海上ローンサービス株式会社とあらかじめローン種類ごとに融資条件を呈示した包括保証の約定書を取り交わしており、これに基づき保証を受けております。

(注) 提出会社は第三者に対する住宅ローン等の貸付に対して、三井住友海上ローンサービス株式会社より債務保証を受けております。

2 親会社又は重要な関連会社に関する注記

親会社情報

三井住友海上グループホールディングス株式会社（現MS & ADインシュアランスグループホールディングス株式会社）（東京証券取引所、大阪証券取引所及び名古屋証券取引所に上場）



## (1株当たり情報)

前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)		当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	
1株当たり純資産額	653.75円	1株当たり純資産額	855.92円
1株当たり当期純利益金額	10.66円	1株当たり当期純利益金額	24.79円

- (注) 1 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。  
2 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
当期純利益 (百万円)	14,972	34,815
普通株式に係る当期純利益 (百万円)	14,972	34,815
普通株式の期中平均株式数 (千株)	1,404,402	1,404,402

- 3 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度末 (平成21年3月31日)	当連結会計年度末 (平成22年3月31日)
純資産の部の合計額 (百万円)	928,094	1,206,255
純資産の部の合計額から控除する金額 (百万円)	9,952	4,188
(うち少数株主持分) (百万円)	(9,952)	(4,188)
普通株式に係る期末の純資産額 (百万円)	918,142	1,202,066
1株当たり純資産額の算定に用いられた 期末の普通株式の数 (千株)	1,404,402	1,404,402

(重要な後発事象)

前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
	<p>(資本提携及び業務提携)</p> <p>提出会社は、平成22年6月18日、マレーシアの有力コングロマリットであるHong Leong Financial Group (以下、ホンレオングループという。)と損害保険事業・生命保険事業にわたる戦略的提携を行うことに関する基本契約書を締結いたしました。その要旨は以下のとおりであります。</p> <p>(1) 提携の目的</p> <p>成長分野である海外事業の戦略地域であるアジア市場において、損害保険事業の拡大と生命保険市場への参入を同時に実現し、アジア市場において安定的な事業基盤を確立させます。</p> <p>(2) 提携の概要</p> <p>① 損害保険事業</p> <p>提出会社の子会社であるMSIG Insurance (Malaysia) Bhd. は、ホンレオングループ傘下のHong Leong Assurance Berhadの損害保険事業を統合いたします。また、MSIG Insurance (Malaysia) Bhd. は損害保険事業を譲り受ける対価として新株を発行します。これにより、ホンレオングループはMSIG Insurance (Malaysia) Bhd. の株式を30%保有することになります。</p> <p>② 生命保険事業</p> <p>提出会社はHong Leong Assurance Berhadの既存株式の30%を取得(取得金額: 940百万マレーシアリングgit(約254億円))し、マレーシアの生命保険市場に参入いたします。(1マレーシアリングgit=27円で換算。)</p> <p>③ ホンレオングループの銀行を通じた保険販売を拡大展開</p> <p>損害保険事業、生命保険事業ともに、ホンレオングループ傘下の銀行を通じた保険販売を展開・拡大し、販売力を強化いたします。</p> <p>(3) 提携の時期</p> <p>マレーシアの裁判所の許可等を前提として、今秋を予定しております。</p>

## ⑤【連結附属明細表】

## イ【社債明細表】

会社名	銘柄	発行年月日	前期末残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	利率 (%)	担保	償還期限
提出会社	第2回無担保社債 (社債間限定同順位 特約付)	平成16年 11月19日	70,000	—	0.80	なし	平成21年 12月18日
提出会社	第3回無担保社債 (社債間限定同順位 特約付)	平成19年 11月15日	29,993	29,995	1.31	なし	平成24年 12月20日
提出会社	第4回無担保社債 (社債間限定同順位 特約付)	平成21年 3月13日	64,967	64,974	1.74	なし	平成26年 3月20日
合計	—	—	164,960	94,969	—	—	—

(注) 連結決算日後5年以内における償還予定額は以下のとおりであります。

1年以内 (百万円)	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
—	—	30,000	65,000	—

ロ【借入金等明細表】

区分	前期末残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	—	—	—	—
1年以内に返済予定の長期借入金	—	—	—	—
1年以内に返済予定のリース債務	635	504	—	—
長期借入金 (1年以内に返済予定のものを除く。)	—	—	—	—
リース債務 (1年以内に返済予定のものを除く。)	597	459	—	平成23年4月30日～ 平成28年3月31日
其他有利子負債	—	—	—	—
合計	1,232	964	—	—

(注) 1 本表記載のリース債務は連結貸借対照表の「其他負債」に含まれております。

2 リース債務の「平均利率」については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上しているため、記載しておりません。

3 リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年内における返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内
リース債務 (百万円)	322	123	7	2

(2)【其他】

該当事項はありません。

2 【財務諸表等】  
 (1) 【財務諸表】  
 ① 【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成21年3月31日)	当事業年度 (平成22年3月31日)
資産の部		
現金及び預貯金	243,868	183,387
現金	435	333
預貯金	243,432	183,053
コールローン	31,900	33,700
買現先勘定	—	15,998
買入金銭債権	122,658	102,027
金銭の信託	14,421	10,524
有価証券	※3, ※4, ※9 4,095,321	※3, ※4, ※9 4,327,376
国債	359,394	469,539
地方債	127,410	114,421
社債	1,131,864	1,072,879
株式	1,379,633	1,723,919
外国証券	1,037,482	900,478
その他の証券	59,534	46,138
貸付金	※6, ※12 754,645	※6, ※12 718,587
保険約款貸付	14,542	13,440
一般貸付	740,103	705,147
有形固定資産	※1 247,624	※1 239,336
土地	96,642	94,567
建物	128,593	123,153
建設仮勘定	1,356	4,410
その他の有形固定資産	21,033	17,204
無形固定資産	※13 3,535	7,465
ソフトウェア	—	3,617
その他の無形固定資産	3,535	3,847
その他資産	330,293	337,004
未収保険料	2,596	3,448
代理店貸	73,073	82,707
外国代理店貸	49	2
共同保険貸	8,754	7,898
再保険貸	49,564	50,970
外国再保険貸	15,751	14,705
代理業務貸	749	359
未収金	11,795	15,120
未収収益	13,578	10,936
預託金	19,988	19,185
地震保険預託金	72,307	76,556
仮払金	36,543	40,585
先物取引差入証拠金	0	—
金融派生商品	24,850	13,839
その他の資産	690	690
繰延税金資産	133,081	—
支払承諾見返	※10 5,527	※10 4,577
貸倒引当金	△5,531	△8,004
資産の部合計	5,977,347	5,971,982

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成21年3月31日)	当事業年度 (平成22年3月31日)
負債の部		
保険契約準備金	4,508,974	4,386,065
支払備金	※7 559,493	※7 540,188
責任準備金	※8 3,949,481	※8 3,845,876
社債	164,960	94,969
その他負債	261,397	155,581
共同保険借	9,114	10,141
再保険借	34,498	36,161
外国再保険借	14,562	12,037
代理業務借	111	162
債券貸借取引受入担保金	60,508	—
未払法人税等	※5 23,278	9,969
預り金	32,585	23,683
前受収益	103	77
未払金	25,889	29,822
仮受金	17,478	16,186
金融派生商品	42,031	16,372
リース債務	1,232	964
その他の負債	1	1
退職給付引当金	79,553	81,009
役員退職慰労引当金	2,311	2,003
賞与引当金	10,317	10,375
特別法上の準備金	2,871	2,689
価格変動準備金	2,871	2,689
繰延税金負債	—	29,397
支払承諾	※10 5,527	※10 4,577
負債の部合計	5,035,915	4,766,667

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成21年3月31日)	当事業年度 (平成22年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	139,595	139,595
資本剰余金		
資本準備金	93,107	93,107
資本剰余金合計	93,107	93,107
利益剰余金		
利益準備金	46,487	46,487
その他利益剰余金	368,321	356,405
特別積立金	283,400	283,400
海外投資等損失準備金	0	—
圧縮記帳積立金	7,503	8,304
圧縮特別勘定積立金	547	1,269
繰越利益剰余金	76,871	63,430
利益剰余金合計	414,809	402,893
株主資本合計	647,512	635,596
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	284,248	567,580
繰延ヘッジ損益	9,671	2,138
評価・換算差額等合計	293,919	569,718
純資産の部合計	941,431	1,205,315
負債及び純資産の部合計	5,977,347	5,971,982

## ②【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
経常収益	1,765,998	1,636,934
保険引受収益	1,598,901	1,525,130
正味収入保険料	※2 1,234,011	※2 1,203,007
収入積立保険料	165,464	145,026
積立保険料等運用益	52,862	54,064
支払備金戻入額	※5 30,489	※5 19,304
責任準備金戻入額	※6 115,955	※6 103,605
その他保険引受収益	118	122
資産運用収益	161,420	107,640
利息及び配当金収入	※7 137,877	※7 117,477
金銭の信託運用益	※8 118	※8 675
有価証券売却益	72,585	15,354
有価証券償還益	3,448	2,352
金融派生商品収益	—	※8 25,238
その他運用収益	253	605
積立保険料等運用益振替	△52,862	△54,064
その他経常収益	5,675	4,163
経常費用	1,740,465	1,601,148
保険引受費用	1,354,265	1,333,731
正味支払保険金	※3 784,803	※3 771,996
損害調査費	76,143	74,487
諸手数料及び集金費	※4 207,902	※4 207,128
満期返戻金	283,405	278,423
契約者配当金	507	1,062
為替差損	1,270	343
その他保険引受費用	232	288
資産運用費用	155,750	42,373
金銭の信託運用損	※8 2,661	※8 21
有価証券売却損	12,343	15,128
有価証券評価損	109,537	4,877
有価証券償還損	9,160	4,459
金融派生商品費用	※8 774	—
為替差損	9,505	190
その他運用費用	11,768	17,695
営業費及び一般管理費	225,994	218,916
その他経常費用	4,454	6,126
支払利息	1,625	2,133
貸倒引当金繰入額	1,459	2,566
貸倒損失	141	17
その他の経常費用	1,228	1,408
経常利益	25,532	35,786



(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
特別利益	27,308	3,285
固定資産処分益	1,361	3,103
特別法上の準備金戻入額	25,947	182
価格変動準備金戻入額	25,947	182
特別損失	3,651	5,933
固定資産処分損	2,608	2,502
減損損失	※9 1,043	※9 3,431
税引前当期純利益	49,190	33,138
法人税及び住民税	29,264	14,961
過年度法人税等戻入額	△7,307	△13,947
法人税等調整額	△19,347	6,666
法人税等合計	2,609	7,680
当期純利益	46,580	25,458

## ③【株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
<b>株主資本</b>		
資本金		
前期末残高	139,595	139,595
当期末残高	139,595	139,595
資本剰余金		
資本準備金		
前期末残高	93,107	93,107
当期末残高	93,107	93,107
利益剰余金		
利益準備金		
前期末残高	46,487	46,487
当期末残高	46,487	46,487
その他利益剰余金		
特別積立金		
前期末残高	183,400	283,400
当期変動額		
特別積立金の積立	100,000	—
当期変動額合計	100,000	—
当期末残高	283,400	283,400
配当準備積立金		
前期末残高	77,200	—
当期変動額		
配当準備積立金の取崩	△77,200	—
当期変動額合計	△77,200	—
当期末残高	—	—
保険契約特別積立金		
前期末残高	193,900	—
当期変動額		
保険契約特別積立金の取崩	△193,900	—
当期変動額合計	△193,900	—
当期末残高	—	—
海外投資等損失準備金		
前期末残高	0	0
当期変動額		
海外投資等損失準備金の取崩	△0	△0
当期変動額合計	△0	△0
当期末残高	0	—

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
<b>圧縮記帳積立金</b>		
前期末残高	7,452	7,503
当期変動額		
圧縮記帳積立金の積立	86	851
圧縮記帳積立金の取崩	△35	△50
当期変動額合計	50	800
当期末残高	7,503	8,304
<b>圧縮特別勘定積立金</b>		
前期末残高	—	547
当期変動額		
圧縮特別勘定積立金の積立	547	1,269
圧縮特別勘定積立金の取崩	—	△547
当期変動額合計	547	722
当期末残高	547	1,269
<b>繰越利益剰余金</b>		
前期末残高	5,271	76,871
当期変動額		
特別積立金の積立	△100,000	—
配当準備積立金の取崩	77,200	—
保険契約特別積立金の取崩	193,900	—
海外投資等損失準備金の取崩	0	0
圧縮記帳積立金の積立	△86	△851
圧縮記帳積立金の取崩	35	50
圧縮特別勘定積立金の積立	△547	△1,269
圧縮特別勘定積立金の取崩	—	547
剰余金の配当	△145,482	△37,375
当期純利益	46,580	25,458
当期変動額合計	71,600	△13,440
当期末残高	76,871	63,430
<b>株主資本合計</b>		
前期末残高	746,414	647,512
当期変動額		
剰余金の配当	△145,482	△37,375
当期純利益	46,580	25,458
当期変動額合計	△98,902	△11,916
当期末残高	647,512	635,596

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		
前期末残高	862,121	284,248
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	△577,873	283,332
当期変動額合計	△577,873	283,332
当期末残高	284,248	567,580
繰延ヘッジ損益		
前期末残高	528	9,671
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	9,142	△7,532
当期変動額合計	9,142	△7,532
当期末残高	9,671	2,138
純資産合計		
前期末残高	1,609,065	941,431
当期変動額		
剰余金の配当	△145,482	△37,375
当期純利益	46,580	25,458
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	△568,731	275,799
当期変動額合計	△667,633	263,883
当期末残高	941,431	1,205,315

【重要な会計方針】

<p>前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)</p>	<p>当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)</p>
<p>1 有価証券（保険業法施行規則上の「現金及び預貯金」又は「買入金銭債権」に区分されるものを含む）の評価基準及び評価方法</p> <p>(1) 満期保有目的の債券の評価は、償却原価法によっております。</p> <p>(2) 子会社株式及び関連会社株式の評価は、移動平均法に基づく原価法によっております。</p> <p>(3) その他有価証券のうち時価のあるものの評価は、期末日の市場価格等に基づく時価法によっております。 なお、評価差額は全部純資産直入法により処理し、また、売却原価の算定は移動平均法に基づいております。</p> <p>(4) その他有価証券のうち時価のないものの評価は、移動平均法に基づく原価法又は償却原価法によっております。</p> <p>(5) 有価証券運用を主目的とする単独運用の金銭の信託において信託財産として運用されている有価証券の評価は、時価法によっております。</p> <p>2 デリバティブ取引の評価基準及び評価方法 デリバティブ取引の評価は、時価法によっております。ただし、為替予約等の振当処理の適用要件を満たすものについて振当処理を、金利スワップの特例処理の適用要件を満たすものについて特例処理を適用しております。</p> <p>3 有形固定資産の減価償却の方法 有形固定資産の減価償却は定率法によっております。ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）については、定額法によっております。</p> <p>4 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準 外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。</p>	<p>1 有価証券（保険業法施行規則上の「現金及び預貯金」又は「買入金銭債権」に区分されるものを含む）の評価基準及び評価方法</p> <p>(1) 同左</p> <p>(2) 同左</p> <p>(3) 同左</p> <p>(4) その他有価証券のうち時価を把握することが極めて困難と認められるものの評価は、移動平均法に基づく原価法によっております。</p> <p>(5) 同左</p> <p>(会計方針の変更) 「金融商品に関する会計基準」の適用 当事業年度末より、「金融商品に関する会計基準」（企業会計基準第10号（平成20年3月10日 最終改正））を適用し、時価をもって評価する有価証券の範囲を変更しております。なお、当該会計基準の適用が財務諸表に与える影響は軽微であります。</p> <p>2 デリバティブ取引の評価基準及び評価方法 同左</p> <p>3 有形固定資産の減価償却の方法 同左</p> <p>4 無形固定資産の減価償却の方法 自社利用のソフトウェアの減価償却は、見積利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。</p> <p>5 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準 同左</p>

<p style="text-align: center;">前事業年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日)</p>	<p style="text-align: center;">当事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)</p>
<p>5 引当金の計上基準</p> <p>(1) 貸倒引当金</p> <p>債権の貸倒れによる損失に備えるため、資産の自己査定基準及び償却・引当基準により、次のとおり計上しております。</p> <p>破産、特別清算、手形交換所における取引停止処分等、法的・形式的に経営破綻の事実が発生している債務者に対する債権及び実質的に経営破綻に陥っている債務者に対する債権については、債権額から担保の処分可能見込額及び保証による回収が可能と認められる額等を控除し、その残額を引き当てております。</p> <p>今後、経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者に対する債権については、債権額から担保の処分可能見込額及び保証による回収が可能と認められる額を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断して必要と認められる額を引き当てております。</p> <p>上記以外の債権については、過去の一定期間における貸倒実績等から算出した貸倒実績率を債権額に乗じた額を引き当てております。</p> <p>また、全ての債権は資産の自己査定基準に基づき、各資産を所管する部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した業務監査部が査定結果を監査しており、その査定結果に基づいて上記の引き当てを行っております。</p> <p>(2) 退職給付引当金</p> <p>従業員の退職給付に備えるため、当期末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。</p> <p>過去勤務債務は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により費用処理しております。</p> <p>数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により翌期から費用処理することとしております。</p>	<p>6 引当金の計上基準</p> <p>(1) 貸倒引当金</p> <p>債権の貸倒れによる損失に備えるため、資産の自己査定基準及び償却・引当基準により、次のとおり計上しております。</p> <p>破産、特別清算、手形交換所における取引停止処分等、法的・形式的に経営破綻の事実が発生している債務者に対する債権及び実質的に経営破綻に陥っている債務者に対する債権については、債権額から担保の処分可能見込額及び保証による回収が可能と認められる額等を控除し、その残額を引き当てております。</p> <p>今後、経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者に対する債権については、債権額から担保の処分可能見込額及び保証による回収が可能と認められる額等を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断して必要と認められる額を引き当てております。</p> <p>上記以外の債権については、過去の一定期間における貸倒実績等から算出した貸倒実績率を債権額に乗じた額を引き当てております。</p> <p>また、全ての債権は資産の自己査定基準に基づき、各資産を所管する部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した業務監査部が査定結果を監査しており、その査定結果に基づいて上記の引き当てを行っております。</p> <p>(2) 退職給付引当金</p> <p>従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。</p> <p>過去勤務債務は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により費用処理しております。</p> <p>数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により翌事業年度から費用処理することとしております。</p> <p>(会計方針の変更)</p> <p>「『退職給付に係る会計基準』の一部改正(その3)」の適用</p> <p>当事業年度末より、「『退職給付に係る会計基準』の一部改正(その3)」(企業会計基準第19号 平成20年7月31日)を適用しております。なお、従来の方法による割引率と同一の割引率を使用することとなったため、当事業年度の財務諸表に与える影響はありません。</p>

<p style="text-align: center;">前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)</p>	<p style="text-align: center;">当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)</p>
<p>(3) 役員退職慰労引当金 役員及び執行役員の退職慰労金（年金を含む）の支出に備えるため、当該退職慰労金の制度を廃止した平成17年3月末までの在任期間中の職務遂行に係る対価相当額を計上しております。</p> <p>(4) 賞与引当金 従業員及び執行役員の賞与に充てるため、期末における支給見込額を基準に計上しております。</p> <p>(5) 価格変動準備金 株式等の価格変動による損失に備えるため、保険業法第115条の規定に基づき計上しております。</p> <p>6 消費税等の会計処理 消費税等の会計処理は税抜方式によっております。ただし、損害調査費、営業費及び一般管理費等の費用は税込方式によっております。 なお、資産に係る控除対象外消費税等は仮払金に計上し、5年間で均等償却を行っております。</p> <p>7 リース取引の処理方法 所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年4月1日前に開始する事業年度に属するものについては、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。 (会計方針の変更) 「リース取引に関する会計基準」の適用 所有権移転外ファイナンス・リース取引については、従来、賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっておりましたが、「リース取引に関する会計基準」（企業会計基準第13号（平成5年6月17日（企業会計審議会第一部会）、平成19年3月30日改正））及び「リース取引に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第16号（平成6年1月18日（日本公認会計士協会 会計制度委員会）、平成19年3月30日改正））が平成20年4月1日以後開始する事業年度から適用されることになったことに伴い、当事業年度からこれらの会計基準等を適用し、リース取引開始日が平成20年4月1日以降の所有権移転外ファイナンス・リース取引について通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理によることとしております。 これらの会計基準等の適用が財務諸表に与える影響は軽微であります。</p>	<p>(3) 役員退職慰労引当金 同左</p> <p>(4) 賞与引当金 従業員及び執行役員の賞与に充てるため、当事業年度末における支給見込額を基準に計上しております。</p> <p>(5) 価格変動準備金 同左</p> <p>7 消費税等の会計処理 同左</p>

<p style="text-align: center;">前事業年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日)</p>	<p style="text-align: center;">当事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)</p>
<p>8 ヘッジ会計の方法</p> <p>株価変動リスクをヘッジする目的で実施する株式先渡取引については繰延ヘッジを適用しております。外貨建債券等に係る為替変動リスクをヘッジする目的で実施する取引のうち、通貨スワップ取引については繰延ヘッジを適用し、為替予約取引の一部については時価ヘッジ又は振当処理を適用しております。また、金利変動に伴う貸付金及び債券のキャッシュ・フロー変動リスクをヘッジする目的で実施する金利スワップ取引については、繰延ヘッジ又は金利スワップの特例処理を適用しております。</p> <p>なお、ヘッジの有効性については、ヘッジ開始時から有効性判定時点までの期間において、ヘッジ対象の相場変動又はキャッシュ・フロー変動の累計とヘッジ手段の相場変動又はキャッシュ・フロー変動の累計とを四半期毎に比較し、両者の変動額等を基礎にして判断しております。ただし、ヘッジ対象とヘッジ手段との間に高い相関関係があることが明らかなもの及び金利スワップの特例処理の適用要件を満たすものについては、ヘッジ有効性の判定は省略しております。また、ALM（資産負債総合管理）における金利変動リスクを適切にコントロールする目的で実施している金利スワップ取引の一部については、業種別監査委員会報告第26号「保険業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会 平成14年9月3日）に基づく繰延ヘッジ処理及びヘッジ有効性の評価を行っております。ヘッジ有効性の評価はヘッジ対象とヘッジ手段双方の理論価格の算定に影響を与える金利の状況を検証することにより行っております。</p>	<p>8 ヘッジ会計の方法</p> <p style="text-align: right;">同左</p>

【表示方法の変更】

<p style="text-align: center;">前事業年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日)</p>	<p style="text-align: center;">当事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)</p>
<p>(貸借対照表関係)</p> <p>保険業法施行規則の改正により、従来「その他の負債」に含めて表示していた「リース債務」を、当事業年度から区分掲記しております。</p> <p>なお、前事業年度末の「その他の負債」に含まれるリース債務は、1,433百万円であります。</p>	<p style="text-align: center;">—————</p>



【注記事項】

(貸借対照表関係)

前事業年度 (平成21年3月31日)	当事業年度 (平成22年3月31日)
<p>※1 有形固定資産の減価償却累計額は265,924百万円、圧縮記帳額は18,885百万円であります。</p> <p>2 関係会社に対する金銭債権（貸付金、外国再保険貸等）の総額は37,780百万円（社債16,419百万円を含む）、金銭債務（預り金、外国再保険借等）の総額は18,680百万円であります。</p> <p>※3 関係会社の株式の額は274,155百万円、出資金の額は15,624百万円、社債の額は16,419百万円であります。</p> <p>※4 担保に供している資産は有価証券53,851百万円であります。これは、海外営業のための供託資産及び日本銀行当座預金決済の即時グロス決済制度のために差し入れているもの等であります。</p> <p>※5 未払法人税等は、事業税の未払額2,918百万円並びに法人税及び住民税の未払額20,360百万円であります。</p> <p>※6</p> <p>(1) 貸付金のうち、破綻先債権額は13百万円、延滞債権額は2,609百万円であります。</p> <p>なお、破綻先債権とは、元本又は利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸付金（貸倒償却を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸付金」という。）のうち、法人税法施行令（昭和40年政令第97号）第96条第1項第3号イからホまで（貸倒引当金勘定への繰入限度額）に掲げる事由又は同項第4号に規定する事由が生じている貸付金であります。</p> <p>また、延滞債権とは、未収利息不計上貸付金であって、破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予した貸付金以外の貸付金であります。</p> <p>(2) 貸付金のうち、3カ月以上延滞債権額は817百万円あります。</p> <p>なお、3カ月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が、約定支払日の翌日から3月以上遅延している貸付金で破綻先債権及び延滞債権に該当しないものであります。</p>	<p>※1 有形固定資産の減価償却累計額は275,257百万円、圧縮記帳額は18,713百万円あります。</p> <p>2 関係会社に対する金銭債権（外国再保険貸、未収収益等）の総額は8,483百万円（社債2,823百万円を含む）、金銭債務（預り金、未払金等）の総額は17,398百万円あります。</p> <p>※3 関係会社の株式の額は283,642百万円、出資金の額は15,193百万円、社債の額は2,823百万円あります。</p> <p>※4 担保に供している資産は有価証券61,341百万円あります。これは、海外営業のための供託資産及び日本銀行当座預金決済の即時グロス決済制度のために差し入れているもの等であります。</p> <p>※6</p> <p>(1) 貸付金のうち、破綻先債権額は1,441百万円、延滞債権額は2,426百万円あります。</p> <p>なお、破綻先債権とは、元本又は利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸付金（貸倒償却を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸付金」という。）のうち、法人税法施行令（昭和40年政令第97号）第96条第1項第3号イからホまで（貸倒引当金勘定への繰入限度額）に掲げる事由又は同項第4号に規定する事由が生じている貸付金であります。</p> <p>また、延滞債権とは、未収利息不計上貸付金であって、破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予した貸付金以外の貸付金であります。</p> <p>(2) 貸付金のうち、3カ月以上延滞債権額は855百万円あります。</p> <p>なお、3カ月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が、約定支払日の翌日から3月以上遅延している貸付金で破綻先債権及び延滞債権に該当しないものであります。</p>

前事業年度 (平成21年3月31日)	当事業年度 (平成22年3月31日)																																																				
<p>(3) 貸付金のうち、貸付条件緩和債権額は845百万円であります。</p> <p>なお、貸付条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸付金で、破綻先債権、延滞債権及び3カ月以上延滞債権に該当しないものであります。</p> <p>(4) 破綻先債権額、延滞債権額、3カ月以上延滞債権額及び貸付条件緩和債権額の合計額は4,285百万円であります。</p> <p>※7 支払備金の内訳は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">支払備金（出再支払備金控除前、(ロ)に掲げる保険を除く）</td> <td style="text-align: right;">564,259 百万円</td> </tr> <tr> <td>同上に係る出再支払備金</td> <td style="text-align: right;">53,979 百万円</td> </tr> <tr> <td>差引(イ)</td> <td style="text-align: right;">510,280 百万円</td> </tr> <tr> <td>地震保険及び自動車損害賠償責任保険に係る支払備金(ロ)</td> <td style="text-align: right;">49,212 百万円</td> </tr> <tr> <td>計（イ+ロ）</td> <td style="text-align: right;">559,493 百万円</td> </tr> </table> <p>※8 責任準備金の内訳は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">普通責任準備金（出再責任準備金控除前）</td> <td style="text-align: right;">1,032,808 百万円</td> </tr> <tr> <td>同上に係る出再責任準備金</td> <td style="text-align: right;">36,837 百万円</td> </tr> <tr> <td>差引(イ)</td> <td style="text-align: right;">995,970 百万円</td> </tr> <tr> <td>払戻積立金（出再責任準備金控除前）</td> <td style="text-align: right;">2,049,266 百万円</td> </tr> <tr> <td>同上に係る出再責任準備金</td> <td style="text-align: right;">12 百万円</td> </tr> <tr> <td>差引(ロ)</td> <td style="text-align: right;">2,049,253 百万円</td> </tr> <tr> <td>その他の責任準備金(ハ)</td> <td style="text-align: right;">904,256 百万円</td> </tr> <tr> <td>計（イ+ロ+ハ）</td> <td style="text-align: right;">3,949,481 百万円</td> </tr> </table> <p>※9 消費貸借契約により貸し付けている有価証券が、国債、株式及び外国証券に合計88,481百万円含まれております。</p> <p>※10 リミテッド・パートナーシップが行う取引の履行に関して保証を行っております。なお、当該取引の当事業年度末時点における当該保証対象取引の現在価値の合計額は296,290百万円であり、実質保証額がないため、支払承諾見返及び支払承諾には計上しておりません。</p>	支払備金（出再支払備金控除前、(ロ)に掲げる保険を除く）	564,259 百万円	同上に係る出再支払備金	53,979 百万円	差引(イ)	510,280 百万円	地震保険及び自動車損害賠償責任保険に係る支払備金(ロ)	49,212 百万円	計（イ+ロ）	559,493 百万円	普通責任準備金（出再責任準備金控除前）	1,032,808 百万円	同上に係る出再責任準備金	36,837 百万円	差引(イ)	995,970 百万円	払戻積立金（出再責任準備金控除前）	2,049,266 百万円	同上に係る出再責任準備金	12 百万円	差引(ロ)	2,049,253 百万円	その他の責任準備金(ハ)	904,256 百万円	計（イ+ロ+ハ）	3,949,481 百万円	<p>(3) 貸付金のうち、貸付条件緩和債権額は2,043百万円であります。</p> <p>なお、貸付条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸付金で、破綻先債権、延滞債権及び3カ月以上延滞債権に該当しないものであります。</p> <p>(4) 破綻先債権額、延滞債権額、3カ月以上延滞債権額及び貸付条件緩和債権額の合計額は6,766百万円であります。</p> <p>※7 支払備金の内訳は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">支払備金（出再支払備金控除前、(ロ)に掲げる保険を除く）</td> <td style="text-align: right;">542,274 百万円</td> </tr> <tr> <td>同上に係る出再支払備金</td> <td style="text-align: right;">50,319 百万円</td> </tr> <tr> <td>差引(イ)</td> <td style="text-align: right;">491,954 百万円</td> </tr> <tr> <td>地震保険及び自動車損害賠償責任保険に係る支払備金(ロ)</td> <td style="text-align: right;">48,233 百万円</td> </tr> <tr> <td>計（イ+ロ）</td> <td style="text-align: right;">540,188 百万円</td> </tr> </table> <p>※8 責任準備金の内訳は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">普通責任準備金（出再責任準備金控除前）</td> <td style="text-align: right;">1,032,161 百万円</td> </tr> <tr> <td>同上に係る出再責任準備金</td> <td style="text-align: right;">37,575 百万円</td> </tr> <tr> <td>差引(イ)</td> <td style="text-align: right;">994,585 百万円</td> </tr> <tr> <td>払戻積立金（出再責任準備金控除前）</td> <td style="text-align: right;">1,959,385 百万円</td> </tr> <tr> <td>同上に係る出再責任準備金</td> <td style="text-align: right;">11 百万円</td> </tr> <tr> <td>差引(ロ)</td> <td style="text-align: right;">1,959,373 百万円</td> </tr> <tr> <td>その他の責任準備金(ハ)</td> <td style="text-align: right;">891,917 百万円</td> </tr> <tr> <td>計（イ+ロ+ハ）</td> <td style="text-align: right;">3,845,876 百万円</td> </tr> </table> <p>※9 消費貸借契約により貸し付けている有価証券が、国債、株式及び外国証券に合計39,791百万円含まれております。</p> <p>※10 リミテッド・パートナーシップが行う取引の履行に関して保証を行っております。なお、当事業年度末時点における当該保証対象取引の現在価値の合計額は177,933百万円であり、実質保証額がないため、支払承諾見返及び支払承諾には計上しておりません。</p>	支払備金（出再支払備金控除前、(ロ)に掲げる保険を除く）	542,274 百万円	同上に係る出再支払備金	50,319 百万円	差引(イ)	491,954 百万円	地震保険及び自動車損害賠償責任保険に係る支払備金(ロ)	48,233 百万円	計（イ+ロ）	540,188 百万円	普通責任準備金（出再責任準備金控除前）	1,032,161 百万円	同上に係る出再責任準備金	37,575 百万円	差引(イ)	994,585 百万円	払戻積立金（出再責任準備金控除前）	1,959,385 百万円	同上に係る出再責任準備金	11 百万円	差引(ロ)	1,959,373 百万円	その他の責任準備金(ハ)	891,917 百万円	計（イ+ロ+ハ）	3,845,876 百万円
支払備金（出再支払備金控除前、(ロ)に掲げる保険を除く）	564,259 百万円																																																				
同上に係る出再支払備金	53,979 百万円																																																				
差引(イ)	510,280 百万円																																																				
地震保険及び自動車損害賠償責任保険に係る支払備金(ロ)	49,212 百万円																																																				
計（イ+ロ）	559,493 百万円																																																				
普通責任準備金（出再責任準備金控除前）	1,032,808 百万円																																																				
同上に係る出再責任準備金	36,837 百万円																																																				
差引(イ)	995,970 百万円																																																				
払戻積立金（出再責任準備金控除前）	2,049,266 百万円																																																				
同上に係る出再責任準備金	12 百万円																																																				
差引(ロ)	2,049,253 百万円																																																				
その他の責任準備金(ハ)	904,256 百万円																																																				
計（イ+ロ+ハ）	3,949,481 百万円																																																				
支払備金（出再支払備金控除前、(ロ)に掲げる保険を除く）	542,274 百万円																																																				
同上に係る出再支払備金	50,319 百万円																																																				
差引(イ)	491,954 百万円																																																				
地震保険及び自動車損害賠償責任保険に係る支払備金(ロ)	48,233 百万円																																																				
計（イ+ロ）	540,188 百万円																																																				
普通責任準備金（出再責任準備金控除前）	1,032,161 百万円																																																				
同上に係る出再責任準備金	37,575 百万円																																																				
差引(イ)	994,585 百万円																																																				
払戻積立金（出再責任準備金控除前）	1,959,385 百万円																																																				
同上に係る出再責任準備金	11 百万円																																																				
差引(ロ)	1,959,373 百万円																																																				
その他の責任準備金(ハ)	891,917 百万円																																																				
計（イ+ロ+ハ）	3,845,876 百万円																																																				

前事業年度 (平成21年3月31日)	当事業年度 (平成22年3月31日)
<p>11 子会社等に対する債務保証及び保証類似行為は、次のとおりであります。</p> <p>(債務保証) 子会社であるMSI Corporate Capital Limitedの保険引受に関して、35,112百万円の保証を行っております。</p> <p>(保証類似行為) 提出会社は、三井住友海上グループホールディングス株式会社の関連会社である三井住友海上メットライフ生命保険株式会社及び海外子会社5社との間で、各社の純資産額が一定水準を下回った場合、又は債務の支払いに必要な流動資産が不足した場合等に、各社に対して資金を提供すること等を約した契約をそれぞれ締結しております。なお、三井住友海上メットライフ生命保険株式会社との契約においては、三井住友海上グループホールディングス株式会社が提出会社と連帯して契約上の義務を負っております。各社の当事業年度末における負債合計は、2,675,289百万円（保険契約準備金2,608,339百万円を含む）であり、資産合計は2,847,374百万円であります。</p> <p>なお、当事業年度末において、各社の純資産は一定水準を超えており、かつ流動資産の不足等も発生しておりません。</p> <p>※12 貸出コミットメント契約に係る融資未実行残高は3,164百万円であります。</p> <p>※13 無形固定資産のうち主なものは借地権3,472百万円あります。</p>	<p>11 子会社等に対する債務保証及び保証類似行為は、次のとおりであります。</p> <p>(債務保証) 子会社であるMSI Corporate Capital Limitedの保険引受に関して、36,784百万円の保証を行っております。</p> <p>(保証類似行為) 提出会社は、三井住友海上グループホールディングス株式会社（現MS &amp; ADインシュアランスグループホールディングス株式会社）の関連会社である三井住友海上メットライフ生命保険株式会社及び海外子会社4社との間で、各社の純資産額が一定水準を下回った場合、又は債務の支払いに必要な流動資産が不足した場合等に、各社に対して資金を提供すること等を約した契約をそれぞれ締結しております。なお、三井住友海上メットライフ生命保険株式会社との契約においては、三井住友海上グループホールディングス株式会社が提出会社と連帯して契約上の義務を負っております。各社の当事業年度末における負債合計は、3,268,884百万円（保険契約準備金3,171,800百万円を含む）であり、資産合計は3,428,452百万円あります。</p> <p>なお、当事業年度末において、各社の純資産は一定水準を超えており、かつ流動資産の不足等も発生しておりません。</p> <p>※12 貸出コミットメント契約に係る融資未実行残高は1,856百万円あります。</p>

## (損益計算書関係)

前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
1 関係会社との取引による収益(収入保険料、収入利息等)の総額は38,057百万円、費用(業務委託手数料、保険金等)の総額は70,153百万円であります。	1 関係会社との取引による収益(収入保険料、有価証券利息・配当金等)の総額は40,110百万円、費用(業務委託費、支払保険金等)の総額は63,343百万円であります。
※2 正味収入保険料の内訳 収入保険料 1,452,970 百万円 支払再保険料 218,958 百万円 差引 1,234,011 百万円	※2 正味収入保険料の内訳 収入保険料 1,415,948 百万円 支払再保険料 212,940 百万円 差引 1,203,007 百万円
※3 正味支払保険金の内訳 支払保険金 951,462 百万円 回収再保険金 166,658 百万円 差引 784,803 百万円	※3 正味支払保険金の内訳 支払保険金 934,849 百万円 回収再保険金 162,852 百万円 差引 771,996 百万円
※4 諸手数料及び集金費の内訳 支払諸手数料及び集金費 228,057 百万円 出再保険手数料 20,154 百万円 差引 207,902 百万円	※4 諸手数料及び集金費の内訳 支払諸手数料及び集金費 227,020 百万円 出再保険手数料 19,892 百万円 差引 207,128 百万円
※5 支払備金繰入額(△は支払備金戻入額)の内訳は次のとおりであります。 支払備金繰入額(出再支払備金控除前、(ロ)に掲げる保険を除く) △36,552 百万円 同上に係る出再支払備金繰入額 △6,638 百万円 差引(イ) △29,914 百万円 地震保険及び自動車損害賠償責任保険に係る支払備金繰入額(ロ) △575 百万円 計(イ+ロ) △30,489 百万円	※5 支払備金繰入額(△は支払備金戻入額)の内訳は次のとおりであります。 支払備金繰入額(出再支払備金控除前、(ロ)に掲げる保険を除く) △21,984 百万円 同上に係る出再支払備金繰入額 △3,659 百万円 差引(イ) △18,325 百万円 地震保険及び自動車損害賠償責任保険に係る支払備金繰入額(ロ) △978 百万円 計(イ+ロ) △19,304 百万円
※6 責任準備金繰入額(△は責任準備金戻入額)の内訳は次のとおりであります。 普通責任準備金繰入額(出再責任準備金控除前) △9,502 百万円 同上に係る出再責任準備金繰入額 △3,189 百万円 差引(イ) △6,312 百万円 払戻積立金繰入額(出再責任準備金控除前) △78,091 百万円 同上に係る出再責任準備金繰入額 △3 百万円 差引(ロ) △78,087 百万円 その他の責任準備金繰入額(ハ) △31,554 百万円 計(イ+ロ+ハ) △115,955 百万円	※6 責任準備金繰入額(△は責任準備金戻入額)の内訳は次のとおりであります。 普通責任準備金繰入額(出再責任準備金控除前) △647 百万円 同上に係る出再責任準備金繰入額 738 百万円 差引(イ) △1,385 百万円 払戻積立金繰入額(出再責任準備金控除前) △89,881 百万円 同上に係る出再責任準備金繰入額 △0 百万円 差引(ロ) △89,880 百万円 その他の責任準備金繰入額(ハ) △12,339 百万円 計(イ+ロ+ハ) △103,605 百万円

前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)		当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)																																																						
※7	利息及び配当金収入の内訳	※7	利息及び配当金収入の内訳																																																					
	<table border="1"> <tr><td>預貯金利息</td><td>4,431</td><td>百万円</td></tr> <tr><td>コールローン利息</td><td>80</td><td>百万円</td></tr> <tr><td>買現先勘定利息</td><td>22</td><td>百万円</td></tr> <tr><td>買入金銭債権利息</td><td>2,031</td><td>百万円</td></tr> <tr><td>有価証券利息・配当金</td><td>108,023</td><td>百万円</td></tr> <tr><td>貸付金利息</td><td>15,490</td><td>百万円</td></tr> <tr><td>不動産賃貸料</td><td>7,165</td><td>百万円</td></tr> <tr><td>その他利息</td><td>631</td><td>百万円</td></tr> <tr><td>計</td><td>137,877</td><td>百万円</td></tr> </table>	預貯金利息	4,431	百万円	コールローン利息	80	百万円	買現先勘定利息	22	百万円	買入金銭債権利息	2,031	百万円	有価証券利息・配当金	108,023	百万円	貸付金利息	15,490	百万円	不動産賃貸料	7,165	百万円	その他利息	631	百万円	計	137,877	百万円	<table border="1"> <tr><td>預貯金利息</td><td>2,475</td><td>百万円</td></tr> <tr><td>コールローン利息</td><td>28</td><td>百万円</td></tr> <tr><td>買現先勘定利息</td><td>23</td><td>百万円</td></tr> <tr><td>買入金銭債権利息</td><td>1,821</td><td>百万円</td></tr> <tr><td>有価証券利息・配当金</td><td>90,385</td><td>百万円</td></tr> <tr><td>貸付金利息</td><td>14,330</td><td>百万円</td></tr> <tr><td>不動産賃貸料</td><td>7,460</td><td>百万円</td></tr> <tr><td>その他利息・配当金</td><td>951</td><td>百万円</td></tr> <tr><td>計</td><td>117,477</td><td>百万円</td></tr> </table>	預貯金利息	2,475	百万円	コールローン利息	28	百万円	買現先勘定利息	23	百万円	買入金銭債権利息	1,821	百万円	有価証券利息・配当金	90,385	百万円	貸付金利息	14,330	百万円	不動産賃貸料	7,460	百万円	その他利息・配当金	951	百万円	計	117,477	百万円
預貯金利息	4,431	百万円																																																						
コールローン利息	80	百万円																																																						
買現先勘定利息	22	百万円																																																						
買入金銭債権利息	2,031	百万円																																																						
有価証券利息・配当金	108,023	百万円																																																						
貸付金利息	15,490	百万円																																																						
不動産賃貸料	7,165	百万円																																																						
その他利息	631	百万円																																																						
計	137,877	百万円																																																						
預貯金利息	2,475	百万円																																																						
コールローン利息	28	百万円																																																						
買現先勘定利息	23	百万円																																																						
買入金銭債権利息	1,821	百万円																																																						
有価証券利息・配当金	90,385	百万円																																																						
貸付金利息	14,330	百万円																																																						
不動産賃貸料	7,460	百万円																																																						
その他利息・配当金	951	百万円																																																						
計	117,477	百万円																																																						
※8	金銭の信託運用益及び金銭の信託運用損中の評価損益は788百万円の益であります。また、金融派生商品費用中の評価損益は8,052百万円の損であります。	※8	金銭の信託運用益及び金銭の信託運用損中の評価損益は1,406百万円の益であります。また、金融派生商品収益中の評価損益は26,900百万円の益であります。																																																					
※9	当事業年度において、以下の資産について減損損失を計上しております。	※9	当事業年度において、以下の資産について減損損失を計上しております。																																																					
	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">用途</th> <th rowspan="2">種類</th> <th rowspan="2">資産</th> <th colspan="2">減損損失(百万円)</th> </tr> <tr> <th colspan="2">内訳</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">賃貸不動産</td> <td rowspan="2">土地及び建物</td> <td rowspan="2">群馬県内に保有する賃貸用ビル</td> <td rowspan="2">371</td> <td>土地</td> <td>104</td> </tr> <tr> <td>建物</td> <td>267</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">遊休不動産及び売却予定不動産</td> <td rowspan="2">土地及び建物</td> <td rowspan="2">新潟県内に保有する事務所ビルなど7物件</td> <td rowspan="2">671</td> <td>土地</td> <td>157</td> </tr> <tr> <td>建物</td> <td>514</td> </tr> </tbody> </table>	用途	種類	資産	減損損失(百万円)		内訳		賃貸不動産	土地及び建物	群馬県内に保有する賃貸用ビル	371	土地	104	建物	267	遊休不動産及び売却予定不動産	土地及び建物	新潟県内に保有する事務所ビルなど7物件	671	土地	157	建物	514	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">用途</th> <th rowspan="2">種類</th> <th rowspan="2">資産</th> <th colspan="2">減損損失(百万円)</th> </tr> <tr> <th colspan="2">内訳</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">賃貸不動産</td> <td rowspan="2">土地及び建物</td> <td rowspan="2">愛知県内に保有する賃貸用ビルなど2物件</td> <td rowspan="2">1,358</td> <td>土地</td> <td>526</td> </tr> <tr> <td>建物</td> <td>831</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">遊休不動産及び売却予定不動産</td> <td rowspan="2">土地及び建物</td> <td rowspan="2">千葉県内に保有する社宅など3物件</td> <td rowspan="2">2,073</td> <td>土地</td> <td>1,882</td> </tr> <tr> <td>建物</td> <td>190</td> </tr> </tbody> </table>	用途	種類	資産	減損損失(百万円)		内訳		賃貸不動産	土地及び建物	愛知県内に保有する賃貸用ビルなど2物件	1,358	土地	526	建物	831	遊休不動産及び売却予定不動産	土地及び建物	千葉県内に保有する社宅など3物件	2,073	土地	1,882	建物	190								
用途	種類				資産	減損損失(百万円)																																																		
		内訳																																																						
賃貸不動産	土地及び建物	群馬県内に保有する賃貸用ビル	371	土地	104																																																			
				建物	267																																																			
遊休不動産及び売却予定不動産	土地及び建物	新潟県内に保有する事務所ビルなど7物件	671	土地	157																																																			
				建物	514																																																			
用途	種類	資産	減損損失(百万円)																																																					
			内訳																																																					
賃貸不動産	土地及び建物	愛知県内に保有する賃貸用ビルなど2物件	1,358	土地	526																																																			
				建物	831																																																			
遊休不動産及び売却予定不動産	土地及び建物	千葉県内に保有する社宅など3物件	2,073	土地	1,882																																																			
				建物	190																																																			
	<p>保険事業等の用に供している不動産等について保険事業等全体で1つの資産グループとし、賃貸不動産、遊休不動産及び売却予定不動産等については個別の物件毎にグルーピングしております。</p> <p>不動産価格が下落したこと及び未使用となったこと等により、上記の資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失(1,043百万円)として特別損失に計上しております。</p> <p>なお、当該資産の回収可能価額は正味売却価額と使用価値のいずれか高い価額としております。正味売却価額は不動産鑑定士による鑑定評価額又は路線価方式による相続税評価額を基に算出し、使用価値は将来キャッシュ・フローを5.4%で割り引いて算定しております。</p>		<p>保険事業等の用に供している不動産等について保険事業等全体で1つの資産グループとし、賃貸不動産、遊休不動産及び売却予定不動産等については個別の物件毎にグルーピングしております。</p> <p>不動産価格が下落したこと及び売却予定となったこと等により、上記の資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失(3,431百万円)として特別損失に計上しております。</p> <p>なお、当該資産の回収可能価額は正味売却価額と使用価値のいずれか高い価額としております。正味売却価額は不動産鑑定士による鑑定評価額を基に算出し、使用価値は将来キャッシュ・フローを5.5%で割り引いて算定しております。</p>																																																					

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

該当事項はありません。

当事業年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

該当事項はありません。

## (リース取引関係)

前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)																								
<p>1 ファイナンス・リース取引</p> <p>(1) 所有権移転外ファイナンス・リース取引 重要なものはありません。</p> <p>(2) 通常の賃貸借取引に係る方法に準じて会計処理を行っている所有権移転外ファイナンス・リース取引 当事業年度末において該当のリース物件がないため、記載を省略しております。</p> <p>2 オペレーティング・リース取引 オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料</p> <p>(借手側)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">1年内</td> <td style="width: 50%; text-align: right;">562 百万円</td> </tr> <tr> <td>1年超</td> <td style="text-align: right;">1,267 百万円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">1,829 百万円</td> </tr> </table> <p>(貸手側)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">1年内</td> <td style="width: 50%; text-align: right;">1,018 百万円</td> </tr> <tr> <td>1年超</td> <td style="text-align: right;">4,391 百万円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">5,410 百万円</td> </tr> </table>	1年内	562 百万円	1年超	1,267 百万円	合計	1,829 百万円	1年内	1,018 百万円	1年超	4,391 百万円	合計	5,410 百万円	<p style="text-align: center;">—————</p> <p>オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料</p> <p>(借手側)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">1年内</td> <td style="width: 50%; text-align: right;">474 百万円</td> </tr> <tr> <td>1年超</td> <td style="text-align: right;">838 百万円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">1,312 百万円</td> </tr> </table> <p>(貸手側)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">1年内</td> <td style="width: 50%; text-align: right;">1,024 百万円</td> </tr> <tr> <td>1年超</td> <td style="text-align: right;">3,383 百万円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">4,407 百万円</td> </tr> </table>	1年内	474 百万円	1年超	838 百万円	合計	1,312 百万円	1年内	1,024 百万円	1年超	3,383 百万円	合計	4,407 百万円
1年内	562 百万円																								
1年超	1,267 百万円																								
合計	1,829 百万円																								
1年内	1,018 百万円																								
1年超	4,391 百万円																								
合計	5,410 百万円																								
1年内	474 百万円																								
1年超	838 百万円																								
合計	1,312 百万円																								
1年内	1,024 百万円																								
1年超	3,383 百万円																								
合計	4,407 百万円																								

## (有価証券関係)

前事業年度 (平成21年3月31日)

子会社株式及び関連会社株式で時価のあるものはありません。

当事業年度 (平成22年3月31日)

子会社株式及び関連会社株式 (貸借対照表計上額 子会社株式等288,385百万円、関連会社株式等10,449百万円) は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、時価開示の対象とはしていません。

## (税効果会計関係)

前事業年度 (平成21年3月31日)		当事業年度 (平成22年3月31日)	
1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳		1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳	
	(百万円)		(百万円)
繰延税金資産		繰延税金資産	
有価証券	48,895	有価証券	40,480
土地等	11,126	土地等	12,037
支払備金	17,126	ソフトウェア	18,292
責任準備金	170,246	支払備金	20,057
退職給付引当金	28,718	責任準備金	180,141
ソフトウェア	18,512	退職給付引当金	29,244
その他	28,221	その他	17,315
繰延税金資産小計	322,849	繰延税金資産小計	317,568
評価性引当額	△17,542	評価性引当額	△18,008
繰延税金資産合計	305,307	繰延税金資産合計	299,560
繰延税金負債		繰延税金負債	
その他有価証券評価差額金	△160,584	その他有価証券評価差額金	△320,652
その他	△11,641	その他	△8,305
繰延税金負債合計	△172,225	繰延税金負債合計	△328,957
繰延税金資産の純額	133,081	繰延税金負債の純額	△29,397
2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳		2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳	
	(%)		(%)
国内の法定実効税率 (調整)	36.1	国内の法定実効税率 (調整)	36.1
受取配当等の益金不算入額	△16.6	受取配当等の益金不算入額	△14.6
現物配当に伴うみなし譲渡損失	△16.5	外国税額控除	△3.0
交際費等の損金不算入額	2.0	交際費等の損金不算入額	2.3
その他	0.3	その他	2.4
税効果会計適用後の法人税等の負担率	5.3	税効果会計適用後の法人税等の負担率	23.2

## (1株当たり情報)

前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)		当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	
1株当たり純資産額	670.34円	1株当たり純資産額	858.24円
1株当たり当期純利益金額	33.16円	1株当たり当期純利益金額	18.12円

- (注) 1 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。  
2 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
当期純利益 (百万円)	46,580	25,458
普通株式に係る当期純利益 (百万円)	46,580	25,458
普通株式の期中平均株式数 (千株)	1,404,402	1,404,402

- 3 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度末 (平成21年3月31日)	当事業年度末 (平成22年3月31日)
純資産の部の合計額 (百万円)	941,431	1,205,315
普通株式に係る期末の純資産額 (百万円)	941,431	1,205,315
1株当たり純資産額の算定に用いられた 期末の普通株式の数 (千株)	1,404,402	1,404,402

## (重要な後発事象)

前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
	(資本提携及び業務提携) 提出会社は、平成22年6月18日、マレーシアの有力 コングロマリットであるHong Leong Financial Group と損害保険事業・生命保険事業にわたる戦略的提携を 行うことに関する基本契約書を締結いたしました。な お、詳細につきましては、「1 連結財務諸表等 重 要な後発事象」に記載しております。



## ④【附属明細表】

## イ【事業費明細表】

区分	金額（百万円）
損害調査費・営業費及び一般管理費	
人件費	156,513
給与	(109,895)
賞与引当金繰入額	(10,375)
退職金	(94)
退職給付引当金繰入額	(17,156)
役員退職慰労引当金繰入額	(13)
厚生費	(18,978)
物件費	123,095
減価償却費	(18,651)
土地建物機械賃借料	(11,775)
営繕費	(2,977)
旅費交通費	(4,163)
通信費	(7,236)
事務費	(12,428)
広告費	(2,042)
諸会費・寄附金・交際費	(7,323)
その他物件費	(56,497)
税金	12,877
拋出金	14
負担金	902
計	293,404
(損害調査費)	(74,487)
(営業費及び一般管理費)	(218,916)
諸手数料及び集金費	
代理店手数料等	210,740
保険仲立人手数料	553
募集費	—
集金費	5,919
受再保険手数料	9,806
出再保険手数料	△19,892
計	207,128
事業費合計	500,532

(注) 1 金額は当事業年度の損益計算書における損害調査費、営業費及び一般管理費並びに諸手数料及び集金費の合計額であります。

2 その他物件費の主な内訳はシステム関係費、業務委託費であります。

3 負担金は保険業法第265条の33の規定に基づく保険契約者保護機構負担金であります。

ロ【有形固定資産等明細表】

資産の種類	前期末残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)	当期末減価償 却累計額又は 償却累計額 (百万円)	当期償却額 (百万円)	差引当期末 残高 (百万円)
有形固定資産							
土地	—	—	—	94,567	—	—	94,567
建物	—	—	—	353,082	229,929	9,365	123,153
建設仮勘定	—	—	—	4,410	—	—	4,410
その他の有形固定資産	—	—	—	62,533	45,328	8,897	17,204
有形固定資産計	—	—	—	514,593	275,257	18,263	239,336
無形固定資産							
ソフトウェア	—	—	—	4,000	382	382	3,617
その他の無形固定資産	—	—	—	3,959	111	5	3,847
無形固定資産計	—	—	—	7,959	494	387	7,465
長期前払費用	—	—	—	—	—	—	—
繰延資産							
—	—	—	—	—	—	—	—
繰延資産計	—	—	—	—	—	—	—

(注) 1 有形固定資産については、当期における増加額及び減少額がいずれも当期末における有形固定資産の総額の5%以下であるため、前期末残高、当期増加額及び当期減少額の記載を省略しております。

2 無形固定資産については、資産の総額の1%以下であるため、前期末残高、当期増加額及び当期減少額の記載を省略しております。

ハ【引当金明細表】

区分	前期末残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (目的使用) (百万円)	当期減少額 (その他) (百万円)	当期末残高 (百万円)
貸倒引当金					
一般貸倒引当金	1,350	1,338	—	1,350	1,338
個別貸倒引当金	4,181	2,667	93	88	6,666
貸倒引当金計	5,531	4,005	93	1,438	8,004
役員退職慰労引当金	2,311	13	321	—	2,003
賞与引当金	10,317	10,375	10,317	—	10,375
価格変動準備金	2,871	2,689	2,871	—	2,689

(注) 1 一般貸倒引当金の当期減少額(その他)は、洗替による取崩額であります。

2 個別貸倒引当金の当期減少額(その他)は、回収等による取崩額であります。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

当期末（平成22年3月31日現在）における主な資産及び負債の内容は次のとおりであります。

① 現金及び預貯金

現金及び預貯金の内訳は次のとおりであります。

区分	当期末残高（百万円）
現金	333
預貯金	183,053
（郵便振替・郵便貯金）	(939)
（当座預金）	(3,657)
（普通預金）	(12,426)
（通知預金）	(36,410)
（定期預金）	(87,867)
（譲渡性預金）	(41,750)
（別段預金）	(3)
計	183,387

② 買現先勘定

買現先勘定の内訳は次のとおりであります。

区分	当期末残高（百万円）
コマーシャルペーパー	15,998
計	15,998

③ 買入金銭債権

買入金銭債権の内訳は次のとおりであります。

区分	当期末残高（百万円）
コマーシャルペーパー	28,668
貸付債権信託受益権	73,352
その他買入金銭債権	6
計	102,027

④ 金銭の信託

金銭の信託の内訳は次のとおりであります。

区分	当期末残高（百万円）
指定金銭信託	1,500
特定金外信託	9,024
計	10,524

⑤ 有価証券

有価証券の内訳及び異動明細は次のとおりであります。

区分	前期末残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期評価益 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期評価損 (百万円)	評価差額 (百万円)	当期末残高 (百万円)
国債	359,394	127,721	—	11,461	—	△6,114	469,539
地方債	127,410	14,281	—	26,612	—	△658	114,421
社債	1,131,864	78,170	—	157,561	—	20,405	1,072,879
株式	1,379,633	14,542	—	22,751	2,945	355,440	1,723,919
外国証券	1,037,482	117,532	—	318,276	1,423	65,163	900,478
その他の証券	59,534	8,938	—	30,249	508	8,422	46,138
計	4,095,321	361,186	—	566,912	4,877	442,659	4,327,376

有価証券中その主要部分を占める株式の内訳は次のとおりであります。

区分	株数 (株)	貸借対照表計上額	
		金額 (百万円)	構成比 (%)
輸送用機器	251,198,869	482,730	28.00
商業	199,019,649	194,650	11.29
金融保険業	253,579,021	174,011	10.10
電気機器	202,632,559	167,597	9.72
化学	196,991,129	163,767	9.50
陸運業	130,979,122	77,851	4.52
その他製品	41,642,364	62,786	3.64
機械	54,089,741	58,818	3.41
海運業	91,720,065	41,604	2.41
鉄鋼	86,004,091	39,554	2.30
その他	391,282,275	260,544	15.11
計	1,899,138,885	1,723,919	100.00

(注) 1 業種別区分は、証券取引所の業種分類に準じております。

2 化学は医薬品を、陸運業は空運業を含んでおります。また、卸売業及び小売業は商業として、銀行業、保険業及びその他金融業は金融保険業として記載しております。

⑥ 貸付金

イ 貸付金担保別内訳

貸付金の担保別内訳は次のとおりであります。

区分	前期末残高 (百万円)	構成比 (%)	当期末残高 (百万円)	構成比 (%)
担保貸付	9,887	1.31	7,926	1.10
有価証券担保貸付	(—)	(—)	(—)	(—)
不動産・動産・財団担保貸付	(9,561)	(1.27)	(7,517)	(1.04)
指名債権担保貸付	(326)	(0.04)	(408)	(0.06)
保証貸付	396,008	52.47	395,861	55.09
信用貸付	328,863	43.58	299,022	41.61
その他	5,344	0.71	2,336	0.33
一般貸付計	740,103	98.07	705,147	98.13
約款貸付	14,542	1.93	13,440	1.87
合計	754,645	100.00	718,587	100.00
(うち劣後特約付き貸付)	(49,800)	(6.60)	(46,800)	(6.51)

ロ 貸付金業種別内訳

貸付金の業種別内訳は次のとおりであります。

区分	前期末残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	当期増減(△)額 (百万円)
農林・水産業	—	—	—
鉱業・採石業・砂利採取業	—	—	—
建設業	693	730	37
製造業	35,549	37,023	1,474
卸売業・小売業	33,584	31,632	△1,952
金融業・保険業	106,813	81,595	△25,218
不動産業・物品賃貸業	89,231	86,681	△2,550
情報通信業	7,290	7,126	△163
運輸業・郵便業	20,753	19,150	△1,603
電気・ガス・熱供給・水道業	4,126	3,896	△229
サービス業等	12,607	10,473	△2,133
その他 (うち個人住宅・消費者ローン)	427,439 (384,167)	425,150 (386,463)	△2,289 (2,295)
計	738,090	703,462	△34,627
公共団体	—	—	—
公社・公団	2,013	1,685	△328
約款貸付	14,542	13,440	△1,101
合計	754,645	718,587	△36,058

(注) 業種別区分は、日本標準産業分類の大分類に準じております。

⑦ その他資産

イ 未収保険料・代理店貸

未収保険料は、元受保険契約の保険料の未収入金で当社直扱のものを示し、代理店貸は、元受保険契約の保険料の未収入金で代理店扱のもの（ただし、代理店手数料を差引いた正味）を示しております。

平成22年3月31日現在における未収保険料及び代理店貸の種目別の残高は次のとおりであります。

区分	火災 (百万円)	海上 (百万円)	傷害 (百万円)	自動車 (百万円)	自動車損害 賠償責任 (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)
未収保険料	657	1,317	106	421	—	945	3,448
代理店貸	13,180	3,209	14,862	45,619	—	5,834	82,707
計	13,838	4,527	14,968	46,040	—	6,780	86,155

(注) 停滞期間 =  $\frac{\text{未収保険料(計)} + \text{代理店貸(計)}}{\text{月平均保険料(元受保険料} - \text{諸返戻金} - \text{代理店手数料)}} = 0.86\text{カ月}$

ロ 外国代理店貸 2百万円

外国代理店が管理する当社勘定残高を示す勘定であります。

ハ 共同保険貸 7,898百万円

当社が共同保険の幹事会社として立替払いした同業他社の保険金のうち、未回収額を示す勘定であります。

ニ 再保険貸 50,970百万円

当社と国内の同業他社との間の再保険授受によって生ずる未回収額を示す勘定であります。

ホ 外国再保険貸 14,705百万円

当社と外国所在の同業他社との間の再保険授受によって生ずる未回収額を示す勘定であります。

ヘ 地震保険預託金 76,556百万円

地震保険の受再保険料及び運用益を日本地震再保険株式会社に預託しているものであります。

ト 仮払金 40,585百万円

帰属する勘定科目が未定の支払及び内払的性質の支払金であって、その主なものは自動車及び自動車損害賠償責任保険の保険金一括払に係る支払分22,156百万円であります。

⑧ 支払承諾見返

支払承諾見返の担保別内訳は次のとおりであります。

区分	前期末残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)
有価証券	—	—
不動産・動産・財団	—	—
指名債権	—	—
保証	—	—
信用	5,527	4,577
その他	—	—
計	5,527	4,577

⑨ 保険契約準備金

イ 支払備金

540,188 百万円

当期末において既に発生した又は発生したと認められる損害につき、将来保険契約に基づいて補償するに必要と認められる金額を保険業法第117条、同施行規則第72条及び第73条の規定に基づき積み立てたものであります。

ロ 責任準備金

3,845,876 百万円

将来発生することあるべき損害及び異常災害損失のてん補並びに将来支払期日が到来する払戻金及び返戻金等の支払に充てるなど保険契約上の責任遂行のため、保険業法第116条、同施行規則第70条及び第71条の規定に基づき積み立てたものであります。

当期末における支払備金及び責任準備金を主要な営業保険種目別に示すと次のとおりであります。

区分	支払備金 (百万円)	責任準備金 (百万円)	(うち異常危険準備金) (百万円)	計 (百万円)
火災	49,592	1,071,102	(216,854)	1,120,694
海上	26,021	82,871	(62,295)	108,892
傷害	54,491	1,770,146	(74,681)	1,824,638
自動車	251,960	191,053	(17,188)	443,013
自動車損害賠償責任	48,233	302,207	(—)	350,441
その他	109,889	428,494	(127,576)	538,383
計	540,188	3,845,876	(498,596)	4,386,065

⑩ その他負債

イ 共同保険借

10,141 百万円

当社が共同保険の幹事会社として収納した同業他社分の保険料のうち未払額を示す勘定であります。

ロ 再保険借

36,161 百万円

当社と国内同業他社との間の再保険授受によって生ずる未払額を示す勘定であります。

ハ 外国再保険借

12,037 百万円

当社と外国所在の同業他社との間の再保険授受によって生ずる未払額を示す勘定であります。

ニ 仮受金

16,186 百万円

帰属する勘定科目が未定の受入金及び内入的性質を有する受入金であって、その主なものは自動車損害賠償責任保険の次年度以降に危険の開始する契約の保険料10,088百万円であります。

⑪ 支払承諾

支払承諾の残高内訳は次のとおりであります。

区分	前期末残高		当期末残高	
	口数 (口)	金額 (百万円)	口数 (口)	金額 (百万円)
融資に係る保証	—	—	—	—
社債等に係る保証	1	5,527	1	4,577
資産の流動化に係る保証	—	—	—	—
計	1	5,527	1	4,577

(3) 【その他】

該当事項はありません。



## 第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	4月1日から4か月以内
基準日	—
株券の種類	当社取締役会の定めるところによります。
剰余金の配当の基準日	3月31日 9月30日
1単元の株式数	1,000株
株式の名義書換え	
取扱場所	—
株主名簿管理人	—
取次所	—
名義書換手数料	—
新券交付手数料	—
単元未満株式の買取り	
取扱場所	—
株主名簿管理人	—
取次所	—
買取手数料	—
公告掲載方法	<p>電子公告といたします。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、東京都及び大阪市において発行される日本経済新聞に掲載して行います。</p> <p>なお、電子公告は当会社のホームページに掲載しており、そのアドレスは次のとおりであります。</p> <p><a href="http://www.ms-ins.com/company/notification/index.html">http://www.ms-ins.com/company/notification/index.html</a></p>
株主に対する特典	—

## 第7【提出会社の参考情報】

### 1【提出会社の親会社等の情報】

当社には、金融商品取引法第24の7第1項に規定する親会社等はありません。

### 2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

- (1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書 平成21年6月25日 関東財務局長に提出  
事業年度（第92期）（自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日）
- (2) 有価証券報告書の訂正報告書 平成21年6月22日 関東財務局長に提出  
事業年度（第87期）（自 平成15年4月1日 至 平成16年3月31日）の有価証券報告書に係る訂正報告書であります。
- (3) 有価証券報告書の訂正報告書 平成21年6月22日 関東財務局長に提出  
事業年度（第88期）（自 平成16年4月1日 至 平成17年3月31日）の有価証券報告書に係る訂正報告書であります。
- (4) 有価証券報告書の訂正報告書 平成21年6月22日 関東財務局長に提出  
事業年度（第89期）（自 平成17年4月1日 至 平成18年3月31日）の有価証券報告書に係る訂正報告書であります。
- (5) 有価証券報告書の訂正報告書 平成21年6月22日 関東財務局長に提出  
事業年度（第90期）（自 平成18年4月1日 至 平成19年3月31日）の有価証券報告書に係る訂正報告書であります。
- (6) 有価証券報告書の訂正報告書 平成21年5月20日 関東財務局長に提出  
事業年度（第91期）（自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日）の有価証券報告書に係る訂正報告書であります。
- (7) 半期報告書及び確認書 平成21年12月28日 関東財務局長に提出  
（第93期中）（自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日）
- (8) 半期報告書の訂正報告書及び確認書 平成21年5月20日 関東財務局長に提出  
（第92期中）（自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日）の半期報告書に係る訂正報告書及びその確認書であります。
- (9) 半期報告書の訂正報告書 平成21年6月22日 関東財務局長に提出  
（第91期中）（自 平成19年4月1日 至 平成19年9月30日）の半期報告書に係る訂正報告書であります。
- (10) 臨時報告書 平成22年4月1日 関東財務局長に提出  
企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号（代表取締役の異動）の規定に基づく臨時報告書であります。
- (11) 訂正発行登録書 平成21年5月20日 関東財務局長に提出
- (12) 訂正発行登録書 平成21年6月25日 関東財務局長に提出
- (13) 訂正発行登録書 平成21年12月28日 関東財務局長に提出
- (14) 訂正発行登録書 平成22年4月1日 関東財務局長に提出

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

# 独立監査人の監査報告書

平成21年6月25日

三井住友海上火災保険株式会社

取締役会 御中

あずさ監査法人

指定社員 公認会計士 平栗 郁朗 印  
業務執行社員

指定社員 公認会計士 久野 佳樹 印  
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている三井住友海上火災保険株式会社の平成20年4月1日から平成21年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書及び連結附属明細表について監査を行った。この連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、三井住友海上火災保険株式会社及び連結子会社の平成21年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

※1 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2 連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

# 独立監査人の監査報告書

平成22年6月29日

三井住友海上火災保険株式会社

取締役会 御中

あずさ監査法人

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 森 公高 印

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 平栗 郁朗 印

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 久野 佳樹 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている三井住友海上火災保険株式会社の平成21年4月1日から平成22年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書及び連結附属明細表について監査を行った。この連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、三井住友海上火災保険株式会社及び連結子会社の平成22年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

---

※1 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2 連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

# 独立監査人の監査報告書

平成21年6月25日

三井住友海上火災保険株式会社

取締役会 御中

あずさ監査法人

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 平栗 郁朗 印

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 久野 佳樹 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている三井住友海上火災保険株式会社の平成20年4月1日から平成21年3月31日までの第92期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、三井住友海上火災保険株式会社の平成21年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

※1 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2 財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

# 独立監査人の監査報告書

平成22年6月29日

三井住友海上火災保険株式会社

取締役会 御中

あずさ監査法人

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 森 公高 印

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 平栗 郁朗 印

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 久野 佳樹 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている三井住友海上火災保険株式会社の平成21年4月1日から平成22年3月31日までの第93期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、三井住友海上火災保険株式会社の平成22年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

---

※1 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2 財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。